

(案)

第2次 今治市食育推進計画

平成29年 月

今 治 市

目次

第1章 計画の概要

- 1 計画策定の趣旨 1
- 2 計画の位置づけ 1
- 3 計画の期間 1

第2章 「食」を取り巻く現状と課題

- 1 子どもの食生活 2
- 2 成人の食生活 7
- 3 地産地消について 10
- 4 食育について 10

第3章 これまでの取組と今後の展開 12

第4章 計画の基本的な考え方

- 1 基本理念 13
- 2 基本目標 13
- 3 施策についての基本的な方針 14
- 4 具体的な数値目標 15

第5章 施策の展開

- 1 食の安全・安心の確保 17
- 2 家庭・学校・地域等それぞれの役割に応じた食育の推進 18
- 3 生涯にわたるライフステージに応じた間断ない食育の推進 23
- 4 持続可能な農林水産業と地域の食文化に根ざした食育の推進 27

第6章 計画の推進

- 1 推進体制 31
- 2 計画の検証と評価 31

参考資料

- アンケート調査結果 34

第1章 計画策定の基本的事項

1 計画策定の趣旨

近年、食生活が多様化し、豊かになった一方で、栄養の偏りや食生活の乱れに起因する生活習慣病の増加、孤食や欠食の増加、食品ロスの増加、伝統的な食文化の危機など食をめぐる様々な問題が生じており、市民一人ひとりが食について考え、判断し、望ましい食生活を実践するには、家庭や個人の力だけでは難しくなっています。

そうした中、平成17年6月に「食育基本法」が施行され、本市でも平成22年6月にこれらを踏まえた食育推進基本計画を策定し、関係機関と連携しながら取り組みを進めてきました。

この度、食育推進基本計画の期間が満了したことから、平成26年に実施した食育に対する意識や日頃の食生活に関する意識調査の結果等を踏まえ、これまでの食育推進の成果と課題を分析整理し、前回の計画を見直すこととしました。

食育基本法や国の第3次食育推進基本計画及び第3次愛媛県食育推進計画の趣旨を踏まえつつ、今治市のこれまでの食育の取組をさらに一層推進するための指針として、今治市食と農のまちづくり条例第4条の規定に基づき、「第2次今治市食育推進計画」を策定します。

2 計画の位置づけ

- この計画は、食育基本法第18条第1項に規定する市町村食育推進計画として位置づけ、今治市食と農のまちづくり条例第4条の規定に基づき策定するものです。
- 家庭、学校、地域、企業、行政がそれぞれの役割に応じて、連携・協力しながら食育に取り組むための基本方針とします。
- 市の総合計画や健康づくり計画、子育て支援計画、福祉計画などの関連計画と整合・調整を図りながら推進するものとします。

3 計画の期間

計画の期間は、平成29年度から平成33年度までとします。

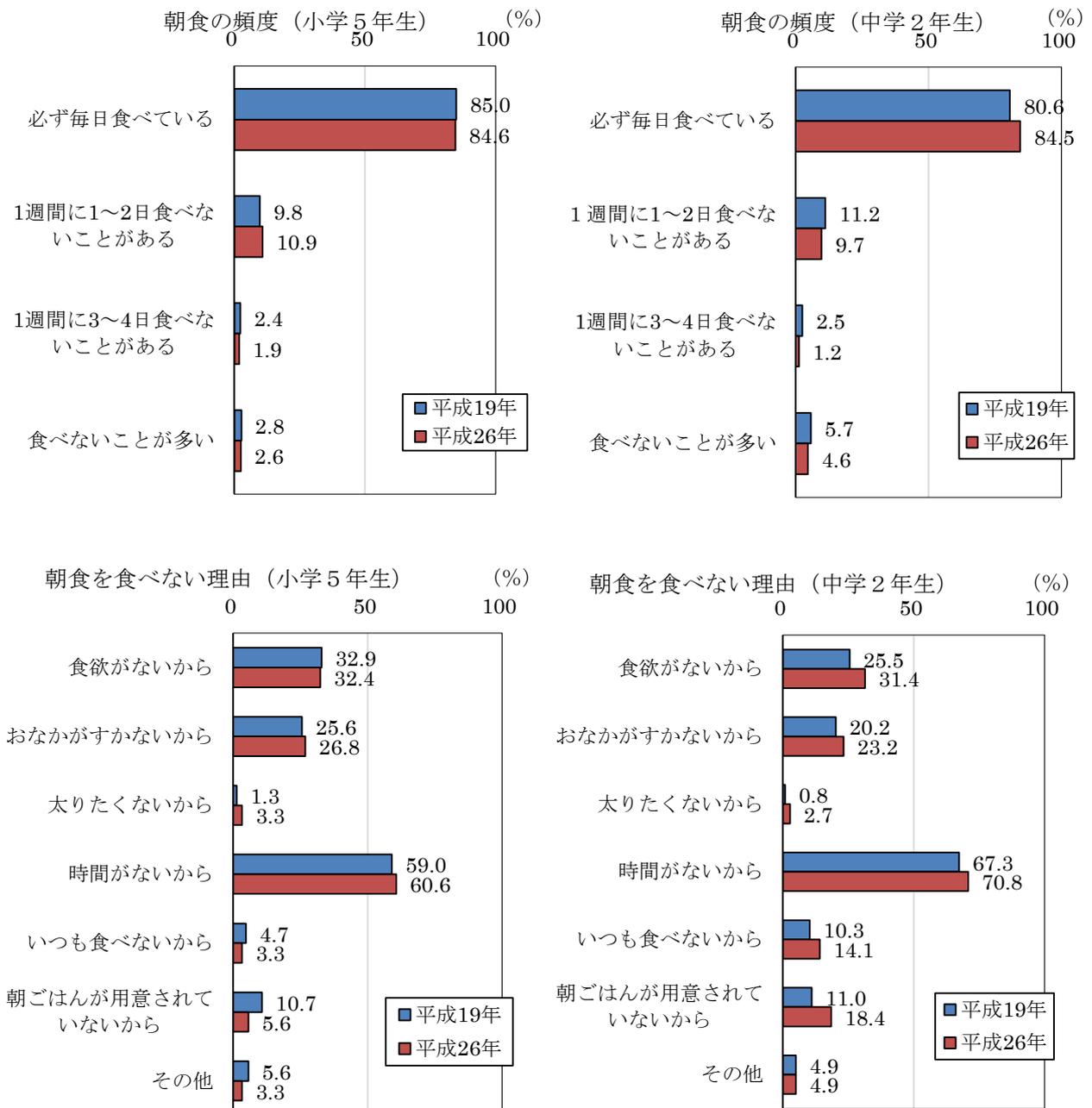
なお、社会情勢の変化などを踏まえ、計画期間内であっても必要に応じて見直しを行います。

第2章 「食」を取り巻く現状と課題

1 子どもの食生活

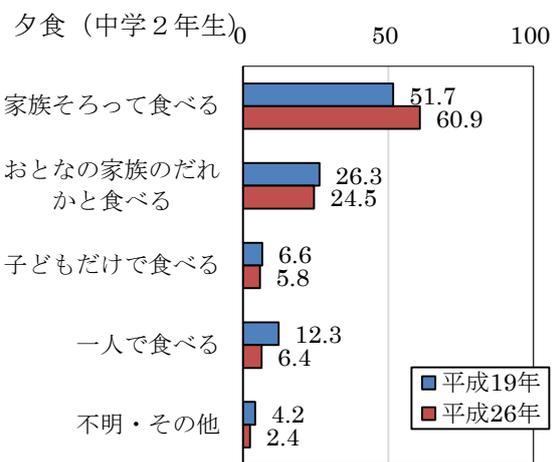
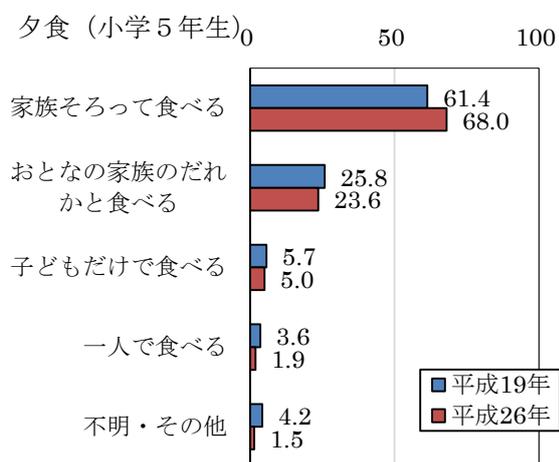
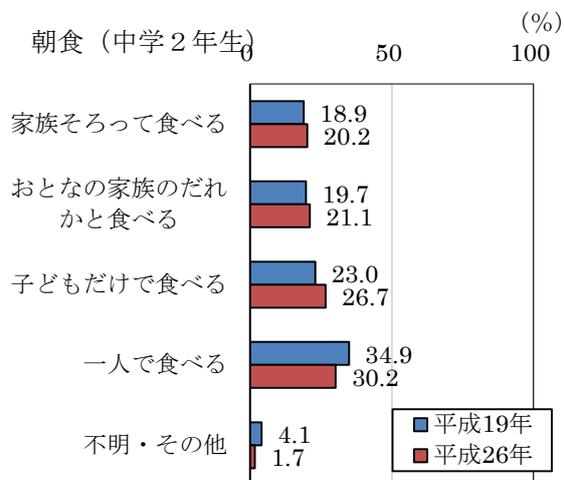
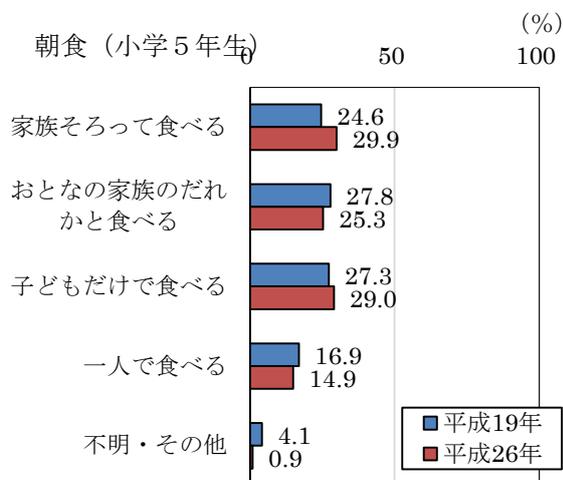
①朝食

児童、生徒の朝食を食べる頻度をみると、「必ず毎日食べている」が小学5年生は84.6%、中学2年生は84.5%となっており、中学2年生の欠食率が若干改善されています。食べない理由では、「時間がないから」が最も多くなっています。



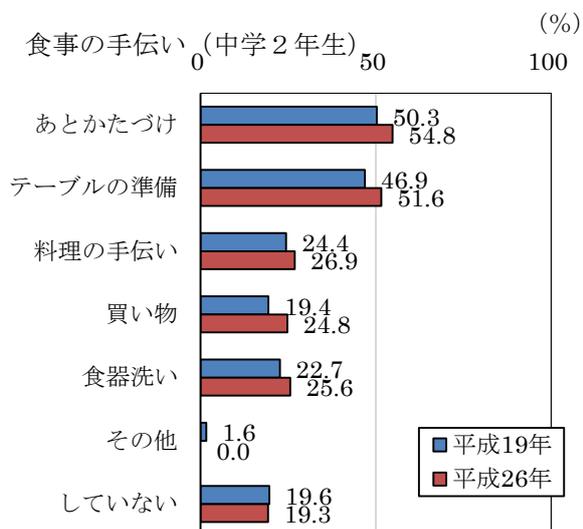
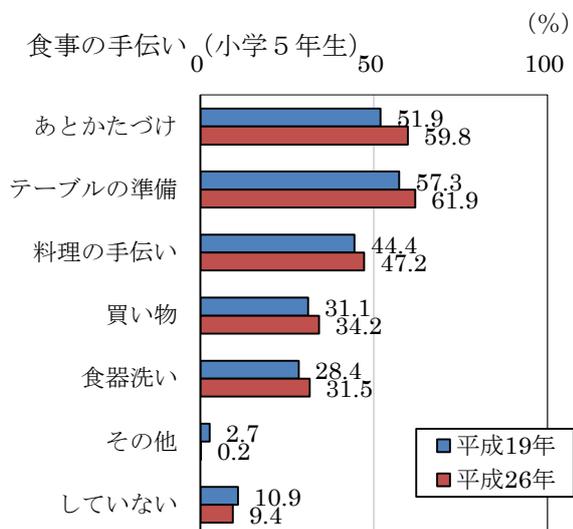
②孤食の状況

食事を一人で食べる児童・生徒の割合は、小・中学生共に平成19年と比べて低くなっており、約半分になっています。



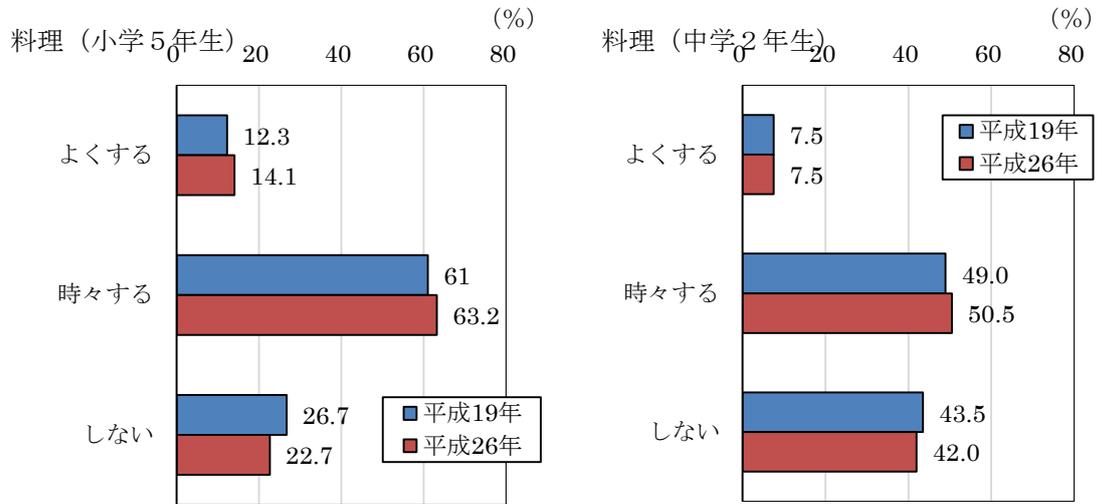
③食事の手伝い

食事の手伝いをする割合は、小・中学生共に平成19年と比べて若干高くなっています。



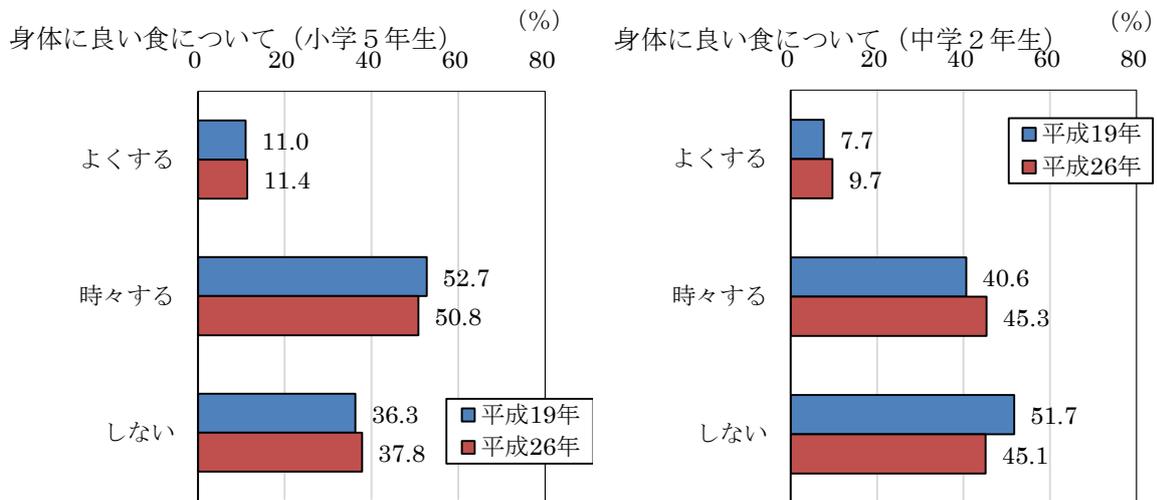
④料理の機会

家で料理を作ることがある割合は、小・中学生共に平成19年と比べて若干高くなっています。



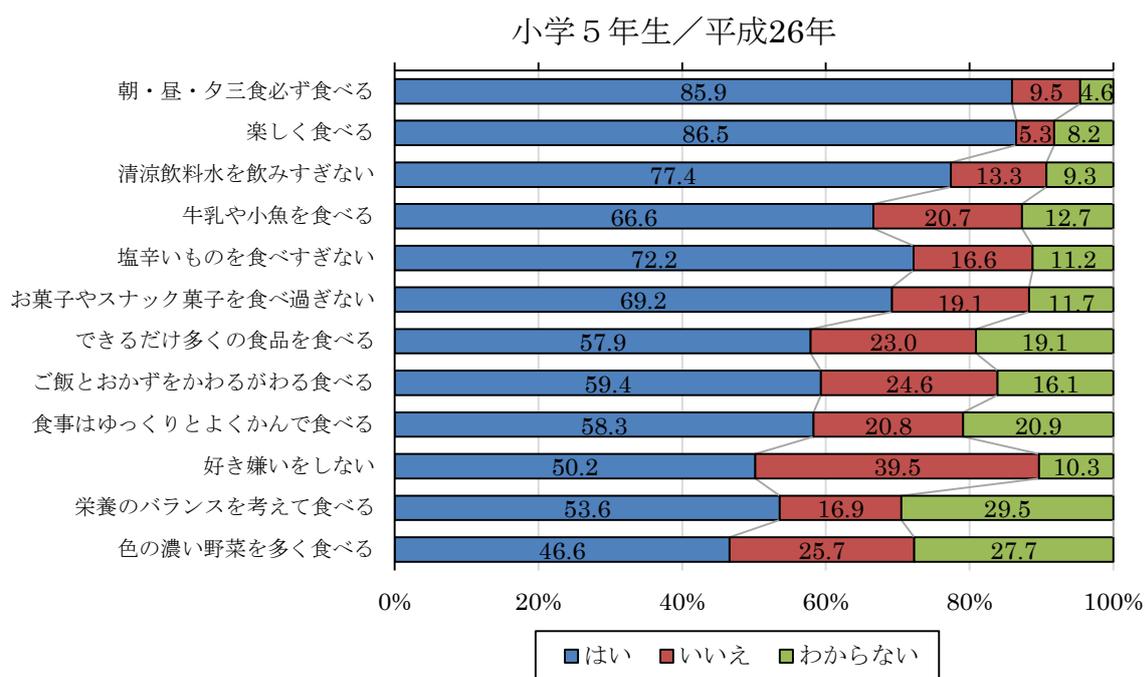
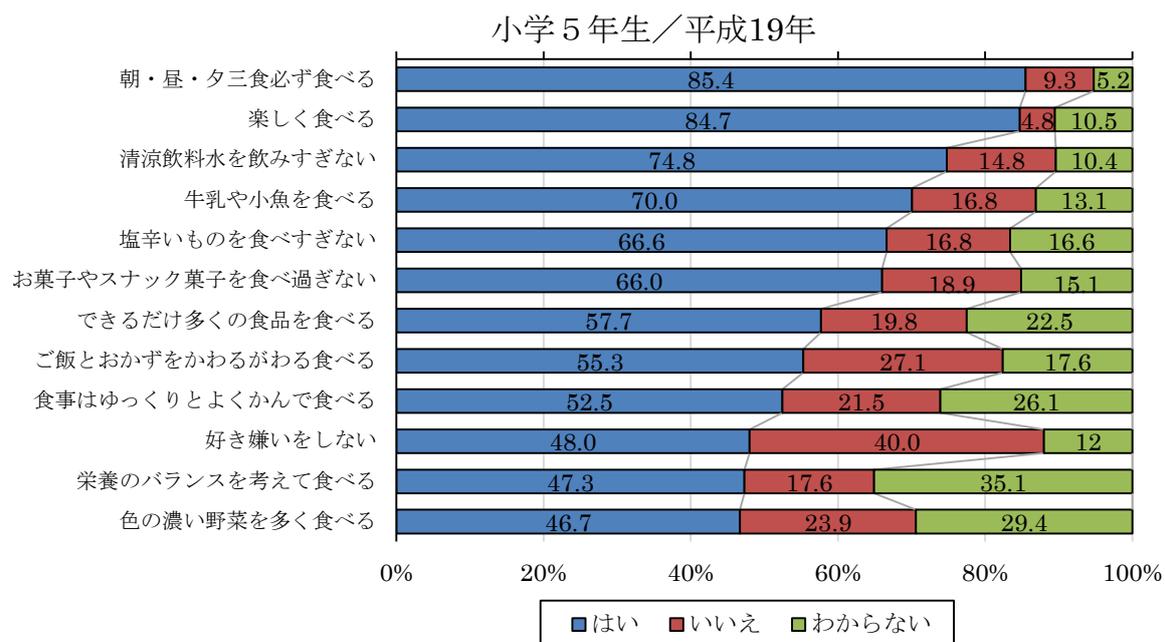
⑤身体に良い食について話す機会

家族の人と、身体に良い食べ物や食べ方などについて話をする機会は、中学生よりも小学生の方が多くあることがわかります。平成19年と比べると、中学生の話をする割合が高くなっています。

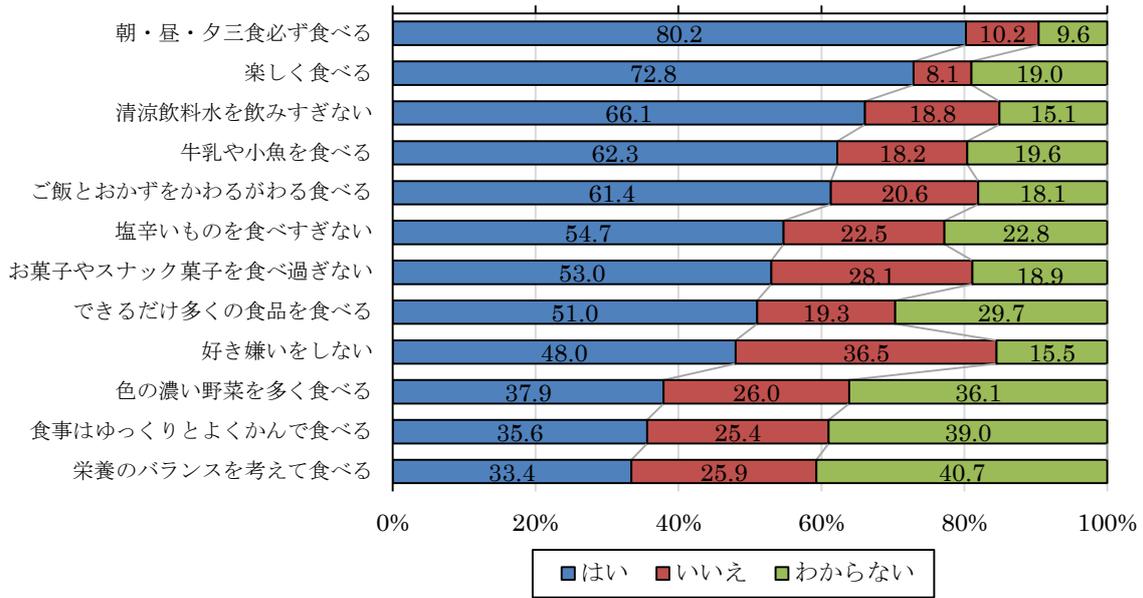


⑥食事で注意していること

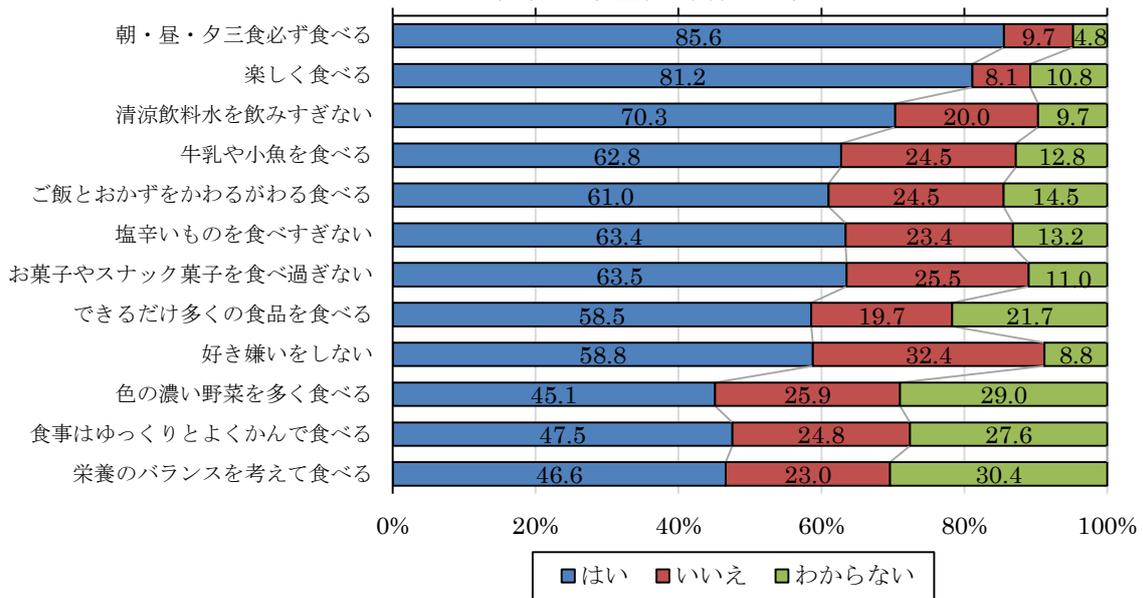
普段の食事で注意していることは、平成19年の調査も今回の調査も、小中学生共に「朝・昼・夕三食必ず食べる」「楽しく食べる」「清涼飲料水を飲み過ぎない」の順に注意している割合が高くなっています。また、中学生では、前回の調査で割合が少なかった「色の濃い野菜を多く食べる」「食事はゆっくりとよくかんで食べる」「栄養のバランスを考えて食べる」といった項目が10ポイントほど高くなっています。



中学2年生／平成19年

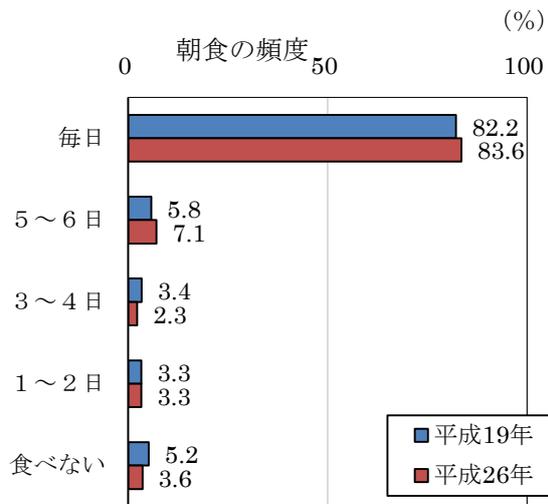


中学2年生／平成26年



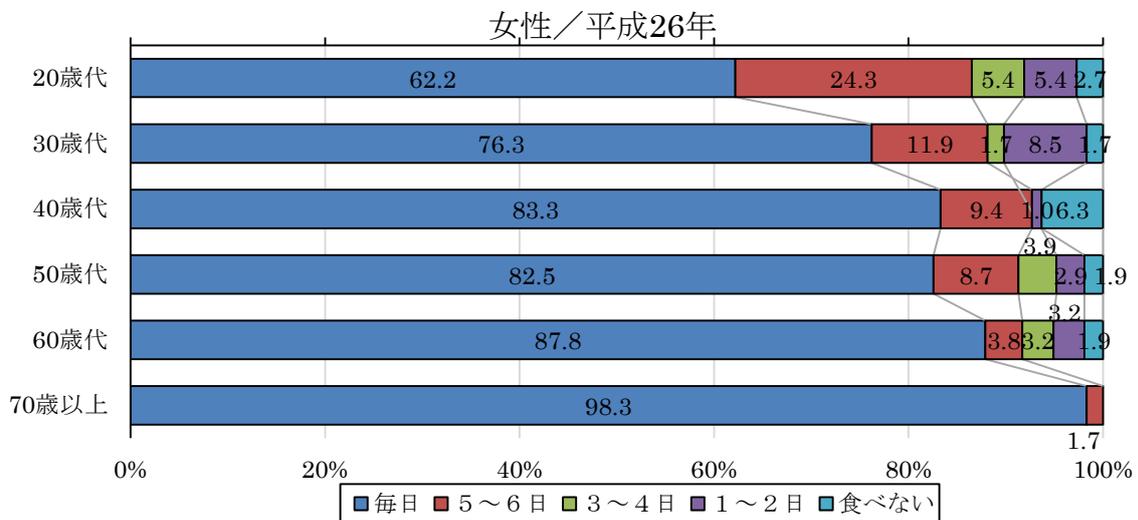
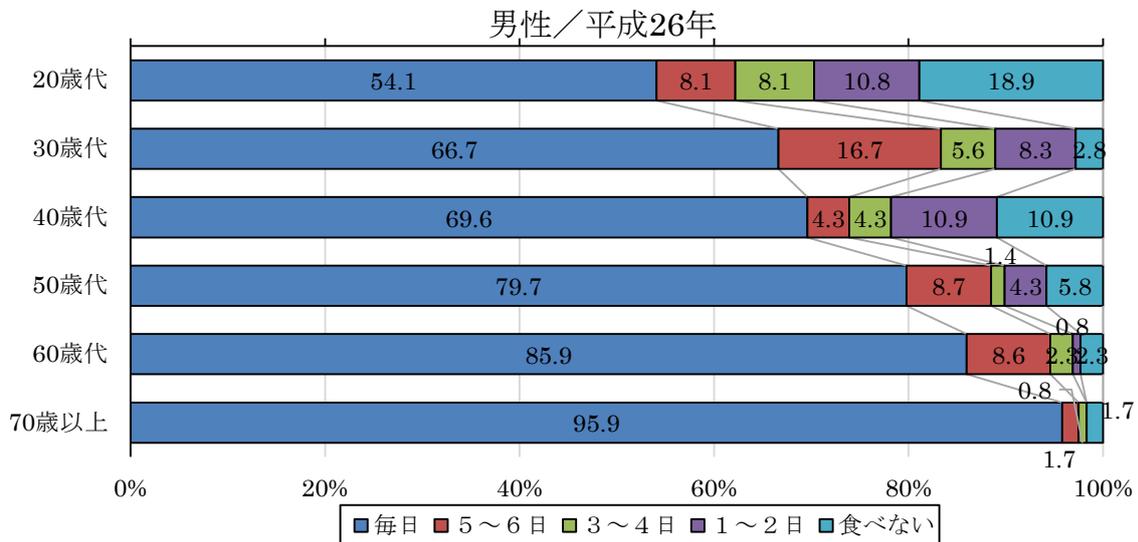
2 成人の食生活

①朝食

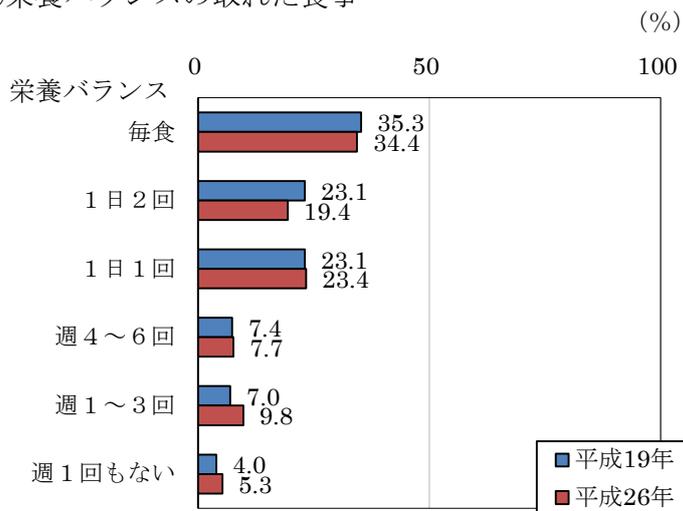


成人の朝食を食べる頻度をみると、毎日食べる人の割合が平成19年よりも若干高くなっていることがわかります。

性別・年齢別でみると男性の若い世代で朝食を食べる頻度が少ない人が多くなっています。また、男女ともに40歳代で「朝食を食べない」人の割合が高くなっています。

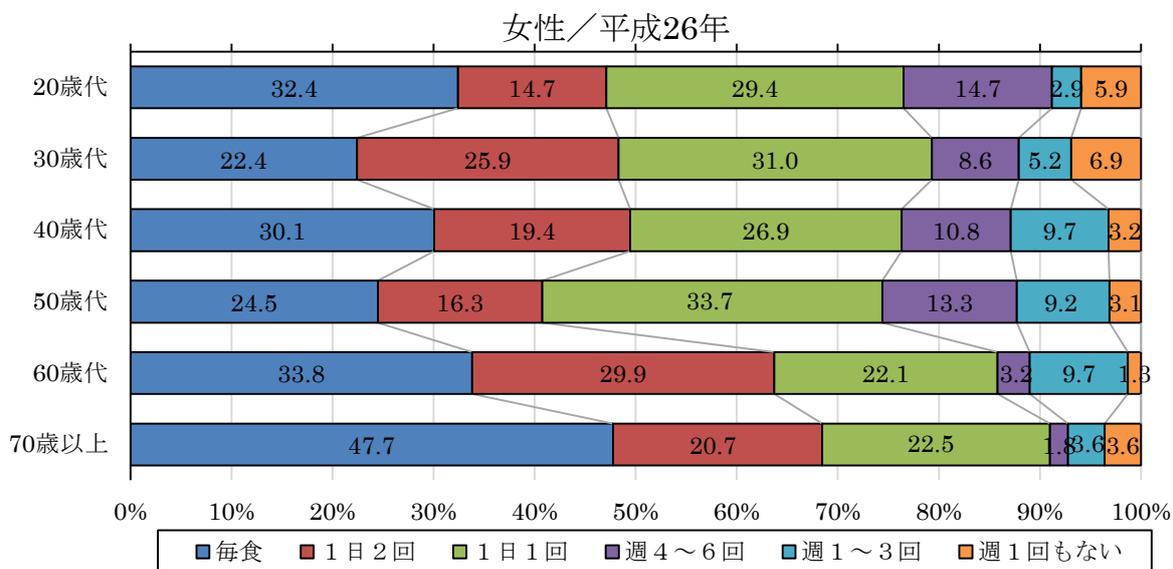
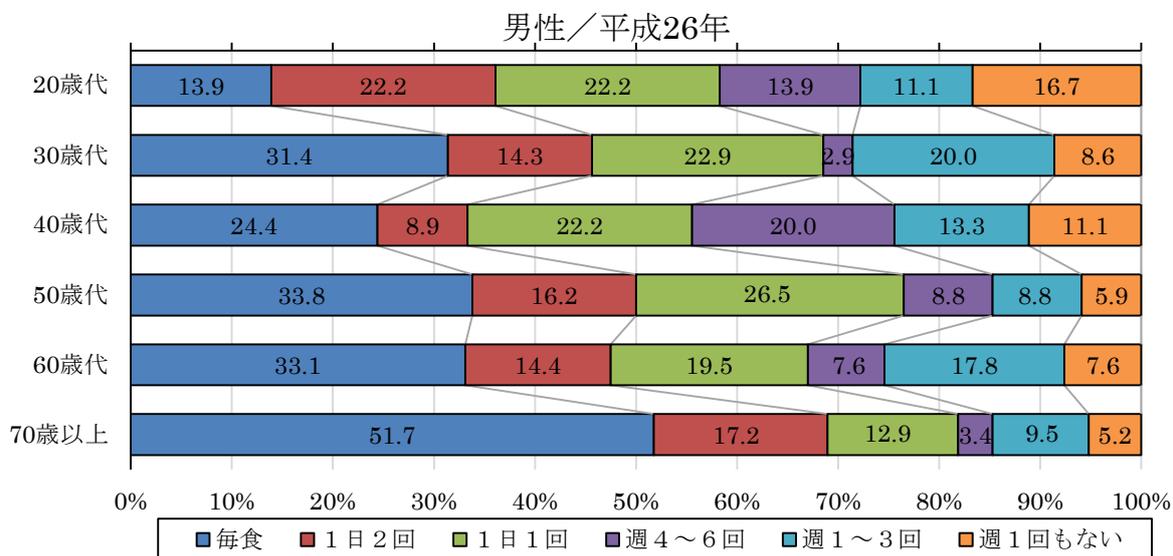


②栄養バランスの取れた食事

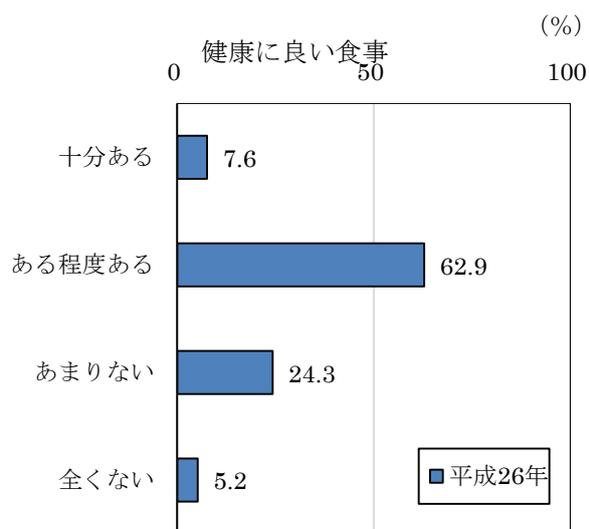


栄養バランスの取れた食事を摂る頻度は、1日1回未満の人が全体の22.8%あります。

60歳代までと70代以上の人とで栄養バランスの取れた食事を摂る頻度に違いがみられることがわかります。

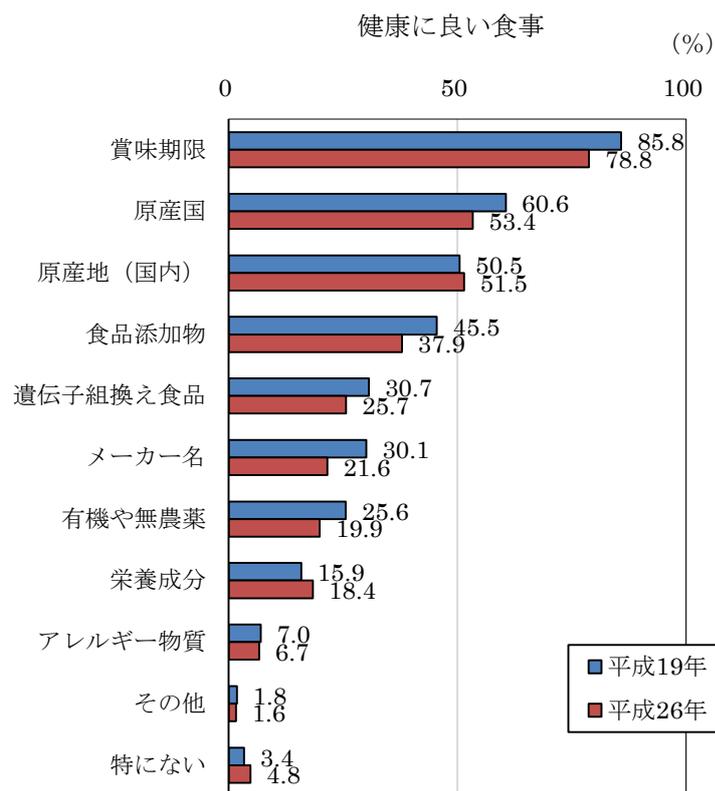


③健康に良い食事についての知識



健康に悪影響を与えないようにするために、どのような食品を選択すればよいかや、どのような調理が必要かについての知識があるかどうかについては、「ある程度以上はある」という人が全体の70.5%を占めています。

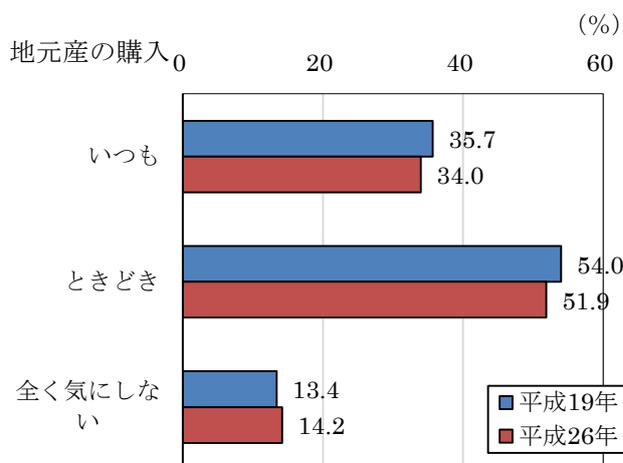
④食品選択で気をつけること



食品を選ぶ際に気をつけることは、平成19年と同様に「賞味期限」「原産国」「原産地 (国内)」の割合が高くなっていますが、平成26年では気をつけている人の割合が低くなっていることがわかります。

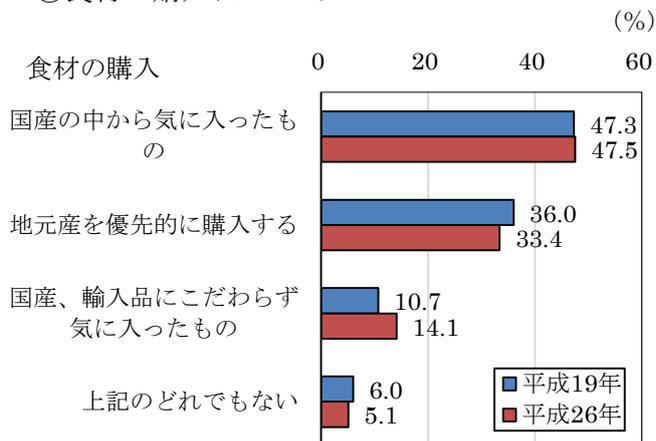
3 地産地消について

①地元産の購入頻度



産地表示を確認して地元（今治）産を購入するように心がけているかどうかについては、「ときどき」が最も多く半数を占めていますが、平成19年よりも割合が少なくなっていることがわかります。

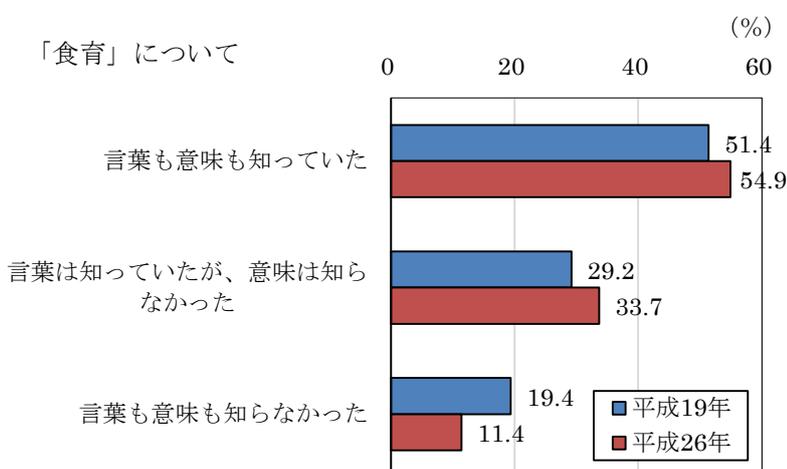
②食材の購入について



食材を購入する際の考え方については、「国産の中から一番気に入ったもの（低価格等）を購入する」という人が47.5%と約半数を占めている一方で、国産、輸入品にこだわらず、一番気に入ったもの（低価格等）を購入するという人が1割以上いて平成19年よりも増えています。

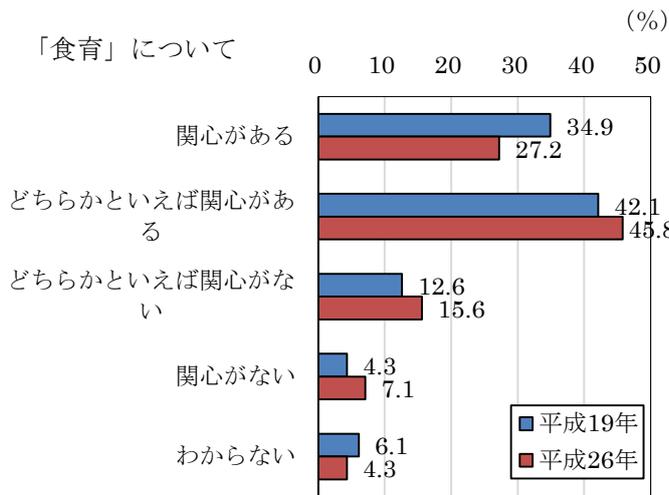
4 食育について

①「食育」という言葉について

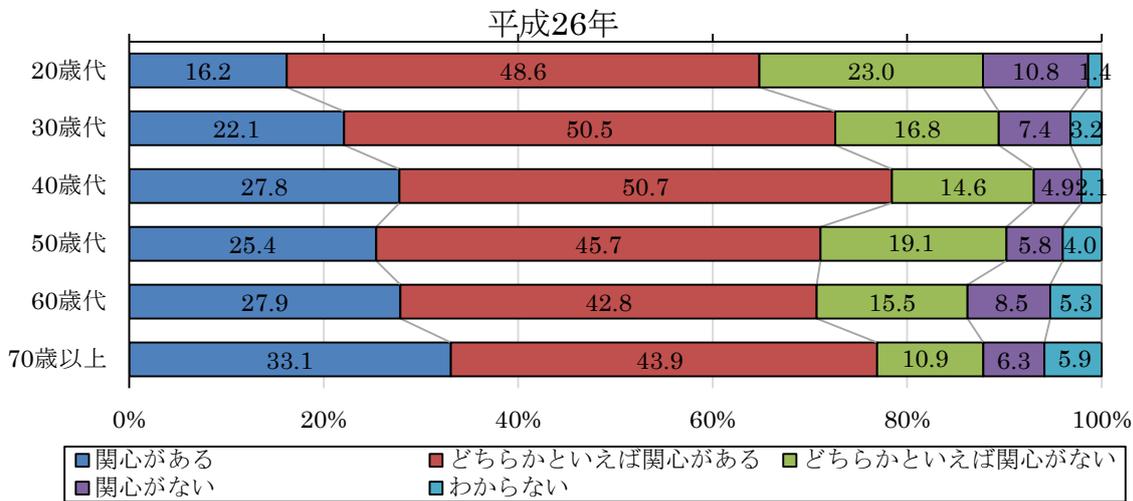


「食育」という「言葉も意味も知っていた」という人が54.9%で、平成19年と比べると「食育」の周知がなされていることがわかります。

② 「食育」 への関心度

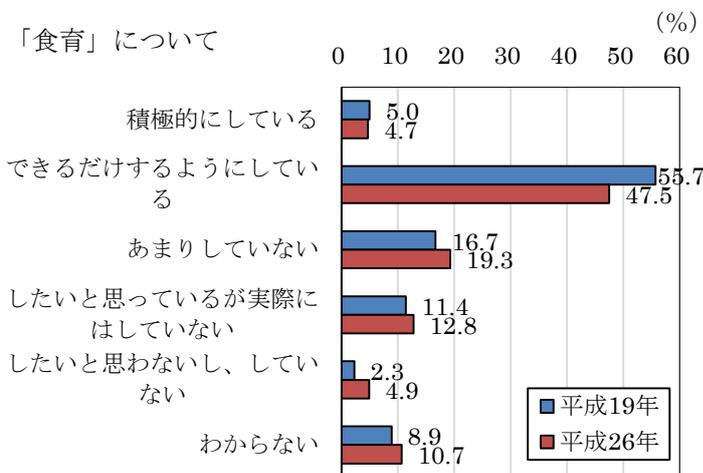


「食育」への関心については、「どちらかといえば関心がある」という人が45.8%で最も多くなっていますが、平成19年と比べると、「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した割合が4ポイント低くなっているのに対し、「どちらかといえば関心がない」「関心がない」と回答した割合が5.8ポイント高くなっています。



「食育」の関心度を年齢別に見てみると、子育て世代である40歳代と高齢の70歳以上の関心が高くなっていることがわかります。

③ 「食育」の実践度



日頃から「食育」を何らかの形で実践しているかについては、「積極的にしている」「できるだけしている」を合わせると、52.2%が実践していることがわかります。19年の60.7%からは8.5%低下しています。

第3章 これまでの取組と今後の展開

本市で約35年前に始まった、学校給食へ地元産の有機農産物を活用することに端を発する取組は、市民による自発的な取組を行政が支援する形で発展し、平成18年9月に、「今治市食と農のまちづくり条例」を制定するに至りました。今治市では条例に基づき、「地産地消の推進」、「有機農業の振興」、「食育の推進」を3本柱として、地域の農林水産業を振興し、「食」と「農」を基軸としたまちづくりを進めています。

そうした中、食育の取組をさらに一層推進するための指針として、今治市食と農のまちづくり条例第4条の規定に基づき、平成22年6月に「今治市食育推進基本計画」を策定し、行政と学校などの教育機関、民間事業者、市民ボランティアや地域における関係者が協力、連携しながら様々な形で食育を推進してきました。

保育園児や幼稚園児、小中学生などの子どもを対象とした食育事業においては、地元産の水産物を活用した幼児対象の食育カリキュラムの策定や、各園・小中学校の特色を活かした農林水産業体験、調理体験、栄養教諭による食育授業、さらには地産地消の学校給食を教材とした食育などが取り組まれてきました。しかしながら、これらの取組や働きかけを家庭へフィードバックさせ、「各家庭での食育」へと発展させるためには、まだまだ課題も多くあります。

また、成人を対象とした公民館などにおける食育事業では、参加者が限定的であり、特に「食」に対して無頓着な若い世代に対して行き届いていないのが現状です。今後、市民全体へのバランスのとれた働きかけについて検討する必要があります。

平成22年度より食育の推進に取り組んだ結果、7項目13指標の数値目標については、「学校給食における地元産野菜を使用する割合（重量ベース）」は目標を達成し、「中学生及び20・30代男性の朝食欠食率」、「野菜を食べる頻度が1日1食未満の小中学生の割合」、「家庭で食について話す機会のある中学2年生の割合」において目標未達成ですが、改善、増加が見られました。一方で、それ以外の項目については増加が見られませんでした。特に、市の食と農のまちづくりの3本柱である「有機栽培、特別栽培を意識する市民の割合」、「地産地消を実践している市民の割合」が減少したことは問題であり、今後一層、一体的に推進していく必要があります。

今後の食育の推進に当たっては、これらの課題を踏まえ、様々な関係者が多様に連携・協働しながら、市民が生涯にわたって健全な食生活を実践することができるような社会環境づくりに取り組むことで、食をめぐる諸問題の解決に資するように推進していくことが必要です。

第4章 計画の基本的な考え方

1 基本理念

市では、食育の基本理念を次のように定め、行政や関係機関、家庭、地域等が一体となった取組を進めます。

市民一人ひとりが食に関する正しい知識を持って食を選択する力を養い、また、地域の農林水産物やその加工品を食材として積極的に取り入れることで健康的な食生活を実践し、生涯にわたって健全な心身を育む

2 基本目標

(1) 地域の農林水産物やその加工品を日々の食生活に取り入れる。

本市では、農家の高齢化や担い手の減少、農地の非農地化が加速度的に進んでいます。そうした中、地域で生産された農林水産物やその加工品を活用することが地域の農林水産業を支え、ひいては自身の食を支えることであることを市民一人ひとりが理解し、地域で生産された新鮮で安全な農林水産物を日々の食生活に取り入れることを目標とします。

(2) 食品の品質や安全性を理解し、自ら適切な食を選択することができる。

食品の生産・製造者が食品の安全性の確保に万全を期すことは当然ですが、消費者においても、食品の生産・製造行程などを意識し、品質や安全性に対する知識と理解を深めるように努め、自らの食を自らの判断で正しく選択することができるようにすることを目標とします。

(3) 心身の健康のための食生活を確立し、実践する。

近年の肥満や生活習慣病の増加は、食習慣の乱れが起因しているともいわれています。心身の健康のために望ましい栄養や食事についての知識や技術など、自らの食生活を自らで管理できるだけの食に関する正確な知識と判断力を身につけることを目標とします。

(4) 食を大切にする心を身につける。

食生活が多様化し、豊かになる一方で、地域の伝統的な食文化の喪失や、食べ残しなどによる食品の廃棄の増大など、食を大切にする意識の希薄化が見られます。生きる力となる食について学び、食に対する感謝の気持ちやもったいないという気持ちを深めることを目標とします。

3 施策についての基本的な方針

(1) 食の安全・安心の確保

食の安全・安心を確保することは、健全な食生活をおくる上での基本です。市民が安心して食生活をおくることができるようにするためには、まず、食品を提供する立場にある事業者や生産者が安全性の確保や表示の重要性を意識するとともに、生産から消費するまでの過程において安全性を確保する体制を整備することが重要です。

また、消費者も安全性をはじめとする食に関する知識と理解を深めるよう努め、食を自らの判断で正しく選択していくことが重要です。

(2) 家庭・学校・地域等それぞれの役割に応じた食育の推進

ライフスタイルや家庭の態様、家族関係は多様化しており、画一化された食育を家庭で推進していくことは難しくなっています。しかし、家庭は食と関わる最も中心的な場であり、特に子どもの健やかな心と体の発育のためには、日常生活の基盤である家庭において、子どもへの食育を推進していくことが課題となっています。

そのため、保育所や幼稚園、学校などの教育機関、さらに地域社会とも連携しながら家庭における食育の推進を促進、支援することが重要です。

(3) 生涯にわたるライフステージに応じた間断ない食育の推進

食育の推進にあたっては、子どもから成人、高齢者に至るまで、ライフステージに応じた間断ない食育を推進する「生涯食育」を目指します。

特に、子どものうちに健全な食生活を確立することは、生涯にわたり健全な心身を培い、豊かな人間性を育てていく基礎となるため、保育所、幼稚園、学校などの各教育関係者がそれぞれの指針・計画に基づきライフステージに合わせた食育を推進することが重要です。

また、高齢者が健康でいきいきと生活できるよう、生活の質にも配慮しながら健全な食生活の確保に向けた取組を推進することが重要です。

(4) 持続可能な農林水産業と地域の食文化に根ざした食育の推進

将来にわたって安全な地域の農林水産物を安定的に供給するためには、新鮮で品質の高い農林水産物を市民に提供できるよう、地域の農林水産業を活性化し、地産地消を進めることが重要です。

また、食に対する感謝の念を深めていくために、地域の農林水産業や食の循環に関する理解を深め、多くの関係者によって食が支えられていることを理解することが大切です。

さらに、食を通じて環境にやさしい暮らしを築くために、食べ物の生産と消費の両面から環境に配慮した食生活を推進することが重要です。

4 具体的な数値目標

(1) 朝食を欠食する日がある市民の割合の減少

目 標	基準値 (平成 19 年)	目標値 (平成 25 年)	現状値 (平成 26 年)	増減 (現状－基準)	次期目標値 (平成 33 年)
朝食欠食率 (小学 5 年生)	15.0%	5%以下	15.4%	0.4	5%以下
朝食欠食率 (中学 2 年生)	19.4%	5%以下	15.5%	-3.9	5%以下
朝食欠食率 (20 代男性)	60.7%	15%以下	45.9%	-14.8	15%以下
朝食欠食率 (30 代男性)	50.0%	15%以下	33.3%	-16.7	15%以下

(2) 野菜をあまり食べない市民の割合の減少

目 標	基準値 (平成 19 年)	目標値 (平成 25 年)	現状値 (平成 26 年)	増減 (現状－基準)	次期目標値 (平成 33 年)
野菜を食べる 頻度が 1 日 1 食未満の割合 (小学 5 年生)	7.5%	2.5%以下	6.7%	-0.8	2.5%以下
野菜を食べる 頻度が 1 日 1 食未満の割合 (中学 2 年生)	10.0%	5%以下	7.6%	-2.4	5%以下
野菜を食べる 頻度が 1 日 1 食未満の市民 の割合	7.0%	5%以下	9.7%	2.7	5%以下

(3) 家庭で食について話す機会のある子どもの割合の増加

目 標	基準値 (平成 19 年)	目標値 (平成 25 年)	現状値 (平成 26 年)	増減 (現状－基準)	次期目標値 (平成 33 年)
家庭で食について話す機会のある割合 (小学 5 年生)	63.7%	70%以上	62.2%	-1.5	70%以上
家庭で食について話す機会のある割合 (中学 2 年生)	48.3%	70%以上	55.0%	6.7	70%以上

(4) 健康に良い食事についての知識のある市民の増加

目 標	基準値 (平成 26 年)	目標値 (平成 33 年)
健康に良い食事についての知識のある市民の割合	70.5%	80%以上

(4) 食品を選ぶ際に、有機栽培、特別栽培を意識する市民の割合の増加

目 標	基準値 (平成 19 年)	目標値 (平成 25 年)	現状値 (平成 26 年)	増減 (現状－基準)	次期目標値 (平成 33 年)
有機栽培、特別栽培を意識する市民の割合	30.1%	50%以上	19.9%	-10.2	50%以上

(5) 地産地消を実践している市民の割合の増加

目 標	基準値 (平成 19 年)	目標値 (平成 25 年)	現状値 (平成 26 年)	増減 (現状－基準)	次期目標値 (平成 33 年)
地産地消を実践している市民の割合	61.3%	80%以上	60.5%	-0.8	80%以上

第5章 施策の展開

1 食の安全・安心の確保

【基本目標】

市民が安全・安心な食べ物を選択することができるよう啓発します。

【重点プロジェクト】

- 1) 食品の生産記録の記帳を推進します。
- 2) 食品表示について普及啓発を行います。
- 3) 食の安全・安心に関する情報の提供を行います。

【主要施策】

①生産記録の記帳の推進

農協に協力を求め、全ての農産物について生産記録の記帳を推進します。また、食品製造業者にも協力を求め、食品製造履歴の追跡を可能にする取組を推進します。

②食品表示についての普及・啓発

消費者の信頼を得られるよう、食品の適正な表示について普及・啓発に努めます。また、消費者が食品の産地や原材料等を知り、適切な食品の選択ができるよう食品表示の見方について情報提供し、啓発を行います。

③食品衛生に関する普及・啓発

広報誌、パンフレットなどによる情報提供を通じて、食品衛生に関する知識の普及・啓発を行います。

④食の安全・安心に関する情報の提供

食の安全・安心に関する様々な情報について、広報誌やホームページなどを利用して情報提供を行います。

⑤生涯学習を活用した食の安全・安心の啓発

料理教室等で、原材料から加工していく手作りの大切さや、添加物等を使用しない昔ながらの保存の方法等について、調理の実習を通じて啓発します。

2 家庭・学校・地域等それぞれの役割に応じた食育の推進

(1) 家庭における食育の推進

【基本目標】

市民が望ましい食習慣を身につけ、食に関する正しい知識と食を選択する力を習得し、健全な食生活を実践できるよう、家庭での食育を啓発します。

【重点プロジェクト】

- 1) 望ましい食習慣や生活リズムの向上を推進します。
- 2) 食育に関する情報提供を行います。

【主要施策】

①朝食習慣の推進

家庭において小さいときから毎日朝食をとる習慣を身につけることで、基本的な食習慣の育成の啓発に努めます。

②生活リズムの向上の推進

子どもの基本的な生活習慣の確立と生活リズムの向上を図るために、「早寝早起き朝ごはん運動」を推奨します。

③家族そろっての食事の推進

家族が食卓を囲んで共に食事をとりながらコミュニケーションを図る「共食」を推進し、家族団らんの食の楽しさを実感させるとともに、食事のマナーやあいさつの習慣など、食や生活に関する基礎が習得できるように推進します。

④食を楽しむ機会の提供

子どもが食についての興味を持ち、望ましい食習慣を学ぶことができるよう、家庭での食事作りや準備にかかわり、食を楽しむ機会の提供に努めます。

⑤食育に関する情報提供

市民が家庭において食育に主体的に取り組めるように、栄養相談の開催や、献立内容や使用食材を知らせる献立表や食生活メモなどを掲載した給食だよりを利用するなど、さまざまな媒体を通じて食育情報をわかりやすく提供し、家庭での食育を支援します。

(2) 保育所・幼稚園における食育の推進

【基本目標】

子どもの頃に身につけた食習慣を大人になってから改めることは容易ではないことから、子どもの食育は特に重要です。

小さい頃から正しい食習慣を身につけ、心身ともに健やかに成長できるよう、就学前の幼児、児童の食育を推進します。

【重点プロジェクト】

- 1) 保育所や幼稚園における食育の推進を図ります。
- 2) 就学前の児童を対象とした料理教室を実施します。

【主要施策】

①保育所・幼稚園における食育の推進

子供たちが楽しみながら食について学ぶことができるよう、農作業体験や料理教室など体験型食育を実施するとともに、野菜の栽培体験などを絵本や紙芝居、劇にするといった、体験がより身近に感じられるような取り組みを推進します。

②給食の充実

給食を通じて、子供たちが発達段階に応じた望ましい食習慣の基礎を培うことができるよう努めます。

また、保護者と子どもと一緒に給食を体験することができる場を設けるなど、「楽しく食べる」習慣を身につけられるよう努めます。

さらに、地元産の農林水産物を給食に積極的に活用し、子どもに地域の食材に親しんでもらうとともに、献立に郷土食や伝統食、行事食、日本型の食事を積極的に取り入れ、食文化の継承を図ります。

③幼児対象の食育カリキュラムの実施

就学前の児童が、食べることに対する知識や技を習得し、地産地消への理解を深めるため、未就学児童を対象とした料理教室「キッズキッチン」や地元産水産物を活用した「ぎょしょく」の実施に努めます。

(3) 学校における食育の推進

【基本目標】

児童、生徒が正しい食習慣や食に関するマナー、望ましい食を選択する知識と技を身につけるとともに、地域の農林水産業・食文化などについての理解を深めるよう、学校での食育を推進します。

さらに、学校での食育は、子どもだけでなく保護者に対しても健康や栄養などに関する情報を発信するのに有効です。学校における食育の推進により、子どもと保護者への普及啓発を図ります。

【重点プロジェクト】

- 1) 学校等での食に関する指導の充実を図ります。
- 2) 給食の活用を図ります。
- 3) 様々な体験活動を通しての食育の推進を図ります。
- 4) 家庭へのフィードバックに努めます。

【主要施策】

①義務食育の実施

地産地消や健康的な食生活の理解の促進などを図るため、総合的な学習の時間や社会科、理科、家庭科、保健体育などの関係教科と連携しながら、小学5年生を対象とした市独自のカリキュラムとテキストを活用し、義務食育を推進します。

また、中学校での義務食育の推進のため2年生を対象とした食育授業カリキュラムの開発について検討します。

②給食の活用

栄養バランスのとれた食事や地域の食文化を体験を通して身につけるため、学校給食を「生きた教材」として活用します。

また、給食の時間に、献立や食材の産地、生産者の紹介を行うことで、食に対する興味と理解を深めるとともに、感謝の気持ちを育みます。

③調理や農業体験活動を通しての食育の実施

体験は、理解への早道です。児童、生徒自らが調理をする「お弁当の日」の実施や学校農園での農業作業などの体験を通して、技の習得と食への理解を深めます。

④教職員の資質向上

栄養教諭、学校栄養職員や調理員の資質向上と食に関する専門性を高めるために、研修の機会を提供します。また、教職員に対して食育に関する研修の受講を勧奨するなど資質向上に努めます。

⑤保護者への情報提供

給食だよりや学校掲示物、給食試食会、参観日、懇談会などの機会を通じて、学校での食育に係る情報を保護者に提供し、家庭での食育の推進を図ります。

また、家庭で児童、生徒が調理や食事の準備に係わることができるような課題を出したり、家族で「食」について話をする機会を提供するなど、保護者を巻き込む仕掛けづくりに努めます。

(4) 地域における食育の推進

【基本目標】

健康づくりや生活習慣病の予防・改善につながる健全な食生活を推進するため、行政機関や保健・医療機関、企業、各種団体が連携し、地域における食育に取り組みます。

【重点プロジェクト】

- 1) 各関係団体や飲食店、企業における食育活動を支援します。
- 2) 食育的な売り場づくりについて検討します。
- 3) 地域における人材の育成を図ります。

【主要施策】

①地域や保健・医療機関等における食育の推進

食生活の改善や生活習慣病の予防、健康増進が図られるよう、地域における健康づくりのための食育を推進します。

②農林漁業者と食品関連事業者等との連携した食育の推進

生産者と食品関連事業者等の連携を促し、飲食店等における地元産農林水産物の提供や、ヘルシーメニューの提供、食に関する情報を発信するなどの食育活動を支援します。

③職場に給食を提供する事業者への啓発

社員食堂等職場に給食を提供する事業者が、安全性の確保、栄養成分の情報提供、地場産食材使用率の向上及び、伝統食や日本型の食事の提供に取り組むよう啓発します。

④事業所での食育の取り組みの啓発

事業所における人事管理者等を対象に、パンフレットの配布、講座・講演会の開催等を通じて、従業員の食生活を改善することの重要性を啓発します。

⑤食育的な売り場づくりの検討

小売店の店頭などで、買い物をしながら食を正しく選択することができるような売り場づくりができないか検討します。

⑥専門的知識を有する人材の養成・活用

地域における食育推進の活動が多面的に展開されるよう、専門知識を有する人材の養成、活用を図ります。

3 生涯にわたるライフステージに応じた中断ない食育の推進

【基本目標】

それぞれのライフステージごとに、その時期に獲得すべき知識や技術、健全な食生活の習慣化を目指し、一人ひとりの生活形態にあった食育を推進し、一人ひとりが食育に参加する意識をもつことができるような「生涯食育社会」の構築を目指します。

【重点プロジェクト】

1) ライフステージに応じた食に関する知識・技術の習得を目指します。

【主要施策】

① ライフステージにおける食育の推進

ライフステージを「乳児期」「幼年期」「少年期」「青年期」「壮年期」「中年期」「高齢期」「妊娠期」の8つに区分し、各年代の特徴・課題に応じた食育の推進に努めます。

ライフステージにおける特徴と取組の指針

乳児期

(概ね0～1歳)

生涯における食習慣の形成の上でも重要な時期です。
安定した人間関係のなかで食を楽しみ、心地よい生活を送ることが大切です。

- *授乳から離乳への確実なステップを踏まえ、食事の基礎を作るよう推進します。
- *生涯にわたる食育のはじまりであり、食育が乳児期から必要であることを家庭や地域に周知するよう推進します。
- *離乳食をすすめると同時に歯と口の健康のため、口腔の衛生に気をつけるよう推進します。



幼年期

(概ね1~6歳)

「食を営む力」の基礎を培う大切な時期です。
また、生活リズムが定着する時期でもあります。

- * 素材を活かした料理で味覚を育てること、おなかがすくリズムをもつこと、いろいろな食品を知ることなど、食べるための基本を身につけるよう推進します。
- * よく噛んで食べること、薄味、シュガーコントロール*¹、食後の歯みがき・仕上げみがきなどを実践し、望ましい食習慣を身につけるよう推進します。
- * 「早寝、早起き、朝ごはん」を実践し、規則正しい生活リズム、規則正しい排便が定着するよう推進します。



少年期

(概ね7~15歳)

生活習慣が定着してくる時期です。
家庭や学校の影響を強く受ける時期でもあります。

- * 食生活や健康を自己管理できるように、食に関する正しい知識と基本的な技術を習得するよう推進します。
- * 家族と一緒に食事を楽しむ「共食」を大切にし、食事のマナーやあいさつ習慣などの基礎習慣を身につけることを推進します。
- * 1日3食規則正しく食べることや、栄養バランスを考えて食べることなど、健やかな食生活を推進します。
- * 学校給食等を通じ、地場産物を知ることや食に関する正しい知識や望ましい習慣を身につけることを推進します。
- * 様々な体験活動を通じて、「もったいない」気持ちや、食べ物大切さ、生産者への感謝の念など、命と食を大切にする気持ちをはぐくむ活動を推進します。
- * 「早寝、早起き、朝ごはん」の実践や、よく噛むこと、食後の歯みがきなど、望ましい生活習慣の定着を推進します。

*1 シュガーコントロール むし歯の原因の一つである糖分の摂取をコントロールすることで、むし歯菌の栄養を減らし、繁殖を抑えること。糖分をとる量、食べるのに要する時間、食べるタイミングの3要素に着目して取り組む必要がある。

青年期

(概ね16～24歳)

家庭からの自立がはじまり、社会に参加していく時期です。自身の食や健康に無頓着になりがちな時期で、単身生活などで健康上望ましくない食生活を含めた生活習慣が常態化し始める時期です。また、学校や職場の仲間のほかメディアの影響も強く受ける時期です。

- * 食事づくりの実践や、自分のからだや生活スタイルに合わせた食事方法（内食・中食・外食）を選択し、食の自己管理に努めるよう普及啓発します。
- * 女性の低体重（やせ）がみられる現状から、過度のダイエットなど偏った食習慣とならないよう、自分の適性体重を知り、肥満・痩身の正しい知識の啓発を図ります。
- * 食に関するいろいろな情報が発信される中で、自ら正しく選択できる知識を身につけられるよう推進します。
- * 生活習慣の見直しや、健康診断、歯科検診などの受診により、健康管理の意識を高めるよう啓発します。

壮年期

(概ね25～44歳)

第一線で働き、家庭を持ち、子どもを育てるなど社会や家庭で重要な役割を担う時期です。子どもの健康を考えることを通して、もう一度自分の健康を考える機会ともなります。

- * からだづくりの大切さを理解し、肥満・痩身の正しい知識をもった行動を促進します。
- * メタボリックシンドロームを理解し、予防するため、適切な食事や運動等の継続的な実践を促進します。
- * 食事づくりを実践し、食事のマナーや日本や地域の食文化を継承するよう推進します。
- * 自身の食生活や生活習慣が子どもに大きな影響を与えることを理解し、規則正しい食生活や生活リズムについて改めて見直すことを推進します。
- * 家庭において、健康によい食について話す機会を設け、食について知っている正しい知識を子どもたちへ伝えるよう啓発します。

中年期

(概ね45～64歳)

身体機能が徐々に低下し、これまでの食生活を含めた生活リズムの乱れに起因する生活習慣病が顕在化する時期です。

- * 加齢に伴う心身の構造や機能変化を理解し、生活の質の向上を意識することを促進します。
- * メタボリックシンドロームを予防、改善するため、個人に応じた適切な食事や運動等の継続的な実践を促進します。
- * 歯ごたえのあるものを食べ、よく噛んで味わって食べる習慣を推奨します。
- * 自身の積み重ねてきた食についての経験を、若い世代の食について学ぶ・教える過程に活かし、協力して食育を推進するよう促すとともに、高齢世代に対する食事支援等への知識の取得を促進します。

高齢期

(概ね65歳～)

心身の老化が進行し、加齢に伴いその個人差は大きくなります。多様な機能障害が出現し、生活の質に影響を及ぼすようになります。

(前期高齢者 概ね65～74歳)

- * 健康状態が日常生活に影響することの多い年代であることから、身体機能や生活機能を維持するための食育を推進します。
- * 日本型食生活の良さ、郷土料理、行事食など長年の食の経験を次世代に継承する活動を促進します。

(後期高齢者 概ね75歳～)

- * ゆっくりよく噛んで食べ、誤嚥に注意するなど、加齢による機能減退が原因となる事故や疾患等の予防に考慮した「食べ方」を推進します。
- * 低栄養に注意し、安全で活力を維持する食事の実践を推進します。

妊娠期

妊婦の栄養摂取や健康状態は胎児の発育・発達に影響を与えられており、とても大切な時期です。

- * 健康で安心して出産できるよう、栄養バランスや日常生活に気をつけるよう啓発します。
- * 子どもの生涯にわたる健康の基盤づくりのため、妊娠中の栄養について学習する機会を提供します。
- * 歯の健康が損なわれがちになるため、歯の健康維持に努めるよう推進します。

4 持続可能な農林水産業と地域の食文化に根ざした食育の推進

(1) 地産地消の推進

【基本目標】

生産者と消費者の協働により、地域内で生産された安全で新鮮な農林水産物を地域内で消費する地産地消を推進します。

【重点プロジェクト】

- 1) 地域農林水産業の活性化に努めます。
- 2) 給食を活用した地産地消を推進します。
- 3) 地産地消の普及啓発に努めます。

【主要施策】

①地域農林水産業の振興

地元産の安全で新鮮な農林水産物を安定的に供給できるよう、地域農林水産業の振興に努めます。

②給食を活用した地産地消の推進

保育所や幼稚園、学校の給食の食材として、地元で生産された有機農産物、特別栽培米、小麦、大豆、野菜等、農産物やその加工品、水産物の優先使用に努めます。

③地産地消の普及啓発

消費者が自ら進んで、地元産農林水産物を選択するよう、地産地消の意義等についての普及啓発に努め、地産地消に対する理解を促します。

また、「地産地消推進協力店認証制度」や「いまばり地産地消推進応援団」の拡充を図り、普及啓発に活用するよう努めます。

(2) 生産者と消費者の交流促進

【基本目標】

消費者が食品の生産についての理解を深めたり、生産者が消費者のニーズを把握したりするなど相互理解を深め、また、食に対する感謝の気持ちを育むことができるよう、生産者と消費者の交流や、農林水産業の体験活動等を推進します。

【重点プロジェクト】

- 1) 農林水産業者と市民との交流を推進します。
- 2) 生産者と小学生との交流を推進します。
- 3) 農林水産業体験活動を推進します。

【主要施策】

①朝市、イベント等を活用した交流の推進

各地域で行われている朝市や、農協・漁協が開催する「農業まつり」や「漁協まつり」、市民が企画運営する「クラフト市場」や「軽トラ市」、愛媛県が主催する「愛あるサポーター交流会」や「えひめ・松山産業まつり」等さまざまなイベントへの生産者の参加促進並びに、消費者への情報提供を行い、農林水産業者等と市民の交流を推進します。

②生産者と小学生との交流の推進

給食の食材の生産者の紹介や学校農園の収穫感謝祭への招待など、地域の生産者と小学生との交流を推進します。

③市民農園の利用促進

安全な食べ物を生産する充実感や苦労が体験できるよう、農薬や化学肥料を使用しない有機農業による市民農園の利用を促進します。

④農林水産業体験活動の推進

農林水産業体験や自然体験、農家レストラン、農家民宿などのグリーン・ツーリズム活動など、市民の農山漁村における交流や農林水産業の体験活動を促進します。

⑤子どもの農林水産業体験学習の推進

直売所が運営する小学生を対象とした「S a i S a i K i d s 倶楽部」や、子どもが農山漁村に宿泊し交流体験を通じて食の大切さを学ぶ「子ども農山漁村交流プロジェクト」の活動を支援するなど、農林水産業体験学習の推進を図ります。

(3) 環境に配慮した食生活の推進

【基本目標】

日本の食は、食料や飼料、生産資材の多くを海外からの輸入に頼っている一方で、食品ロスが多いなど、環境への大きな負荷を生じさせています。

環境への負荷を軽減させる生産方法の振興や、食品廃棄物の削減等、食べ物の生産と消費の両面から環境に配慮した食生活を推進します。

【重点プロジェクト】

- 1) 有機農業・環境保全型農業を推進します。
- 2) 食品廃棄物の削減に努めます。
- 3) 環境に配慮した食育を推進します。

【主要施策】

①有機農業・環境保全型農業の推進

農薬や化学肥料を削減し、環境に与える負荷を軽減するため、有機農業や、特別栽培農産物の生産など環境にやさしい農業を推進します。

②食品廃棄物の削減

食べ物を大切に作る気持ちを育み、食べ残しが少なくなるよう啓発します。

また、食品関連事業者においても、食品の製造・流通・販売の過程で生じる食品廃棄物の抑制や再利用について、理解と関心を深める取組を推進するとともに、食品包装や容器の減量化について啓発します。

③環境保全との関連について啓発

フードマイレージ*¹やバーチャルウォーター*²などについて、市民の関心や理解を促し、地産地消が省エネ、地球温暖化防止等、環境にやさしい取り組みであることを啓発します。

*1 フードマイレージ 消費者の口に入るまでに、食料がどれくらいの距離を運ばれてきたかを「輸送量×輸送距離」で表したもの。食料の輸入が地球環境に与える負荷が見える化できる。

*2 バーチャルウォーター（仮想水） 輸入される農作物や食料品の生産に必要な水の量を推定した数値で、農産物の輸入によって水も輸入していることになるという考え方。

(4) 食文化の継承活動の推進

【基本目標】

地域には、新鮮な旬の食材や地域の特産を使った料理や保存食などの食文化があり、先人の知恵として学んできました。しかし、地域の伝統的な食文化は食の外部化や地域コミュニティの希薄化とともに失われつつあります。郷土料理を中心とした地域の伝統的な食文化の次世代への継承を推進します。

【重点プロジェクト】

- 1) 学校給食献立の活用を図ります。
- 2) 地域での食文化の継承の取組を支援します。
- 3) 伝統食や郷土料理に関する情報提供を行います。

【主要施策】

①学校給食献立の活用

学校給食に地域の伝統食や、行事食、季節の食事、郷土料理等を取り入れたり、家庭にレシピを紹介するなど、学校給食を通して食文化の継承や郷土への愛着心の育成を図ります。

②地域での取り組み

地域の食生活改善推進員、今治市生活研究協議会、今治郷土料理普及協議会などの協力を得て、料理教室などを通して地域の伝統的な食文化の継承に努めます。

また、各地区の文化祭のバザーなどで伝統料理や郷土料理を提供するなど、普及啓発に努めます。

②伝統食や郷土料理に関する情報提供

地域の伝統食、郷土料理に関する情報を収集し、広報誌やイベントなどを通して広く市民に提供します。

第6章 計画の推進

1 推進体制

(1) 今治市食と農のまちづくり委員会

市では「今治市食と農のまちづくり条例」に基づき、食と農のまちづくりに関する基本的事項及び重要事項を調査審議し、施策の円滑な実施を図るために、「今治市食と農のまちづくり委員会」を設置しています。

本計画については、同委員会を中心として、計画の推進を図るものです。

(2) 庁内体制

庁内においては、農林振興課、健康推進課、高齢介護課、保育課、子育て支援課、水産課、学校教育課、社会教育課、学校給食課等食に関係する農林水産、健康、教育、福祉等の各部署が連携し「今治市食育推進連絡協議会」を設置しています。その中で、関係機関・団体の調整を図り、活動支援を進めるとともに、計画に基づく進行管理を実施します。

(3) 各種関係機関等との連携

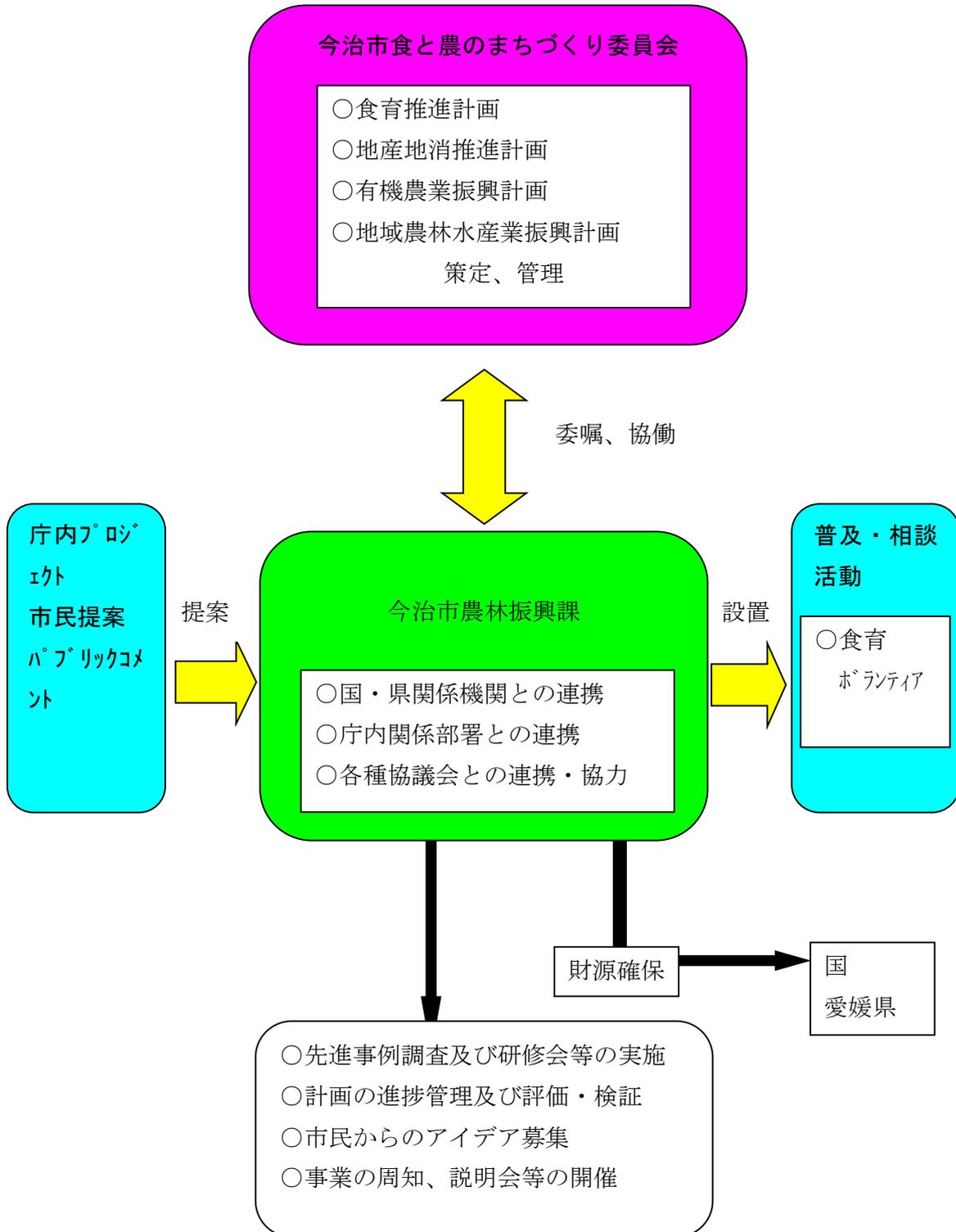
本計画の推進にあたっては、市民をはじめ、保育所、幼稚園、小中学校、地域、保健医療機関、生産者、食品関連事業者、農林水産団体などの多様な推進主体との連携体制を強化し、計画の周知と計画に基づく取組を行います。

2 計画の検証と評価

本計画は、平成29年度から平成33年度までの5年間を対象に定めますが、社会経済情勢の変化、財政状況等に照らして、適時、計画の検証と評価を実施し、見直しの必要性や時期等を検討します。

なお、計画実施最終年度の平成33年度末には、計画の実施結果に基づく検証と評価を実施するものとします。

◎今治市食育推進基本計画の推進体制



- **参考資料**

○アンケート調査結果

計画策定にあたり、市民の食育に対する意識や関心、日ごろの食生活等について把握するためにアンケート調査を実施しました。調査概要は、下記のとおりです。

(1) 一般市民調査

対象	調査方法	調査年月日	配布数	回収数 (回収率)
市内在住の20歳以上の人(単純無作為抽出)	郵送による配付・回収	平成26年 2月17日 ～3月5日	2,000通	1,024通 (51.2%)

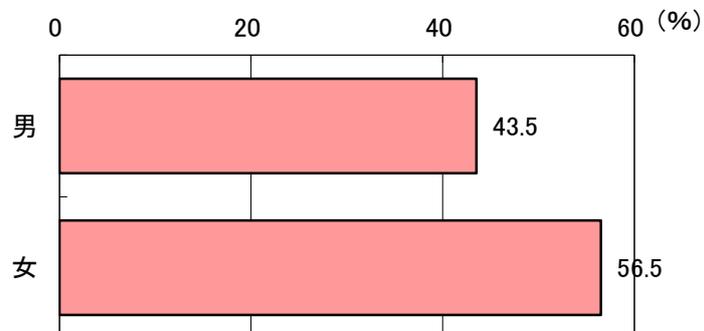
(2) 小中学生調査

対象	調査方法	調査年月日	配布数	回収数 (回収率)
市内小学5年生及び中学2年生	学校での直接配付・回収	平成26年 2月5日 ～28日	2,716通	2,620通 (96.5%)

1 一般市民調査

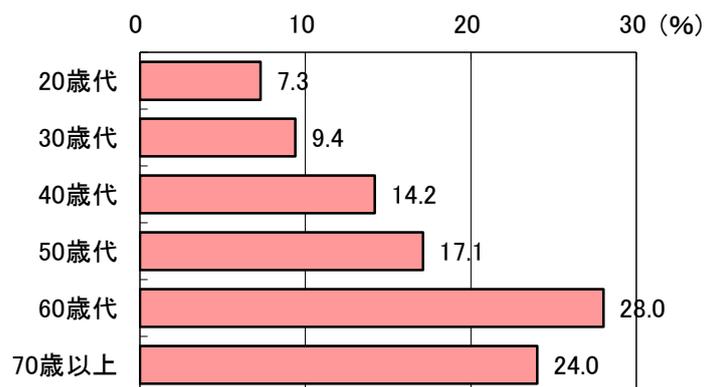
F1 性別

- ・回答者の性別は、「女性」が56.5%で「男性」よりも多い。



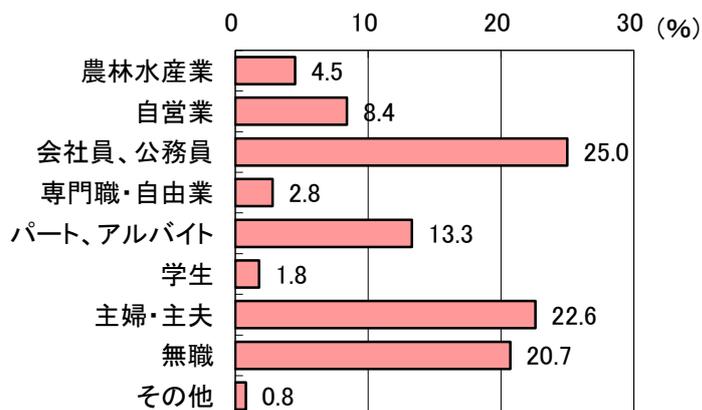
F2 年齢

- ・回答者の年齢構成は、「60歳代」が最も多く、次が「70歳以上」である。



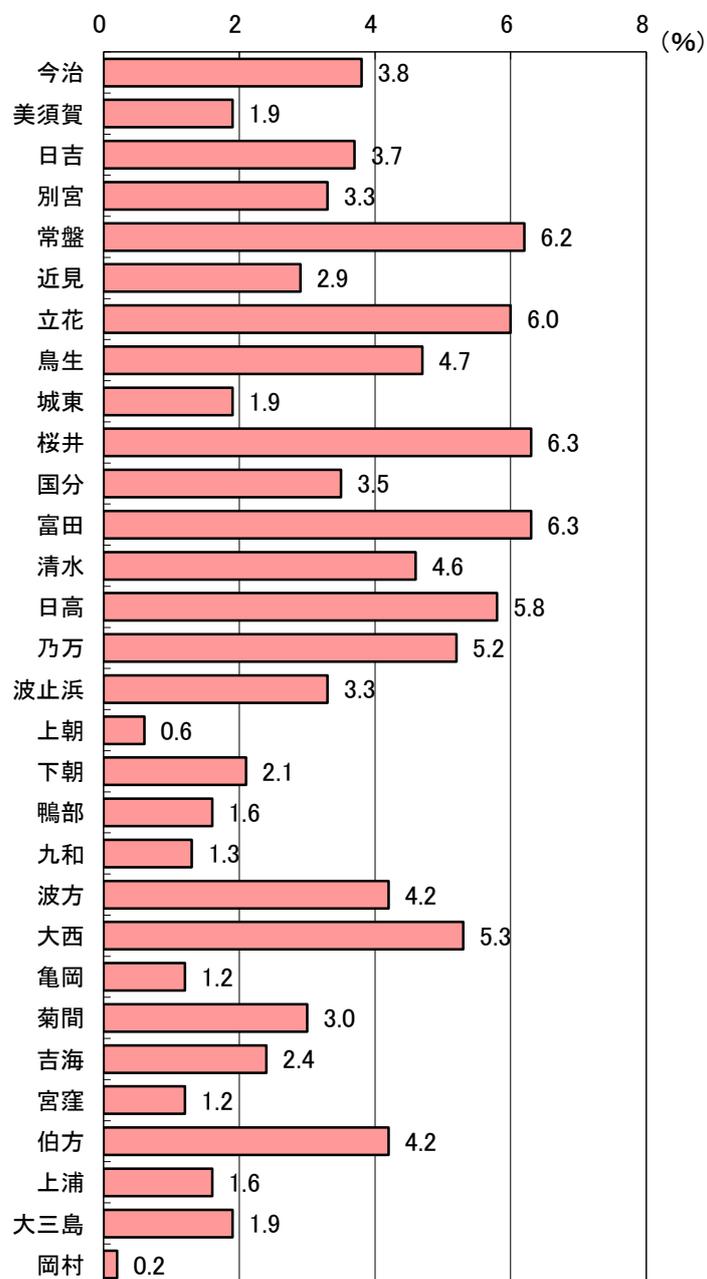
F2 あなた（ご本人）あなたのご職業は何ですか。あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- ・回答者の職業は、「会社員、公務員」が最も多く、次が「主婦・主夫」である。



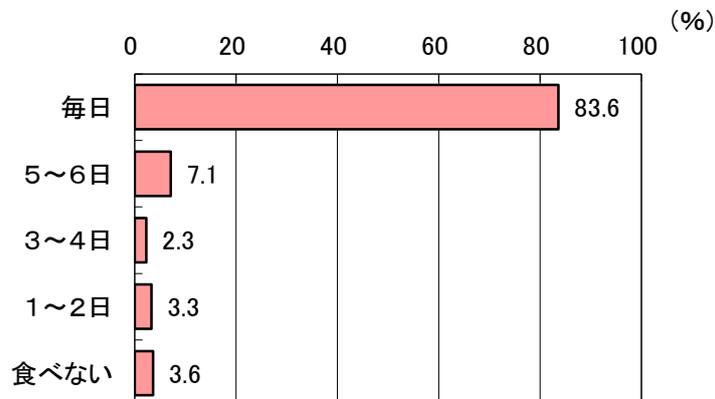
F3 あなた（ご本人）はどの地区（小学校区）にお住まいですか。（あてはまるものを1つ）

・回答者の居住地区は、「桜井」「富田」が最も多く、次に「常盤」「立花」と続く。



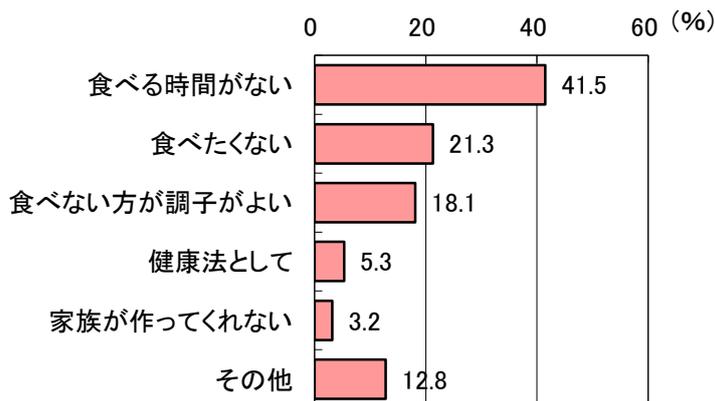
問1 あなたは1週間にどれくらい朝食を食べていますか。(あてはまるものを1つ)

・朝食を食べる頻度は、「毎日」が83.6%で最も多い。



問2 (問1で「3. 3~4日」「4. 1~2日」「5. 食べない」と回答した方におうかがいします) その理由は何ですか。(あてはまるものを1つ)

・朝食を食べる頻度が少ない理由は、「食べる時間がない」が最も多い。



問3 栄養バランスの取れた食事をどれくらい心がけていますか。(あてはまるものを1つ)

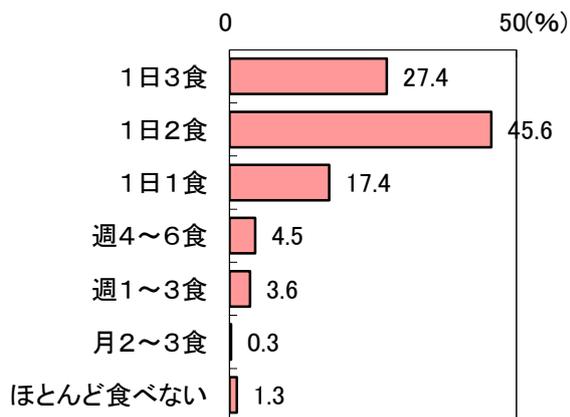
・「毎食」が最も多く、次が「1日1回」である。



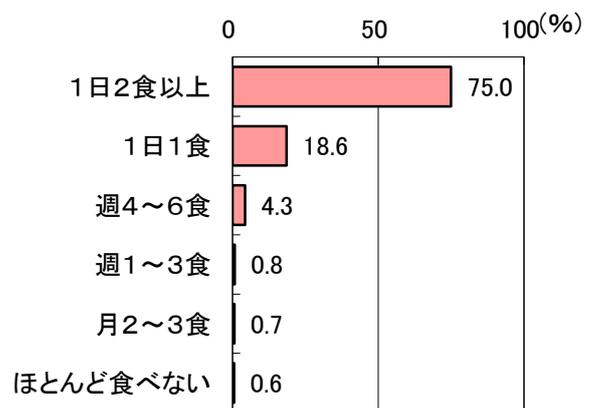
問4 あなたはふだん、次の食品をどれくらい食べて（飲んで）いますか。（それぞれあてはまるものを1つ）

- ・各食品別の摂取頻度をみると、野菜は1日1食以上食べる人が、93.6%である。また、甘いものを毎日食べる人は30.2%である。

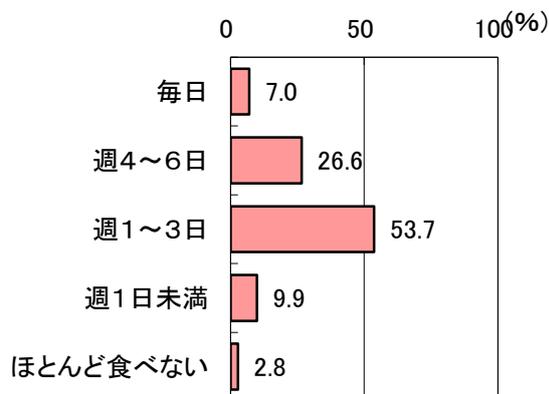
(1) 米



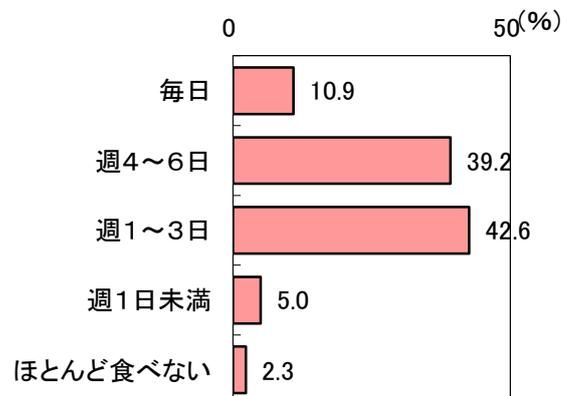
(2) 野菜（冷凍食品は除く）



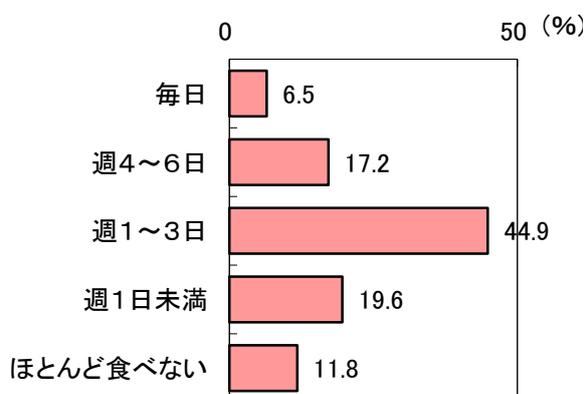
(3) 魚類



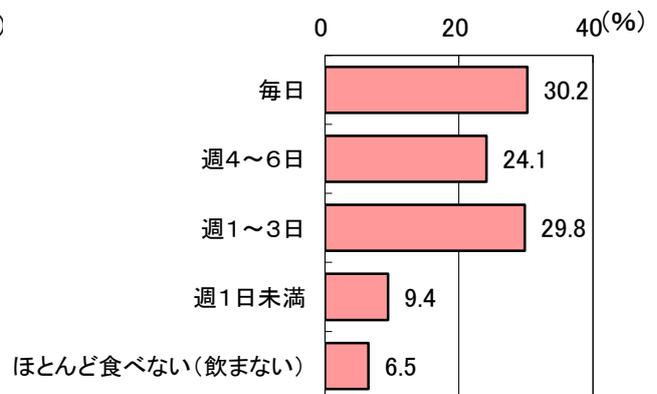
(4) 肉類



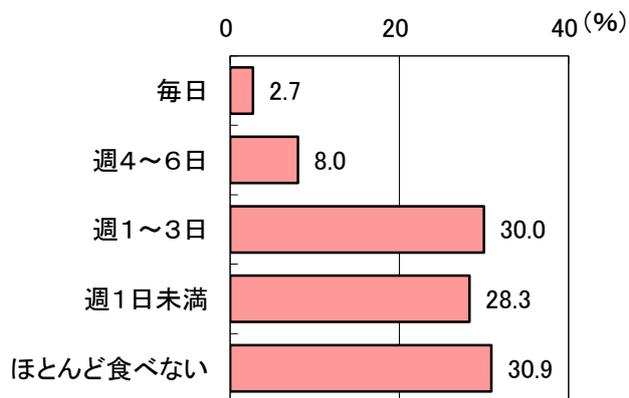
(5) 動物性脂肪の多い食品



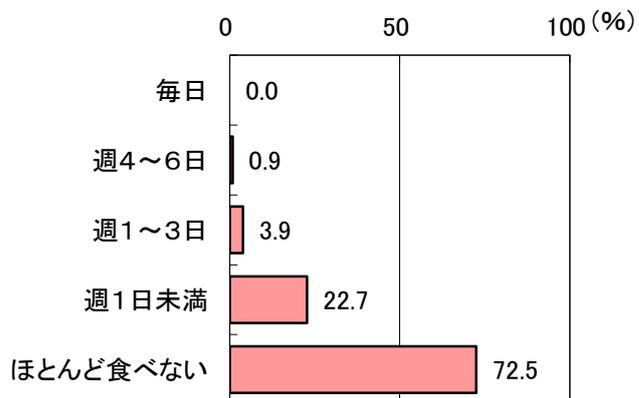
(6) 甘いもの



(7) インスタント食品

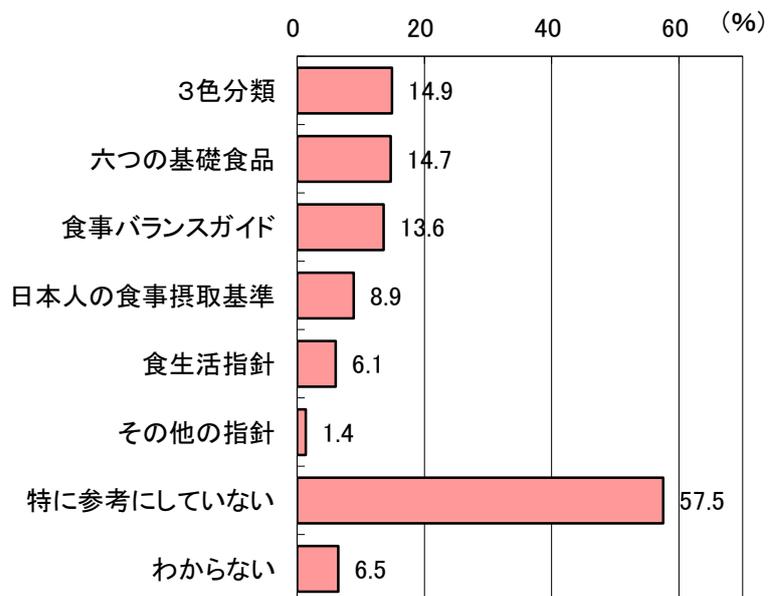


(8) ファーストフード



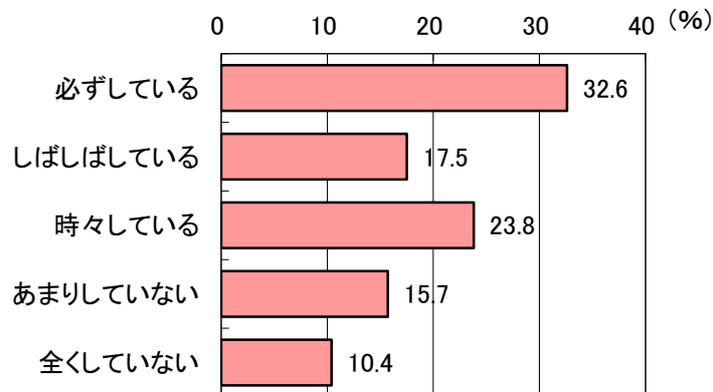
問5 あなたは、健全な食生活を実践するため、このような指針を参考にしていますか。(あてはまるものすべて)

- ・健全な食生活のための指針の利用については、「特に参考にしていない」という人が57.5%と半数以上で最も多い。



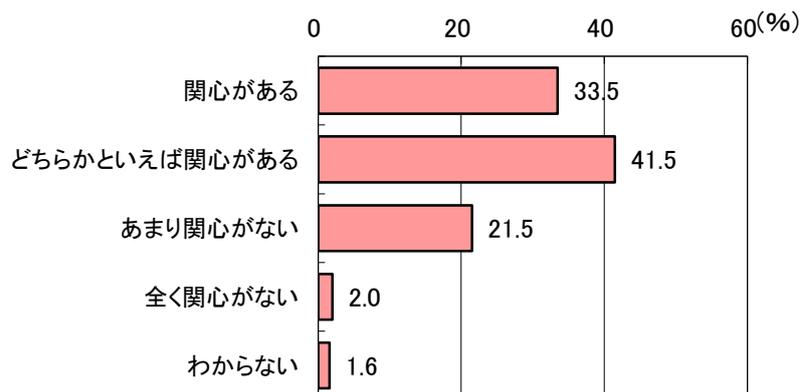
問6 あなたは、食事の際に「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをしていますか。
 (あてはまるものを1つ)

・「必ずしている」という人は32.6%と約3人に1人の割合である。



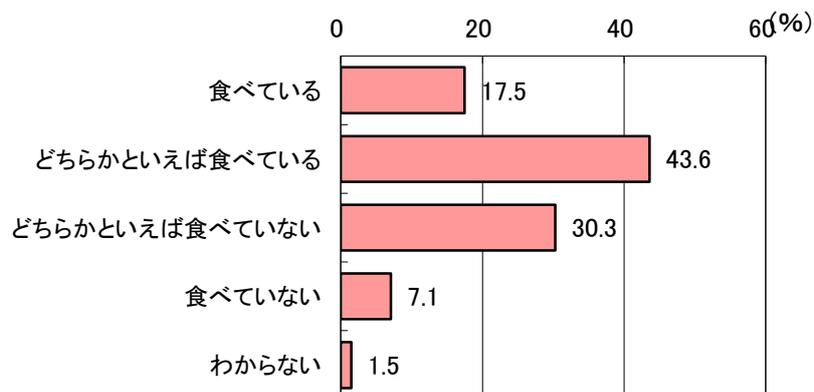
問7 よく噛んで、味わいながら食べるといった食べ方に関心がありますか。(あてはまるものを1つ)

・「どちらかといえば関心がある」という人が41.5%で最も多い。



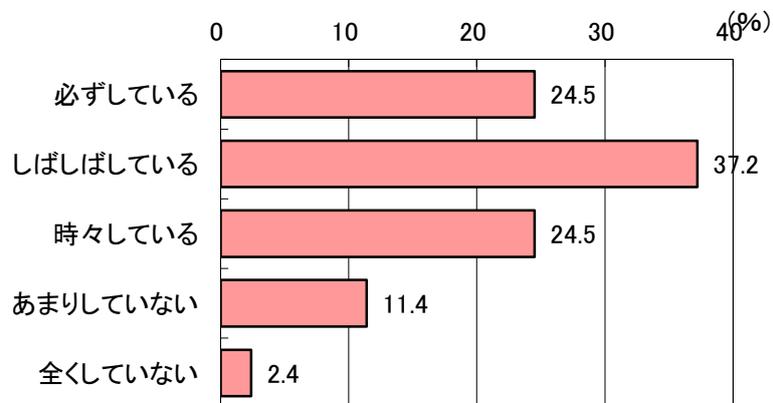
問8 普段の食生活において、よく噛んで味わいながら食べていますか。(あてはまるものを1つ)

・「どちらかといえば食べている」という人が43.6%で最も多い。



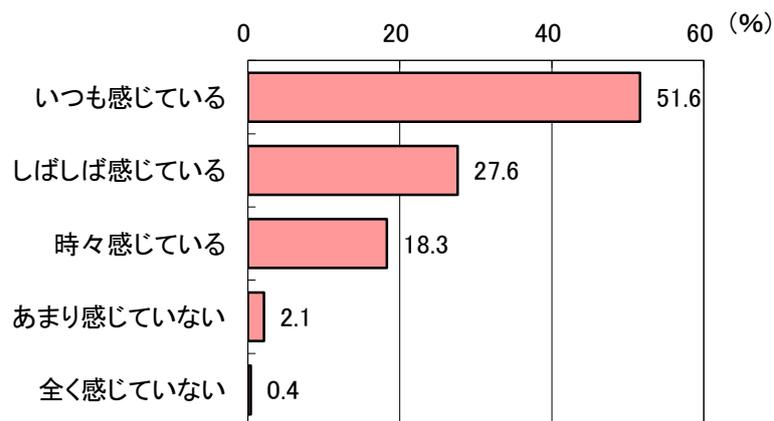
問9 食品を買いすぎない、作りすぎないなど食べ残しを減らす努力をしていますか。(あてはまるものを1つ)

・「しばしばしている」という人が37.2%で最も多い。



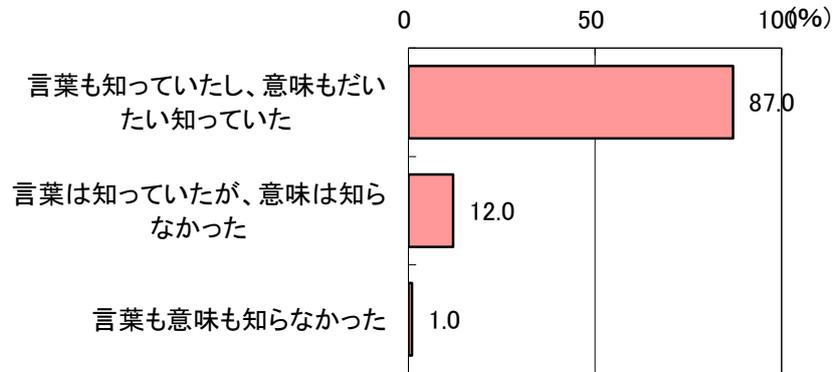
問10 食品産業や家庭において食べ残しや食品の廃棄が発生していることに関して、日頃から「もったいない」と感じることはありますか。(あてはまるものを1つ)

・「いつも感じている」という人が51.6%と半数以上で最も多い。



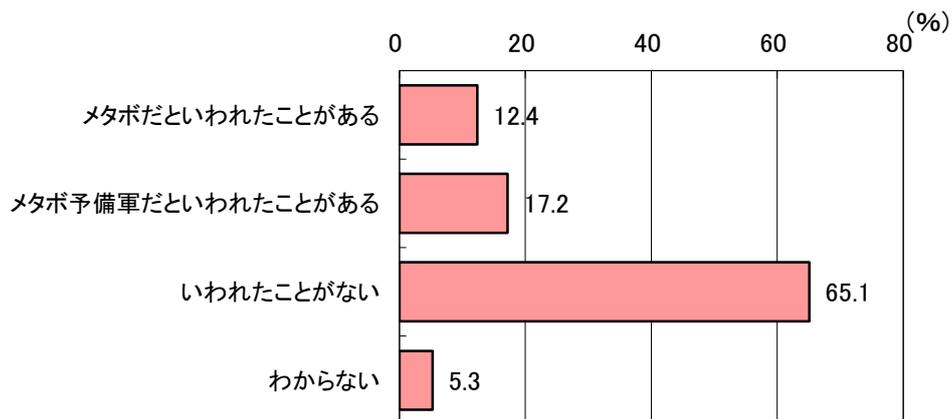
問 11 あなたは、メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）という言葉やその意味を知っていましたか。（あてはまるものを1つ）

- ・「言葉も知っていたし、意味もだいたい知っていた」という人が87%と多く、認知度が高い。



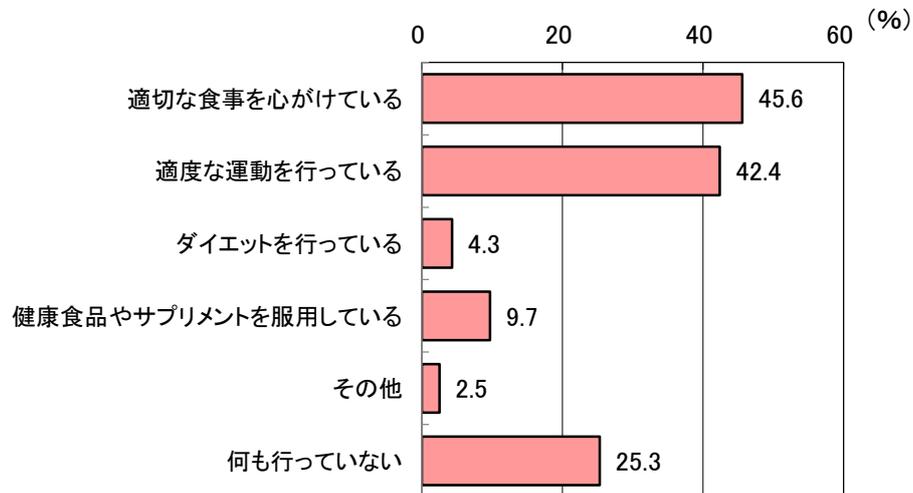
問 12 あなたは、メタボリックシンドロームもしくはその予備軍であるといわれたことがありますか。（あてはまるものを1つ）

- ・「いわれたことがない」という人が65.1%で最も多い。



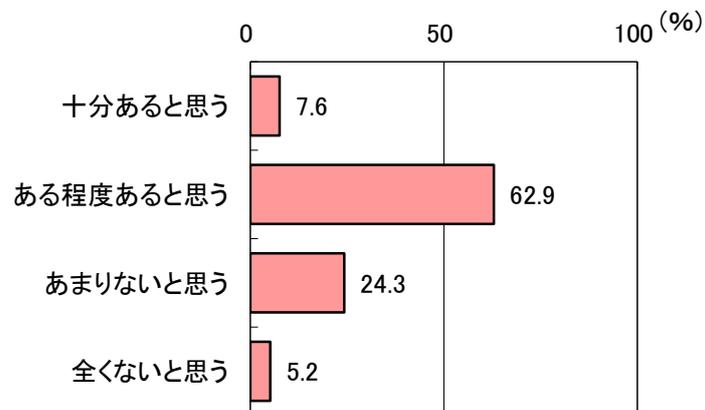
問 13 あなたは、メタボの改善や予防のために、何か取り組んでいることがありますか。(あてはまるものすべて)

- ・「適切な食事を心がけている」という人が 45.6%と最も多く、次いで「適度な運動を行っている」42.4%となっている。



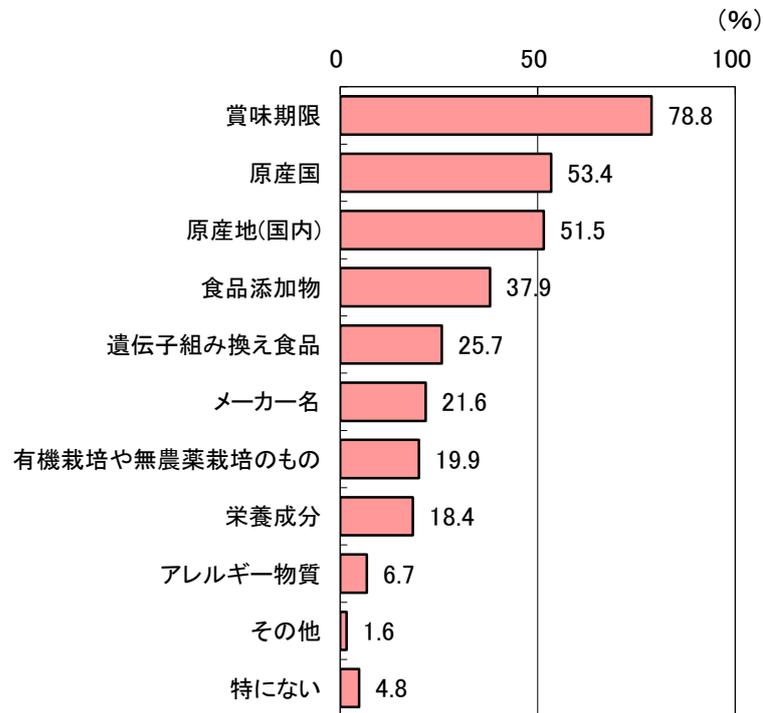
問 14 あなたは、健康に悪影響を与えないようにするために、どのような食品を選択するとよいかや、どのような調理が必要かについての知識があると思いますか。(あてはまるものを1つ)

- ・「ある程度あると思う」という人が 62.9%と最も多い。



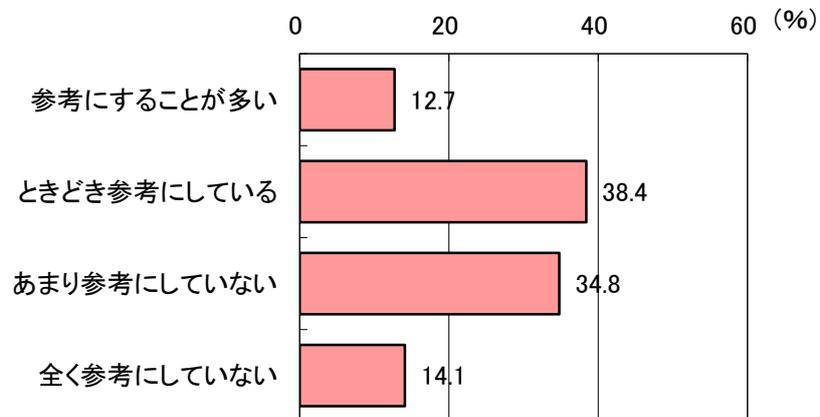
問 15 食品を選ぶとき、気をつけるのはどれですか。(あてはまるものすべて)

・「賞味期限」が最も多く、次に「原産国」「原産地(国内)」と続く。



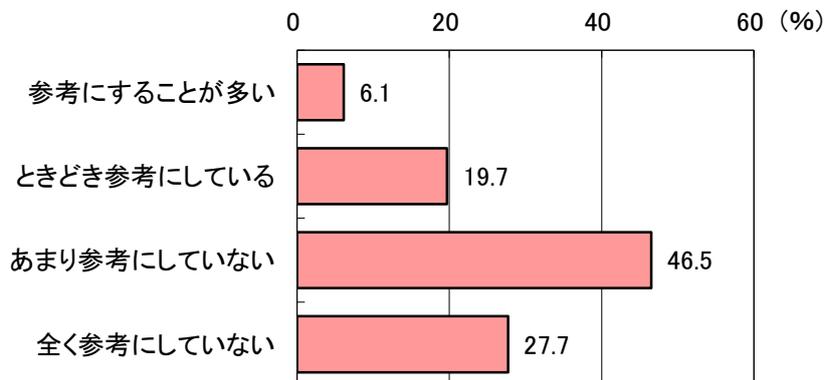
問 16 食品を購入する時に、栄養成分表示を参考にしていますか。(あてはまるものを1つ)

・「ときどき参考にしている」という人が38.4%で最も多い。



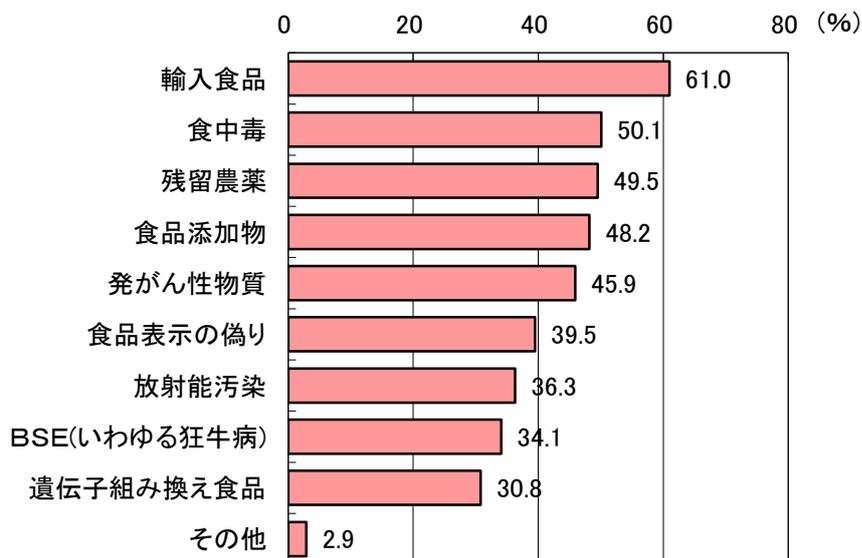
問 17 外食の際に、栄養成分表示を参考にしていますか。(あてはまるものを1つ)

・「あまり参考にしていない」という人が46.5%で最も多い。



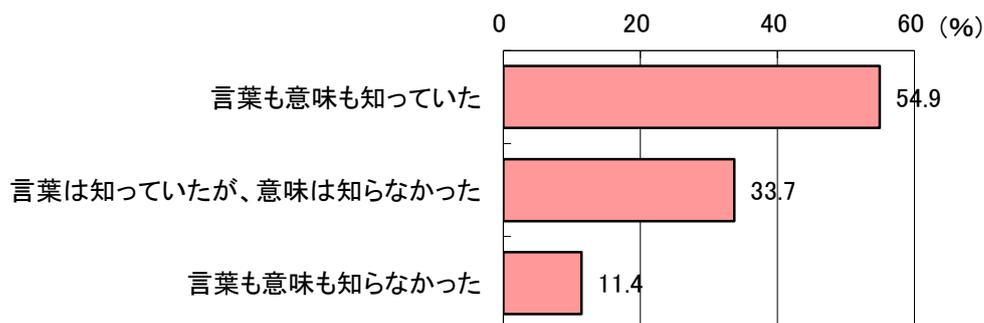
問 18 日ごろ、食の安全に関して不安に思うことは何ですか。(あてはまるものすべて)

・「輸入食品」が最も多く、次に「食中毒」「残留農薬」と続く。



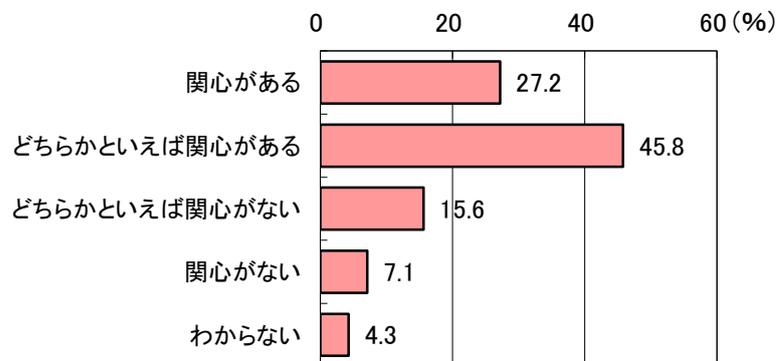
問 19 あなたは「食育」という言葉やその意味を知っていましたか。(あてはまるものを1つ)

・「言葉も意味も知っていた」という人が54.9で半数以上である。



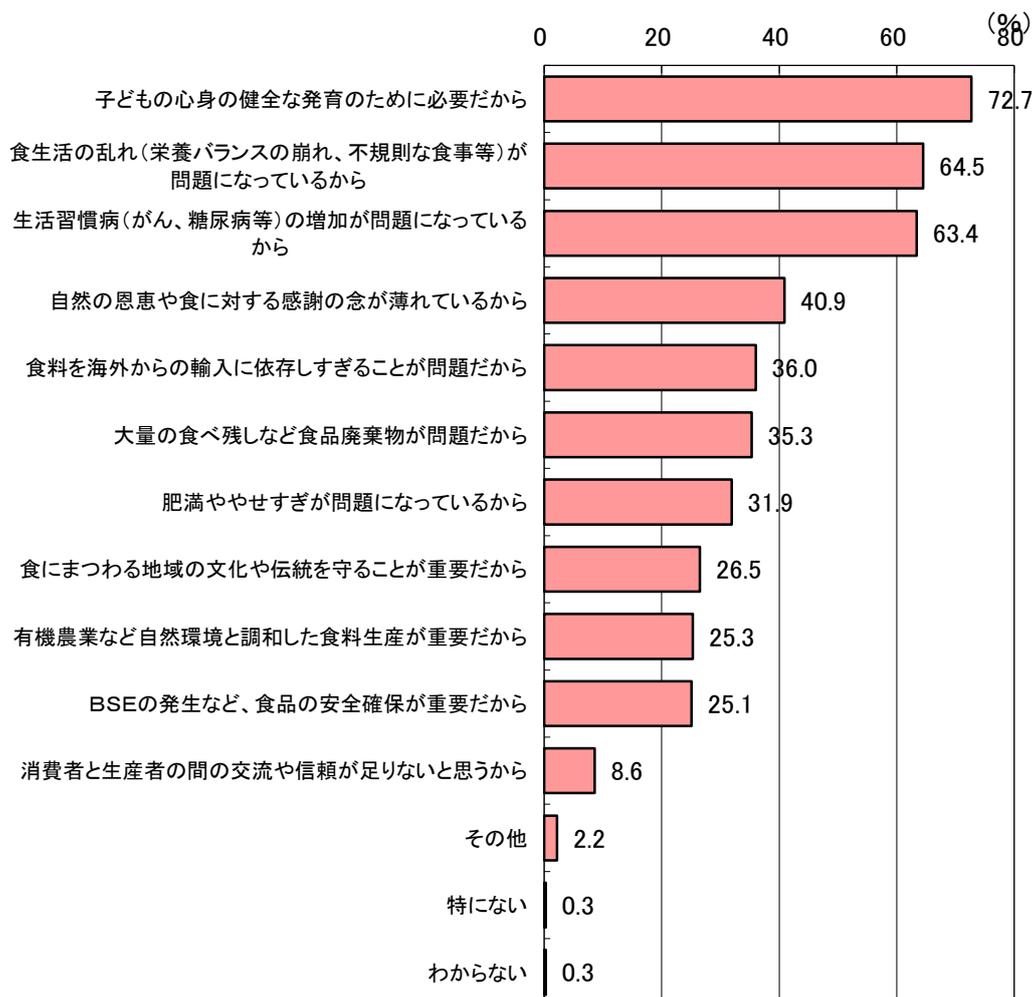
問 20 あなたは「食育」に関心がありますか、それとも関心がありませんか。(あてはまるものを1つ)

・「どちらかといえば関心がある」という人が45.8%で最も多い。



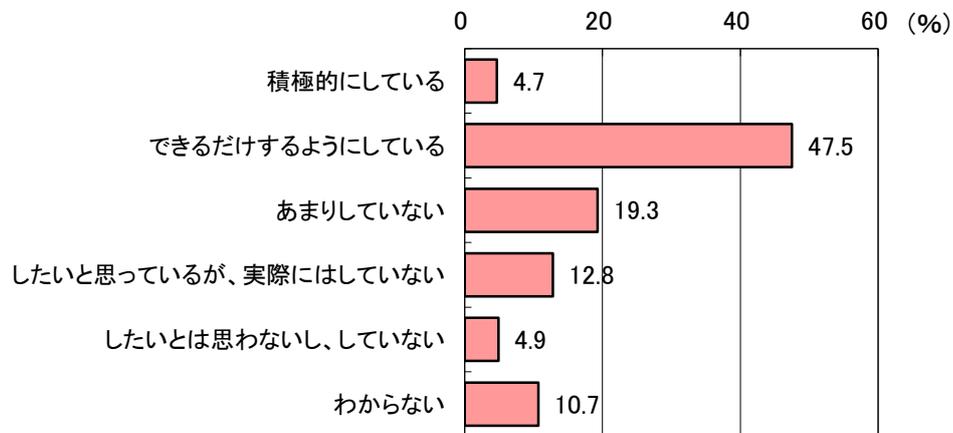
問 21 (問 20 で「1. 関心がある」「2. どちらかといえば関心がある」と回答した方におたずねします) その理由は何ですか。(あてはまるものすべて)

・「子どもの心身の健全な発育のために必要だから」が最も多く、次が「食生活の乱れ(栄養バランスの崩れ、不規則な食事等)が問題になっているから」である。



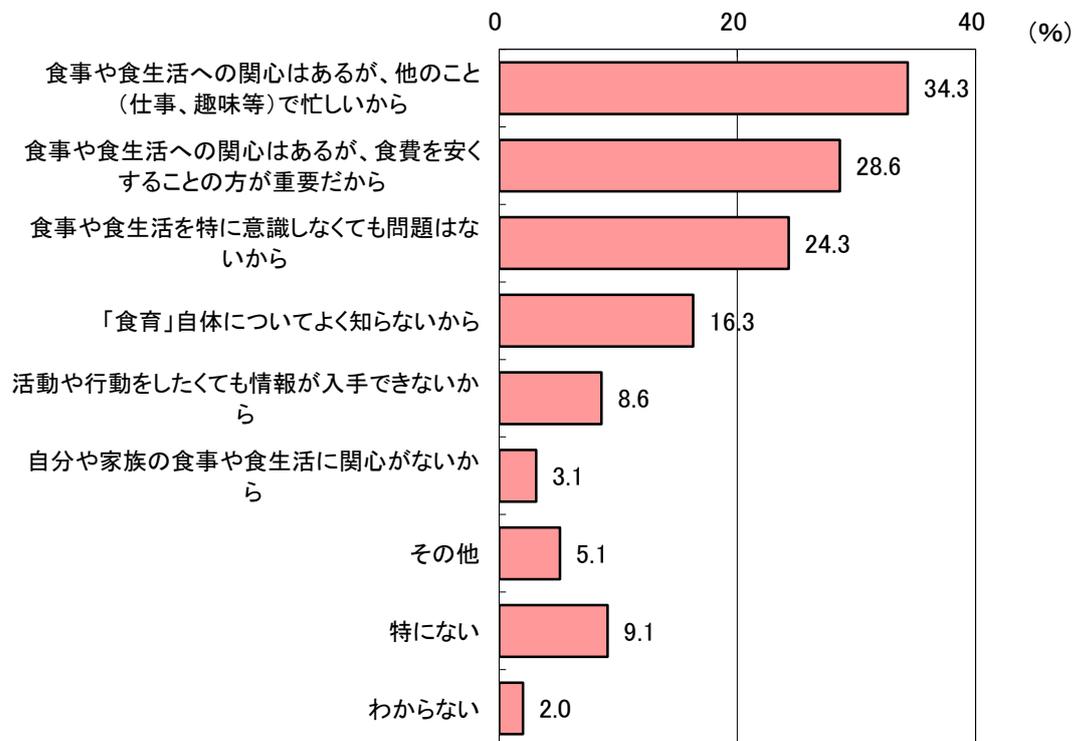
問 22 あなたは、日頃から「食育」を何らかの形で実践していますか。(あてはまるものを1つ)

- ・「できるだけするようにしている」が47.5%であり、「積極的にしている」を合わせると52.2%の人が実践している。



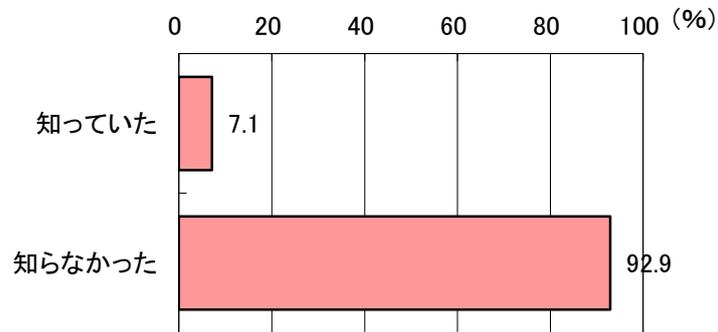
問 23 (問 22 で「3. あまりしていない」「4. 実際にはしていない」「5. していない」と回答した方におたずねします) あなたが食育を実践していない理由は何ですか。(あてはまるものすべて)

- ・「食事や食生活への関心はあるが、他のこと(仕事、趣味等)で忙しいから」が最も多く、次が「食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから」である。



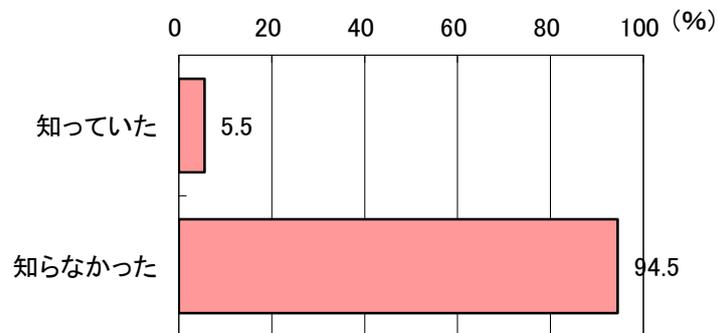
問 24 毎月19日が食育の日であることを知っていましたか。(いずれか1つ)

・「知らなかった」という人が92.9%であり、認知度が非常に低い。



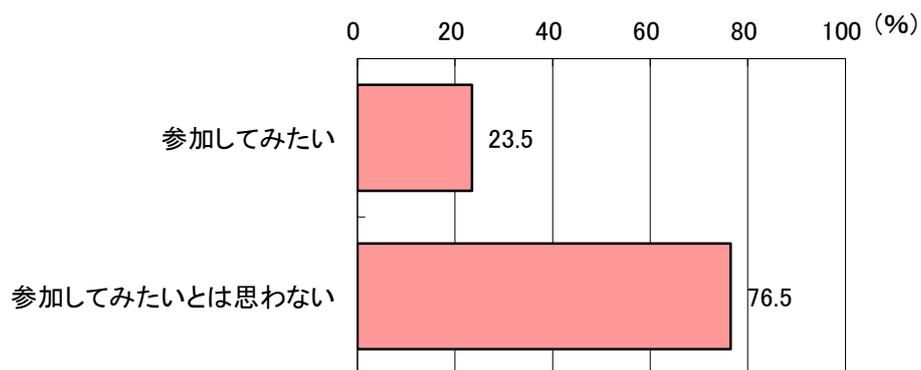
問 25 毎年6月は食育月間であることを知っていましたか。(いずれか1つ)

・「知らなかった」という人が94.5%であり、認知度が非常に低い。



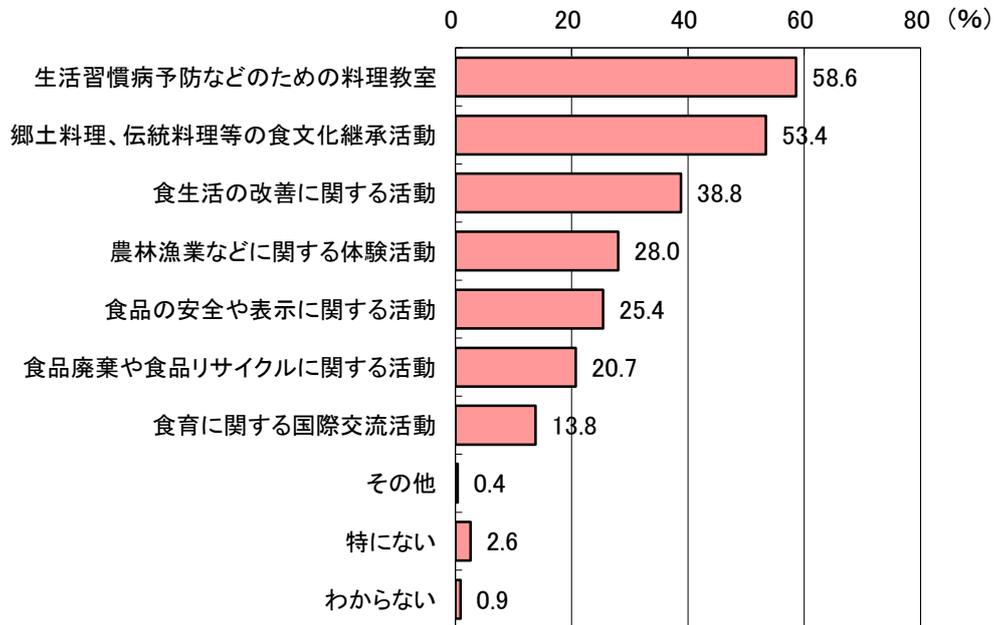
問 26 あなたは、食育の推進にかかわるボランティア活動に機会があれば参加してみたいとお考えですか。(いずれか1つ)

・「参加してみたいとは思わない」という人が76.5%を占めている。



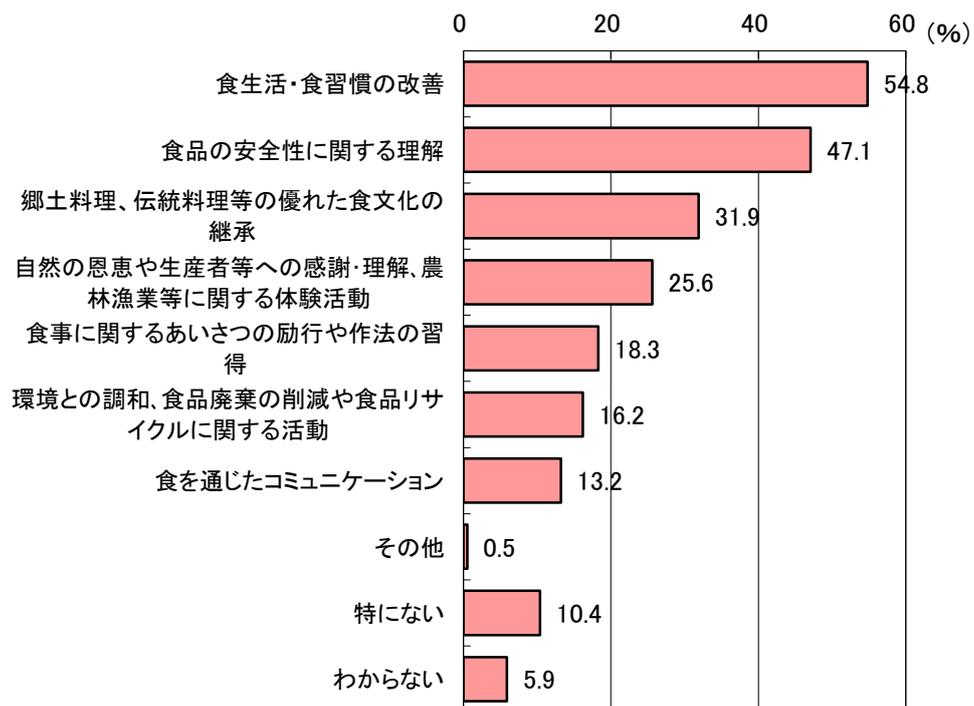
問 27 (問 26 で「1. 参加してみたい」と回答した方におたずねします) どのような食育に関するボランティア活動に参加してみたいと思いますか。(あてはまるものすべて)

- ・「生活習慣病予防などのための料理教室」が最も多く、次が「郷土料理、伝統料理等の食文化継承活動」である。



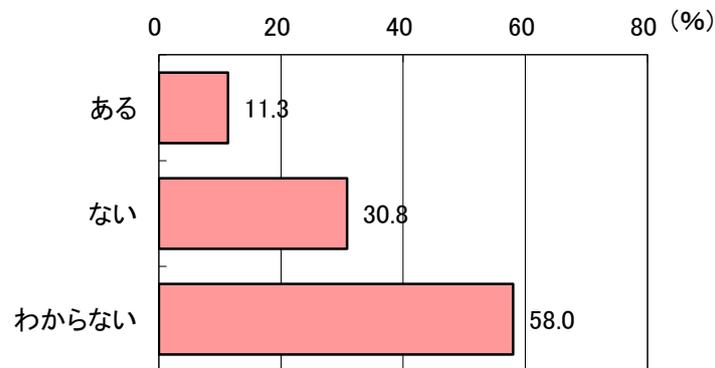
問 28 食育にはさまざまな内容が含まれますが、次のうちどれに関心がありますか。(あてはまるものすべて)

- ・「食生活・食習慣の改善」が最も多く、次が「食品の安全性に関する理解」である。



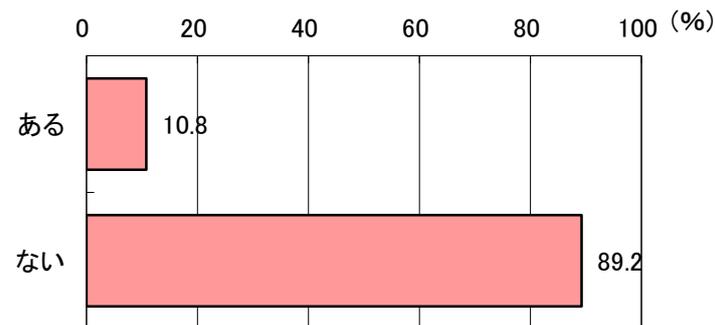
問 29 あなたの地域、職場や学校等で、健康あるいは栄養に関する学習や活動を行う自主的な集まり（サークル）はありますか。（あてはまるものを1つ）

- ・「わからない」という人が、58%と半数以上で最も多い。



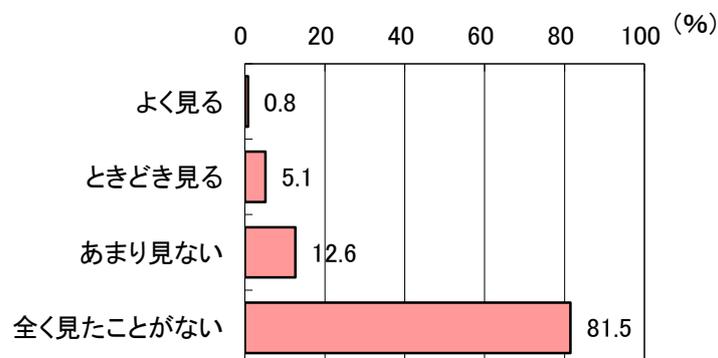
問 30 あなたは健康あるいは栄養に関する学習や活動を行う自主的な集まり（サークル）に参加したことがありますか。（いずれか1つ）

- ・参加したことが「ない」人が89.2%を占めている。



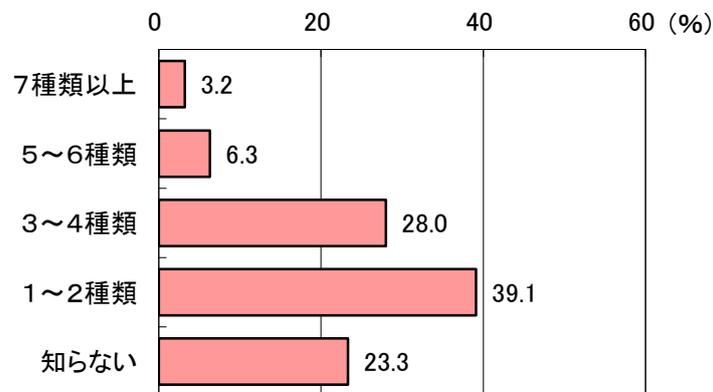
問 31 あなたは市のホームページの中にある食育関係のページを見ることがありますか。（いずれか1つ）

- ・「全く見たことがない」人が81.5%を占めている。



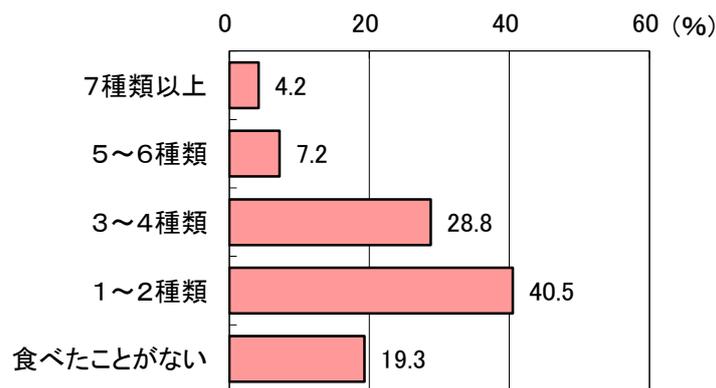
問 32 お住まいの地域の郷土料理や伝統食を何種類知っていますか。(あてはまるものを1つ)

・「1～2種類」が39.1%で最も多い。



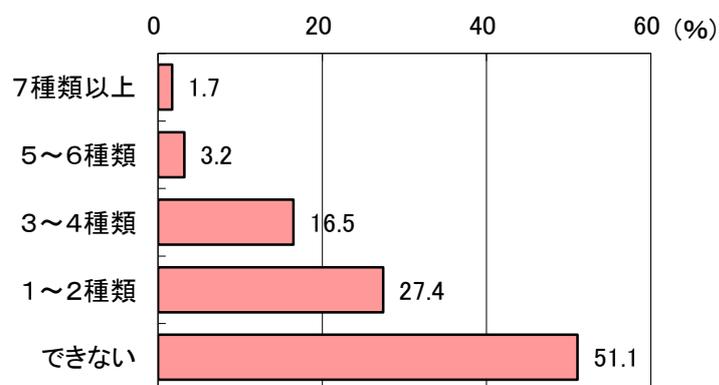
問 33 お住まいの地域の郷土料理や伝統食を何種類食べたことがありますか。(あてはまるものを1つ)

・「1～2種類」が40.5%で最も多い。



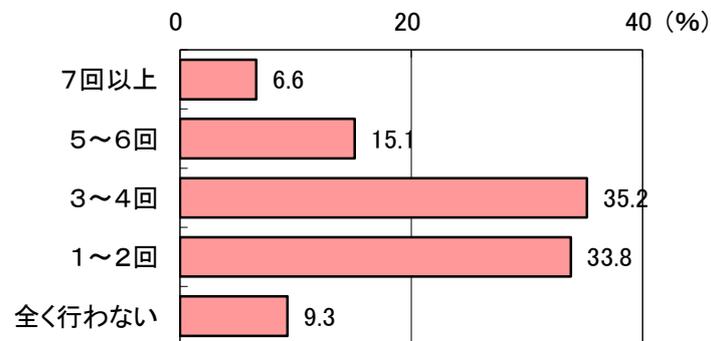
問 34 お住まいの地域の郷土料理や伝統食を何種類作ることができますか。(あてはまるものを1つ)

・「できない」が51.1%で最も多い。



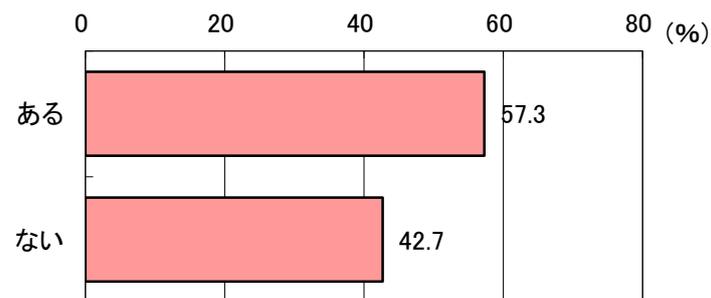
問 35 我が国では伝統的な行事に行事食を食べる習慣があります（お正月のおせち料理、土用の日のうなぎ、秋分の日のおはぎ等）。ご自宅で行事食を伴う伝統的な行事を1年間にどの程度行っていますか。（あてはまるものを1つ）

- ・「3～4回」が35.2%で最も多い。



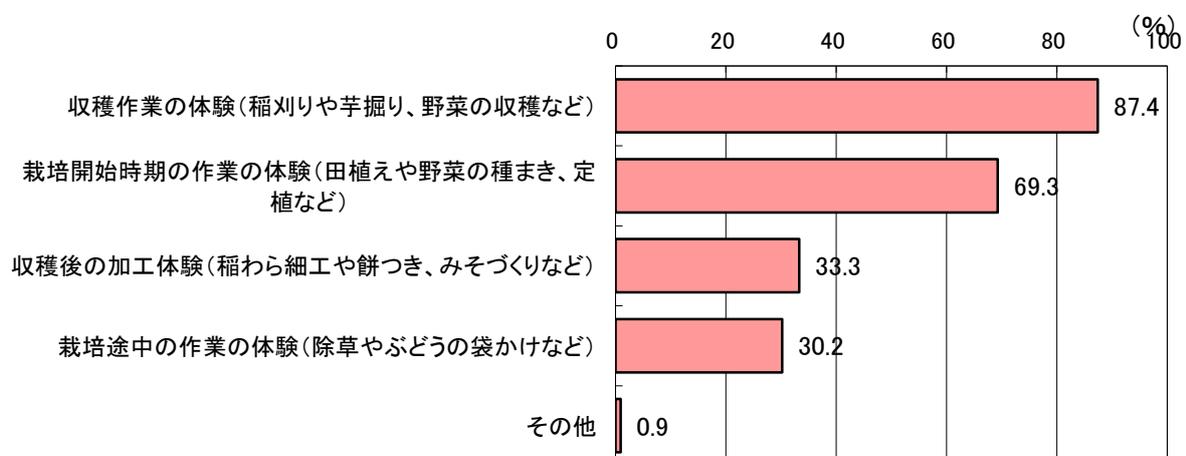
問 36（農家の方、自宅で農業をされている方以外の方におたずねします。）あなた自身、またはご家族の方が、農業に関する体験をされたことはありますか。

- ・「ある」という人が57.3%で半数以上である。



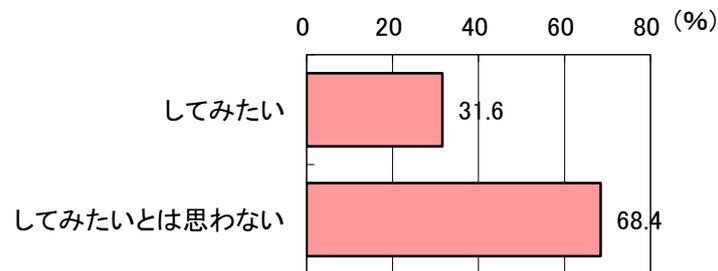
問 37（問 36 で「1. ある」と答えた方におたずねします）参加されたことのある体験はどのような内容ですか。（あてはまるものすべて）

- ・「収穫作業の体験（稲刈りや芋掘り、野菜の収穫など）」が最も多い。



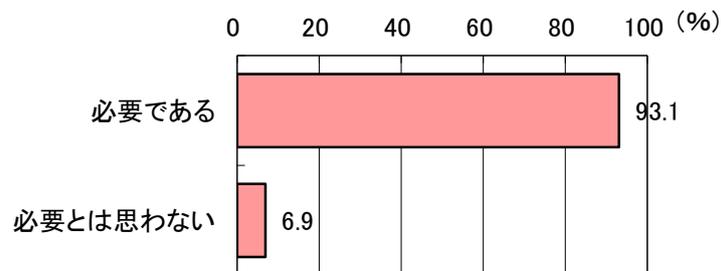
問 38 (問 36 で「2. ない」と答えた方におたずねします) 農業に関する体験をしてみたいですか。(いずれか1つ)

・「してみたい」という人は、31.6%である。



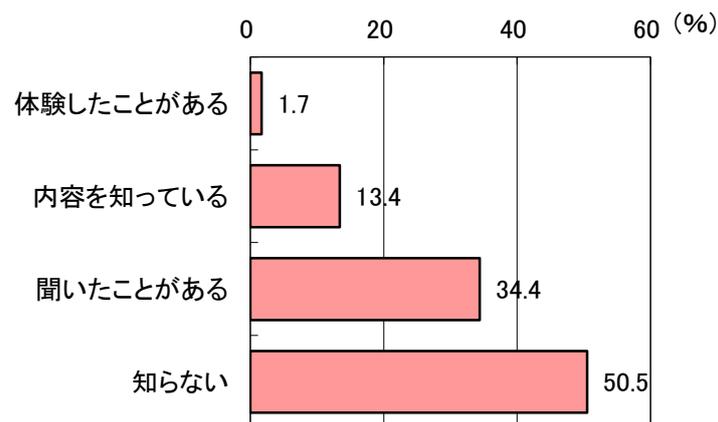
問 39 (すべての方におたずねします) 特に、子どもたちの食育を進める上で農業に関する体験は必要だと思いますか。(いずれか1つ)

・「必要である」という人が93.1%で大半を占めている。



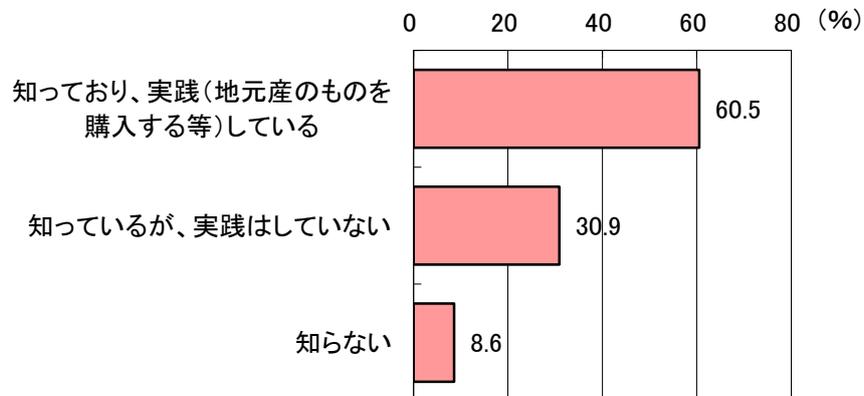
問 40 グリーンツーリズムを知っていますか。(あてはまるものを1つ)

・「知らない」という人が50.5%を占めている。



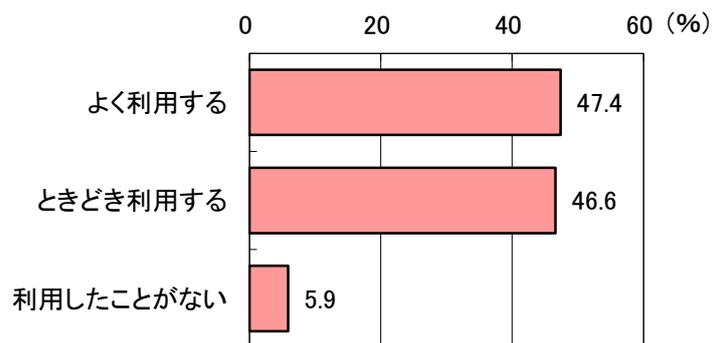
問 41 地域で生産されたものをできるだけその地域で消費する「地産地消」の考えを知っていますか。(あてはまるものを1つ)

- ・「知っており、実践（地元産のものを購入する等）している」という人が 60.5%で半数以上である。



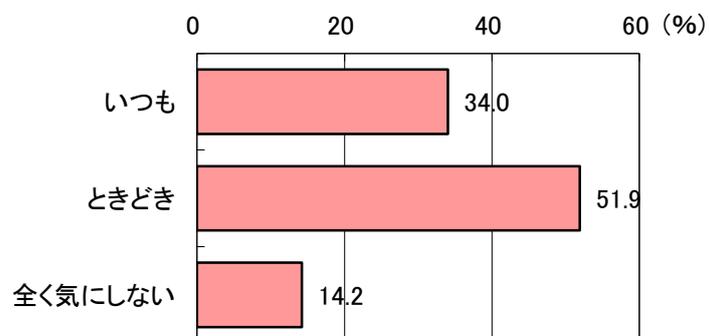
問 42 地元で採れた野菜・果物などを販売している農産物直売所を利用したことがありますか。(あてはまるものを1つ)

- ・「よく利用する」という人が 47.4%である。



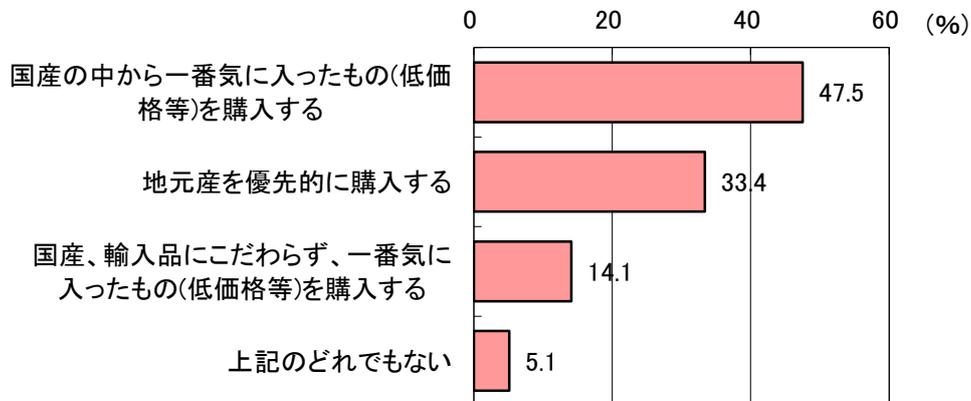
問 43 産地表示を確認して地元（今治）産を購入するよう心がけていますか。(あてはまるものを1つ)

- ・「ときどき」という人が 51.9%で半数以上である。



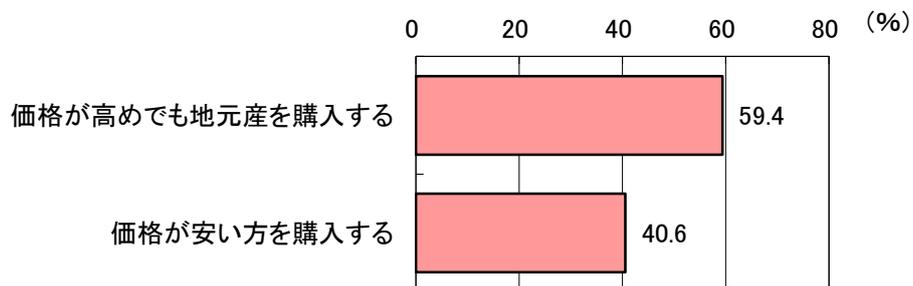
問 44 食材を購入する際、あなたの考えに一番近いものはどれですか。(あてはまるものを1つ)

- ・「国産の中から一番気に入ったもの(低価格等)を購入する」という人が 47.5%で最も多い。



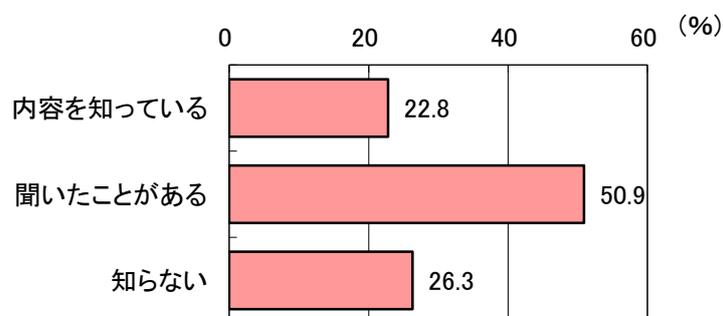
問 45 地元農産物で安全・安心なものであれば、少し価格が高めでも購入しますか。(あてはまるものを1つ)

- ・「価格が高めでも地元産を購入する」という人が 59.4%で半数以上である。



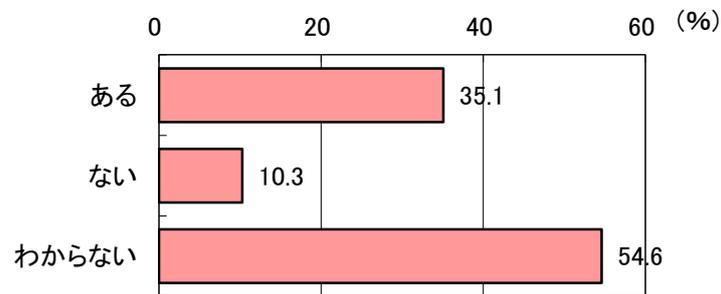
問 46 有機JASの認証制度(表示)を知っていますか。(あてはまるものを1つ)

- ・「聞いたことがある」という人が 50.9%で最も多い。



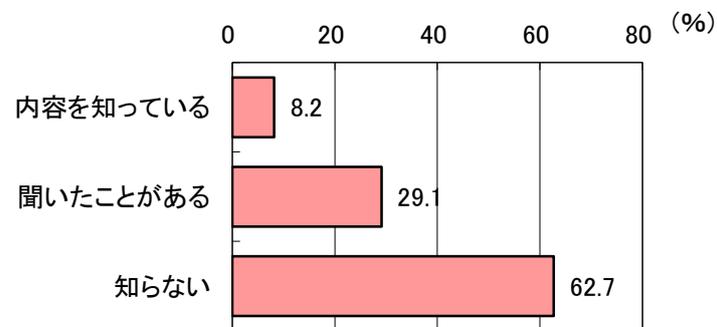
問 47 有機JASの認証を受けた農産物を買ったことがありますか。(あてはまるものを1つ)

・「わからない」という人が54.6%で半数以上である。



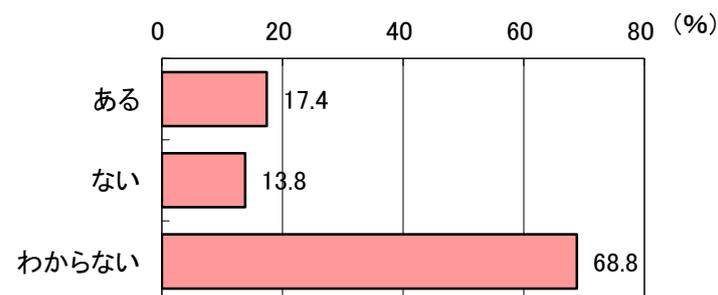
問 48 特別栽培農産物、エコ愛媛の認証制度を知っていますか。(あてはまるものを1つ)

・「知らない」という人が62.7%で半数以上である。



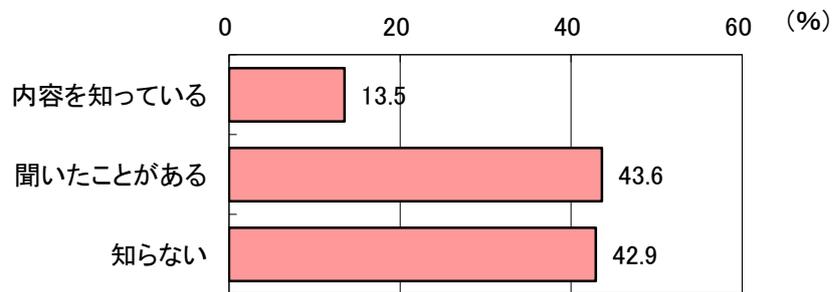
問 49 特別栽培農産物、エコ愛媛の認証を受けた農産物を買ったことがありますか。(あてはまるものを1つ)

・「わからない」という人が68.8%を占めている。



問 50 今治市では、学校給食で安全・安心な今治産食材の優先使用（米、パン用小麦、野菜など）を行っていることを知っていますか。（あてはまるものを1つ）

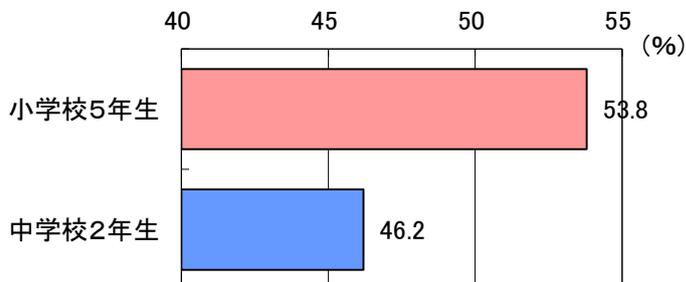
・「知らない」という人が42.9%で最も多い。



2 小中学生調査

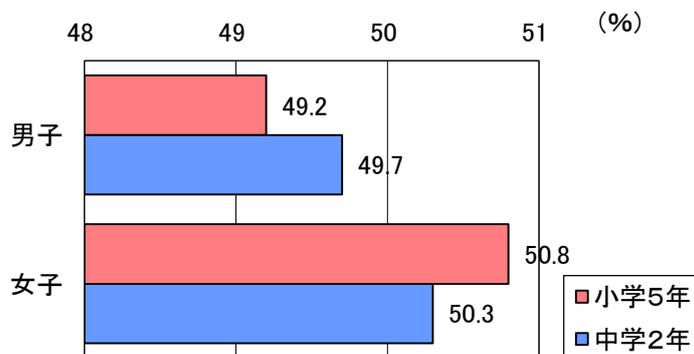
F 1 学年

- ・回答者の学年は、小学生のほうが中学生よりもやや多い。



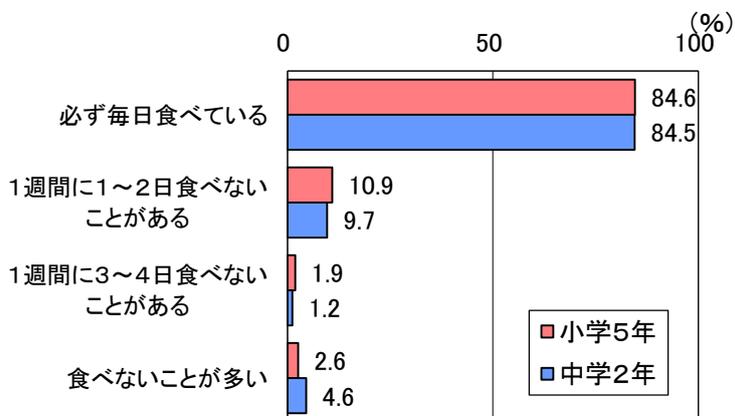
F 2 性別

- ・回答者の性別は、小学生、中学生ともに女子が男子よりもやや多い。



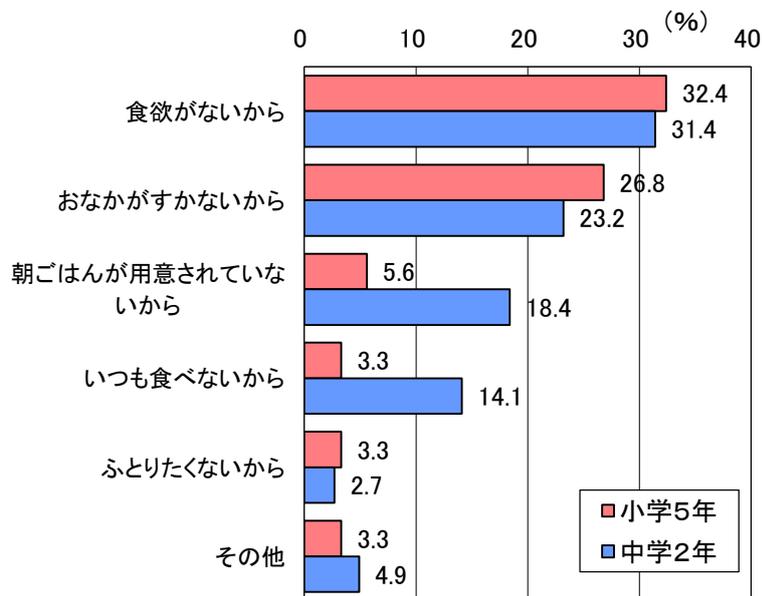
問1 あなたは朝ご飯を毎日食べますか。1つえらんで○をつけてください。

- ・朝ご飯を食べる頻度は、小学生、中学生ともに「必ず毎日食べている」人が8割を超えている。



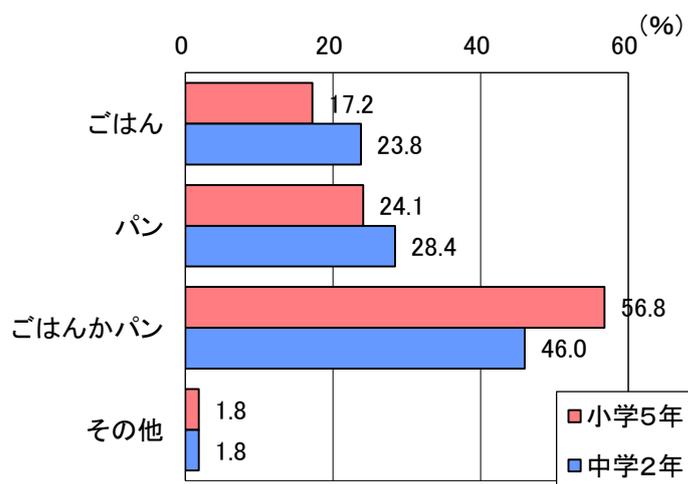
問2 (問1で「朝ごはんを食べないことがある」と答えた人におたずねします。) その理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- ・「時間がないから」が最も多く、次が「食欲がないから」である。中学生になると「朝ごはんが用意されていないから」、「いつも食べないから」という理由が多くなることがわかる。



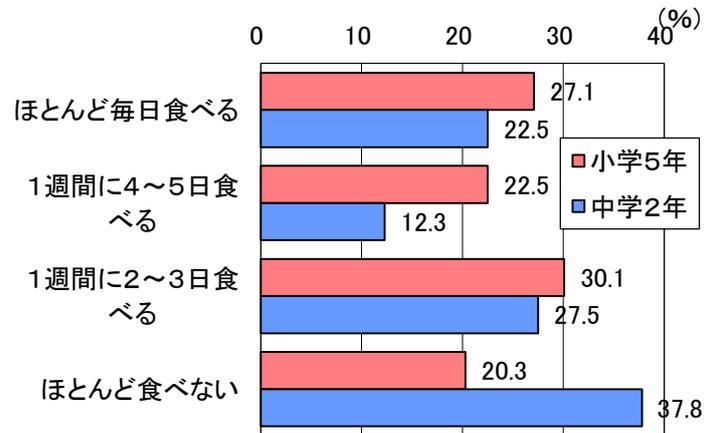
問3 朝ご飯の主食は、何ですか。1つえらんで○をつけてください。

- ・「ごはんかパン」が最も多く、次が「パン」である。



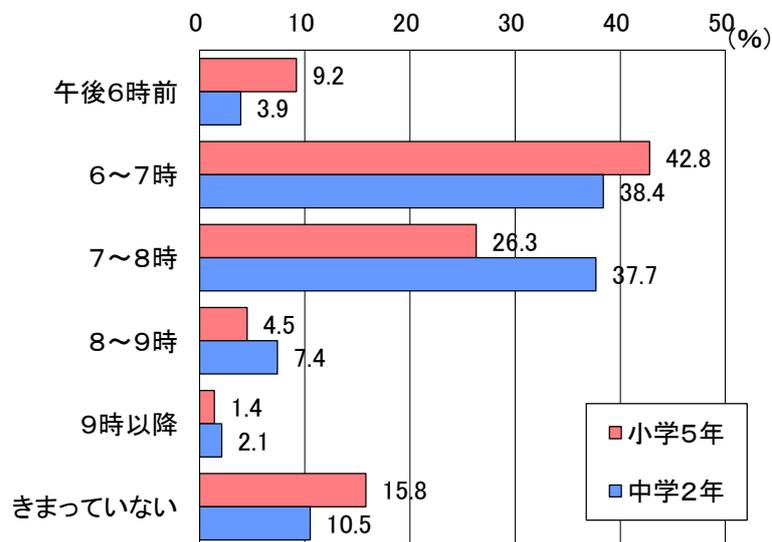
問4 あなたは、学校から帰ってから夕食までの間におやつを食べますか。1つえらんで○をつけてください。

- ・小学生は「1週間に2～3日食べる」が最も多く、次いで「ほとんど毎日食べる」となっている。中学生になると「ほとんど食べない」という人が増え、最も多くなっている。



問5 夕食は何時ごろ食べ始めますか。1つえらんで○をつけてください。

- ・小学生は「6～7時」が最も多く、次が「7～8時」である。中学生は「6～7時」と「7～8時」が同じくらいの割合になっている。

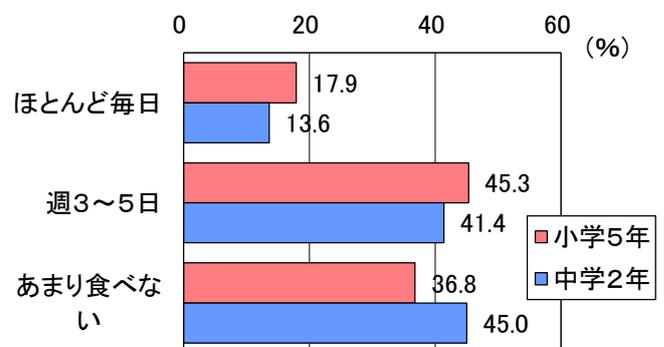
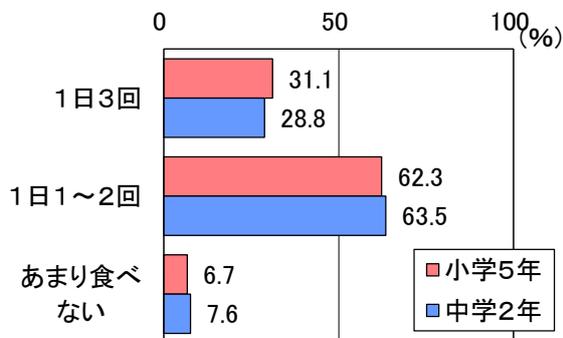


問6 あなたはふだん、次の食品をどれくらい食べていますか。それぞれ1つえらんで○をつけてください。

- ・小中学生ともに、野菜は「1日1～2回」が、果物は「週3～5日」が最も多い。中学生になると、「果物をあまり食べない」人の割合が多くなっていることがわかる。

(1) 野菜 (冷凍食品は除く)

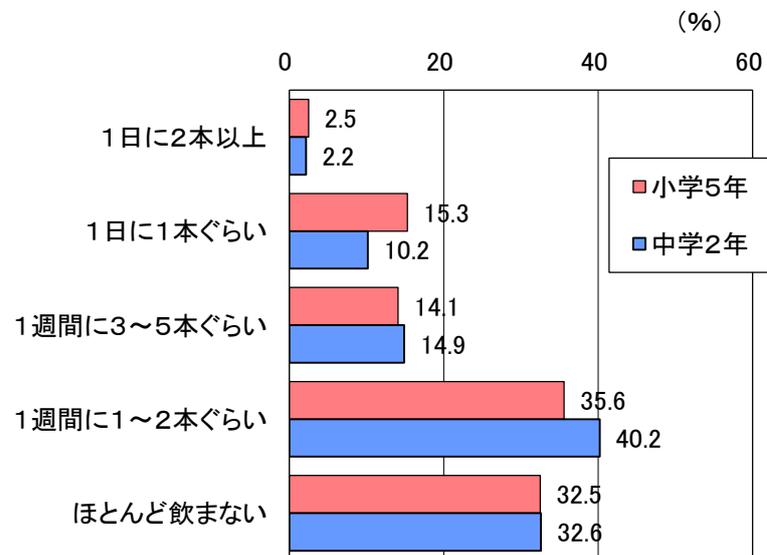
(2) 果物



問7 あなたは、清涼飲料水 (コーラやスポーツドリンクなど) をどのくらい飲みますか。

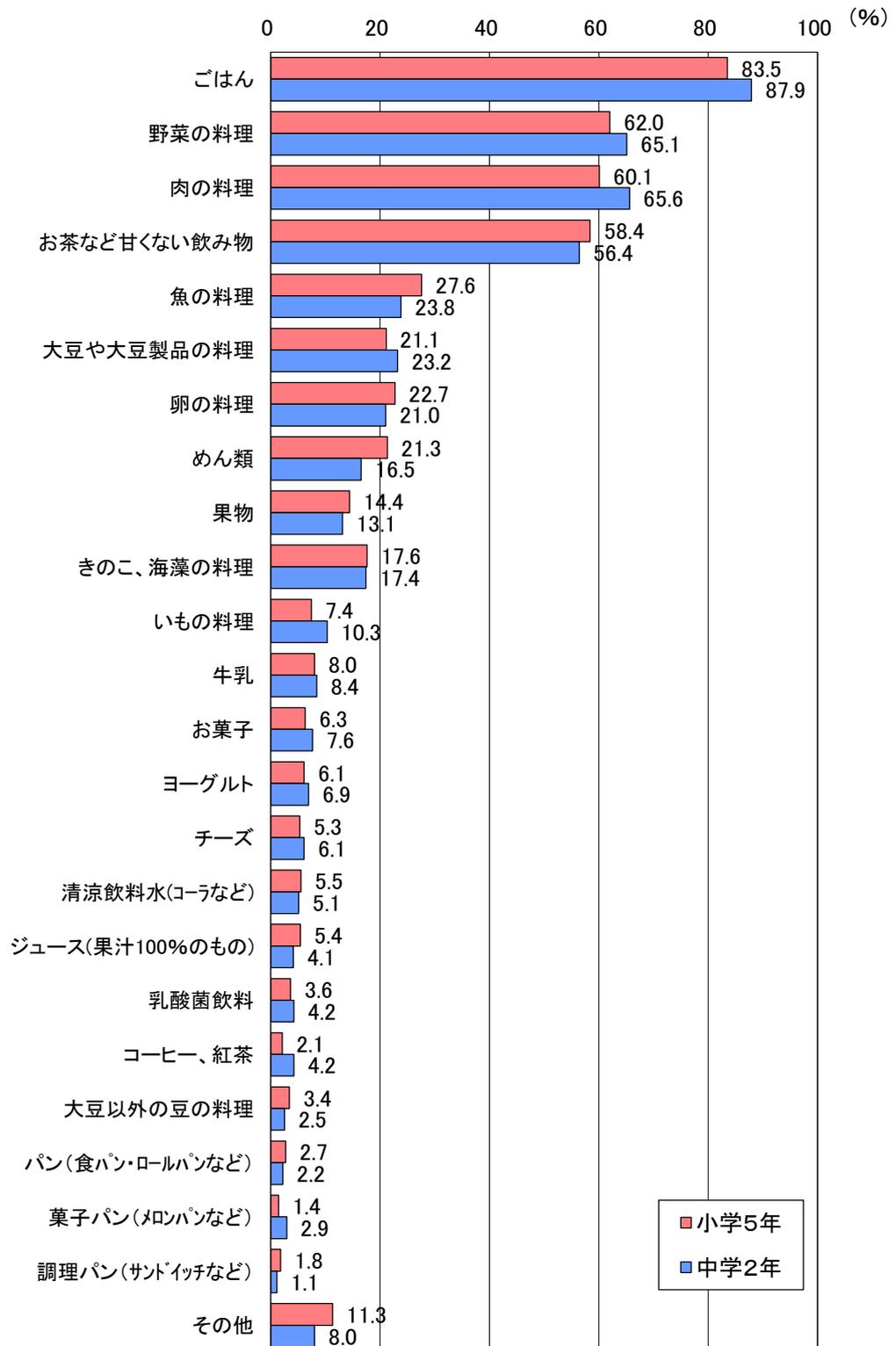
1つえらんで○をつけてください。(1本は、350ミリリットルとします)

- ・「1週間に1～2本ぐらい」が最も多い。毎日飲む割合は小学生の方が多い。



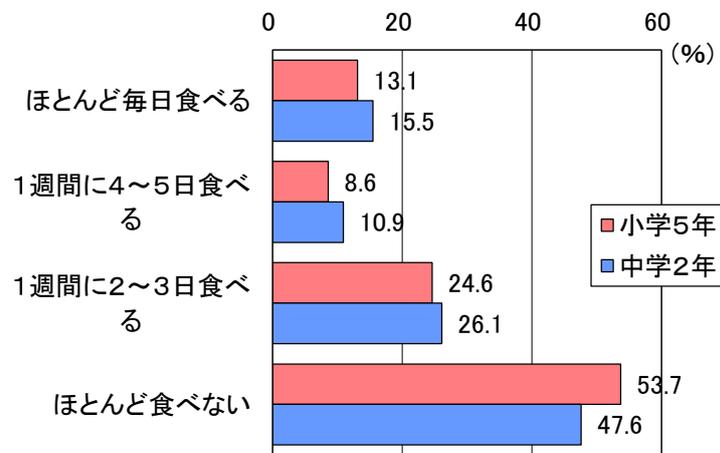
問8 昨日の夕食で何を食べましたか。食べたものすべてに○をつけてください。

・「ごはん」が最も多く、次に「野菜の料理」「肉の料理」「お茶など甘くない飲み物」と続く。「魚の料理」よりも「肉の料理」のほうが割合が高い。



問9 あなたは、夜食（夕食を食べてから寝るまでの間に食べるもの）を食べますか。1つえらんで○をつけてください。

・「ほとんど食べない」が約半数で最も多い。

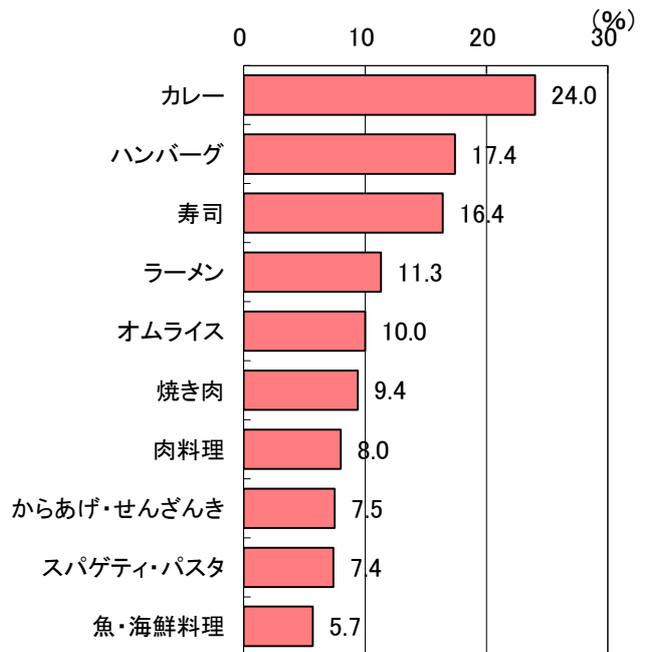
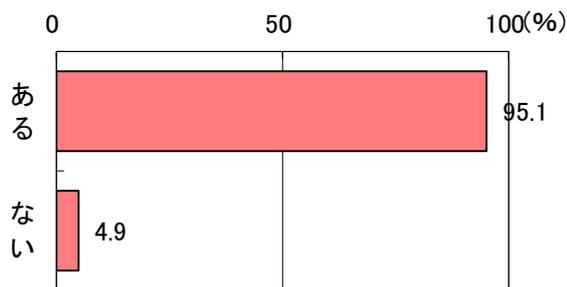


問 10 あなたは、好きな料理やきれいな料理がありますか。それぞれ1つえらんで○をつけてください。ある場合は、それぞれ3つ以内で書いてください。

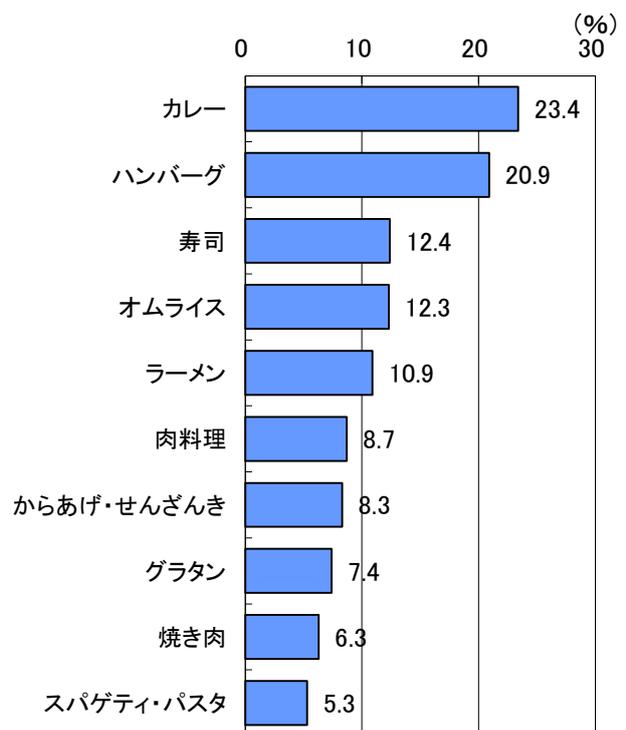
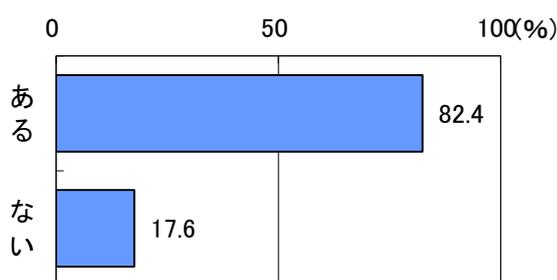
- ・好きな料理としては小中学生ともに「カレー」が最も多く、次に「ハンバーグ」「寿司」と続く。
- ・きれいな食べ物では小学生は「ゴーヤチャンプル」が最も多く、次に「魚・海鮮料理」「納豆料理」「きのこ料理」と続いている。中学生は「納豆料理」が最も多く、「魚・海鮮料理」「きのこ料理」「ゴーヤチャンプル」となっている。

(1) 好きな料理

【小学生】

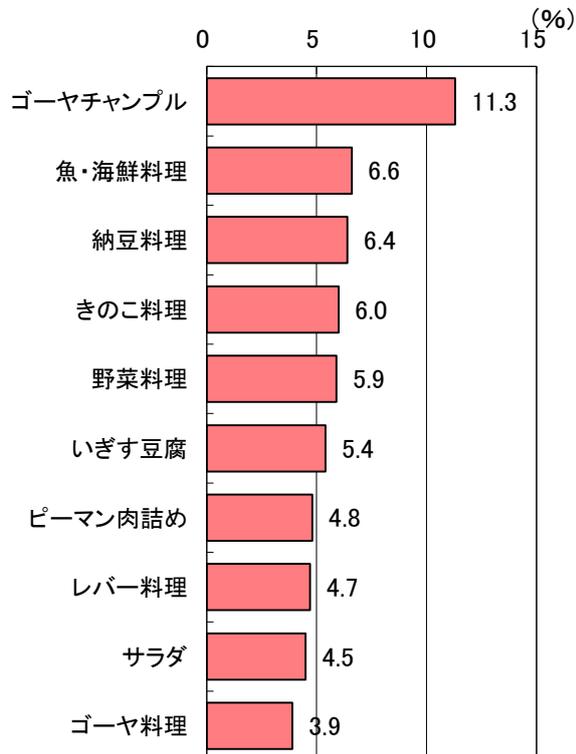
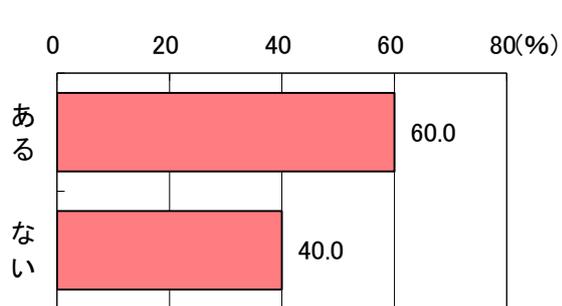


【中学生】

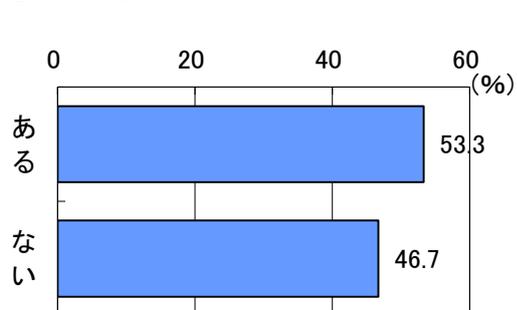


(2) きれいな料理

【小学生】



【中学生】

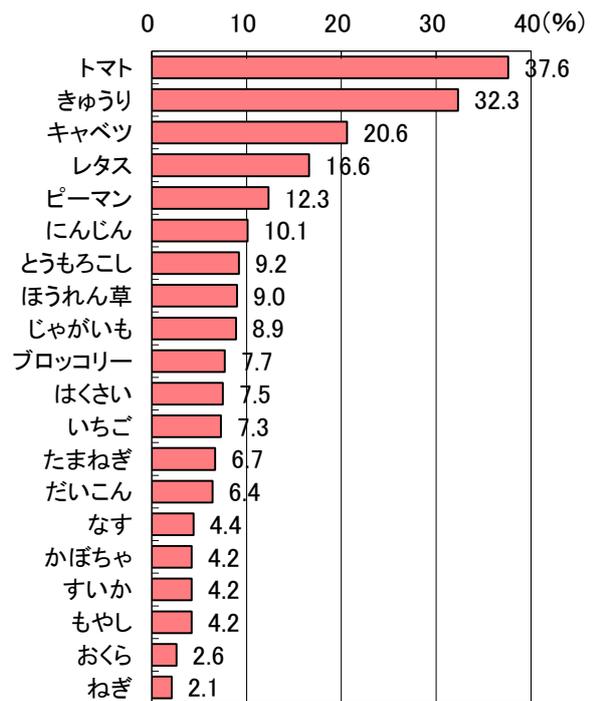
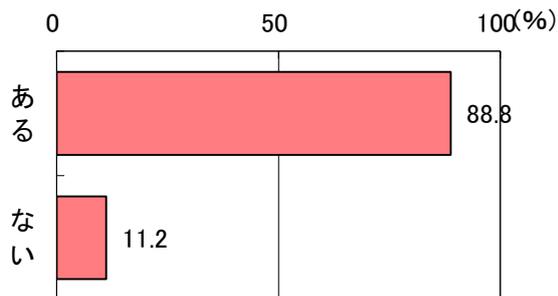


問 11 あなたは、好きな野菜やきれいな野菜がありますか。それぞれ1つえらんで○をつけてください。ある場合は、それぞれ3つ以内で書いてください。

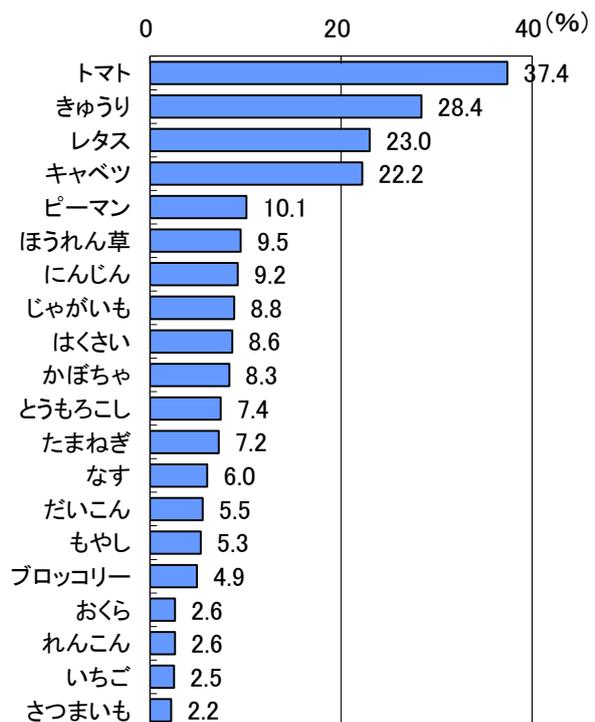
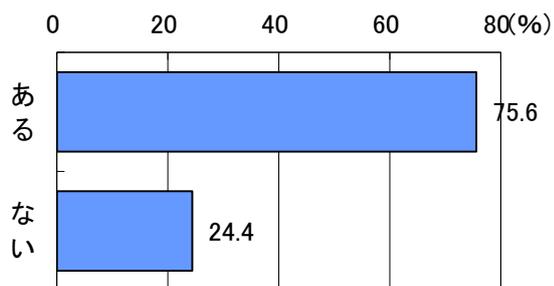
- ・好きな野菜としては「トマト」が最も多く、次に「きゅうり」「キャベツ」「レタス」と続く。
- ・きれいな野菜では小学生は「ゴーヤ」中学生は「なす」が最も多く、次いで「ピーマン」や「トマト」が上位にきている。

(1) 好きな野菜

【小学生】

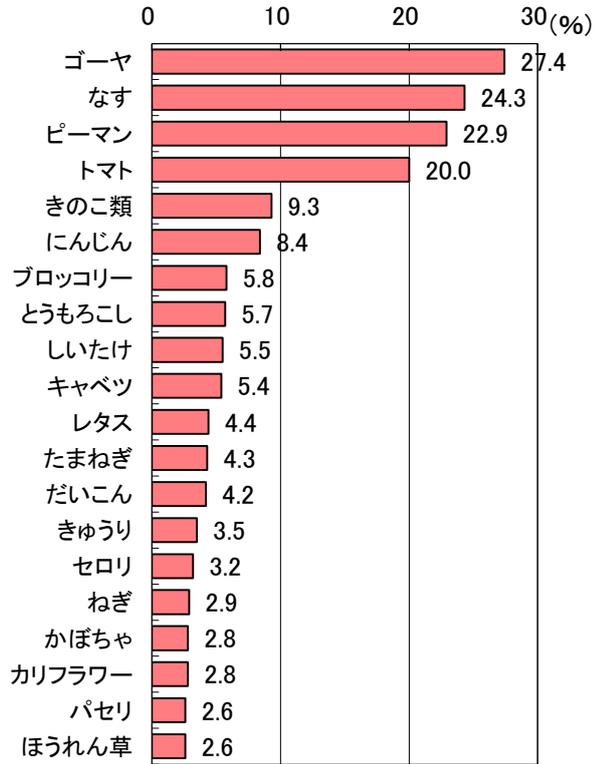
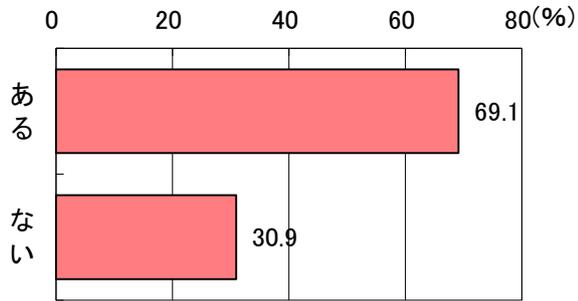


【中学生】

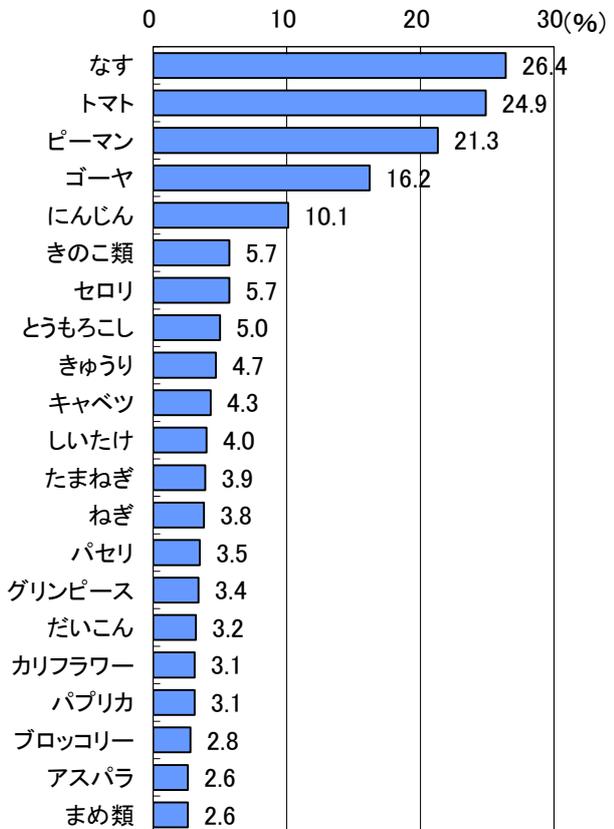
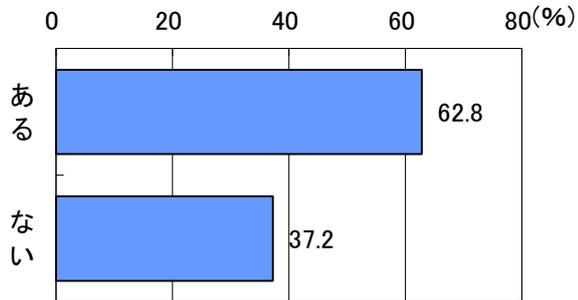


(2) きれいな野菜

【小学生】

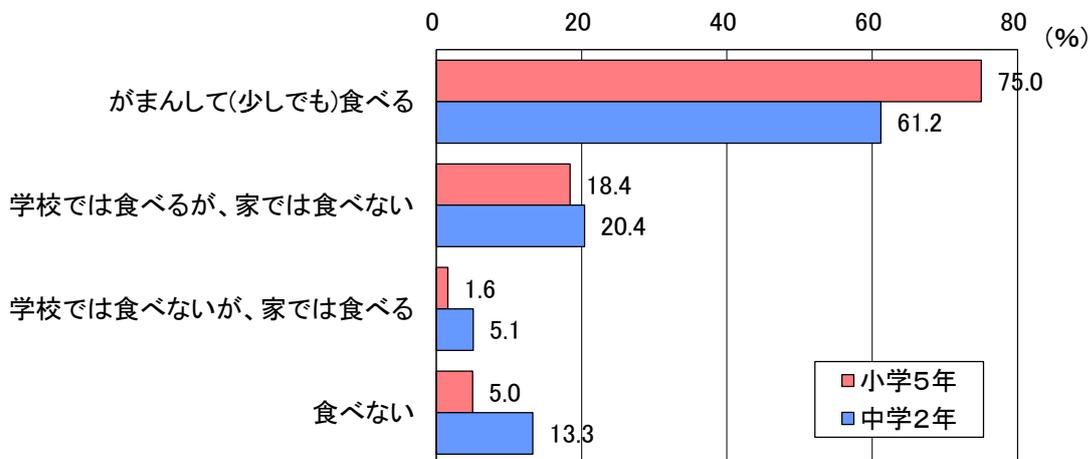


【中学生】



問 12 きらいなものがでたときは、どうしますか。1つえらんで○をつけてください。

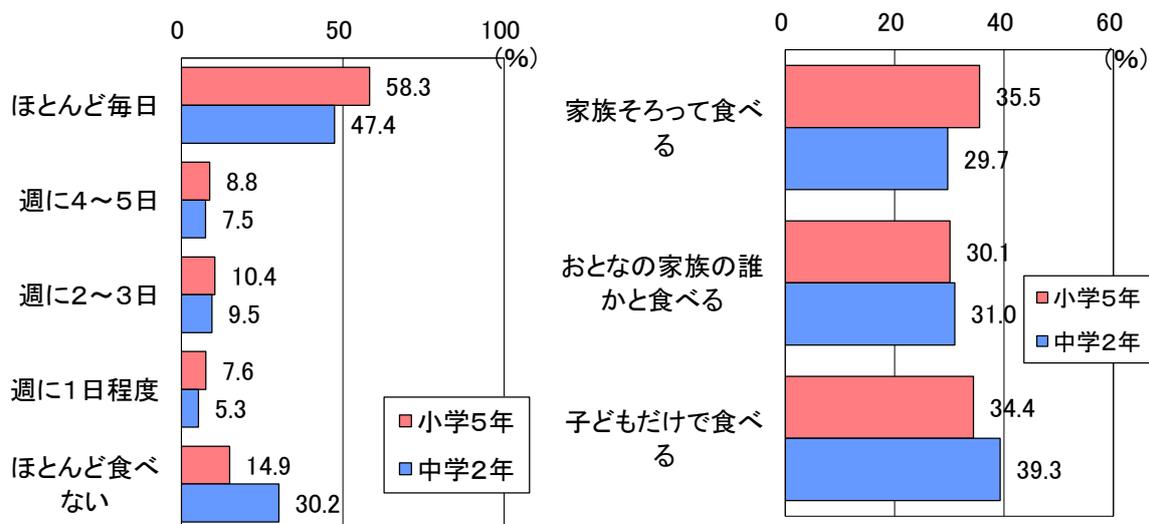
- ・小中学生とも「がまんして(少しでも)食べる」が半数以上で最も多いが、中学生になると「がまんして(少しでも)食べる」が減少し、「食べない」が多くなっている。



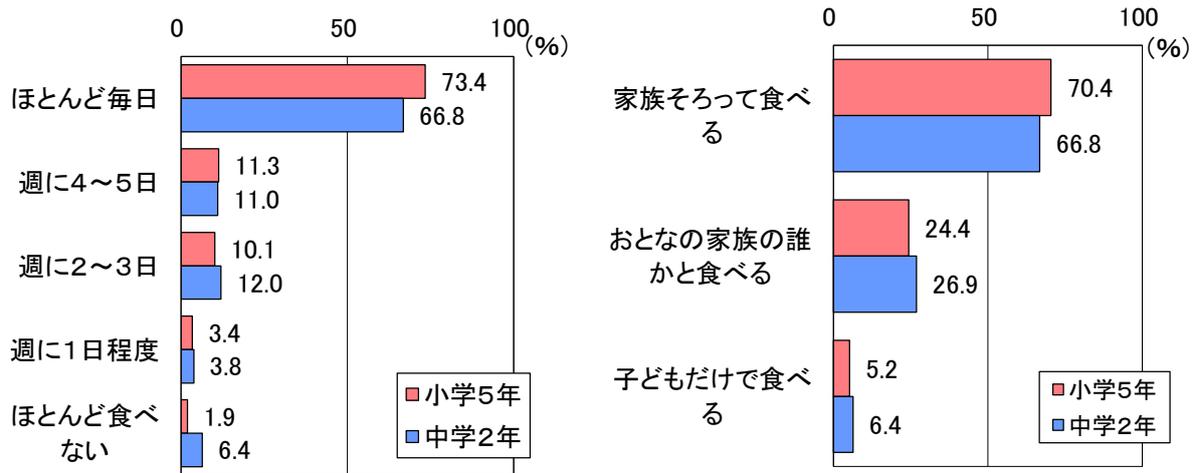
問 13 あなたは、朝食または夕食を家族一緒に食べることは週に何日ぐらいありますか。また、家族と食べる(1~4番)をえらんだ人は、家族のだれと食事をしますか。それぞれ1つをえらんで○をつけてください。

- ・朝食はほとんど毎日「家族の誰かと食べる」が半数に及んでいるが、そのうち家族のだれと食事をするかでは、「子どもだけで食べる」が他よりも若干多い。中学生になると、家族と「ほとんど一緒に食べない」割合が高くなっている。夕食は小中学生ともにほとんど毎日「家族そろって食べる」が大半である。

(1) 朝食

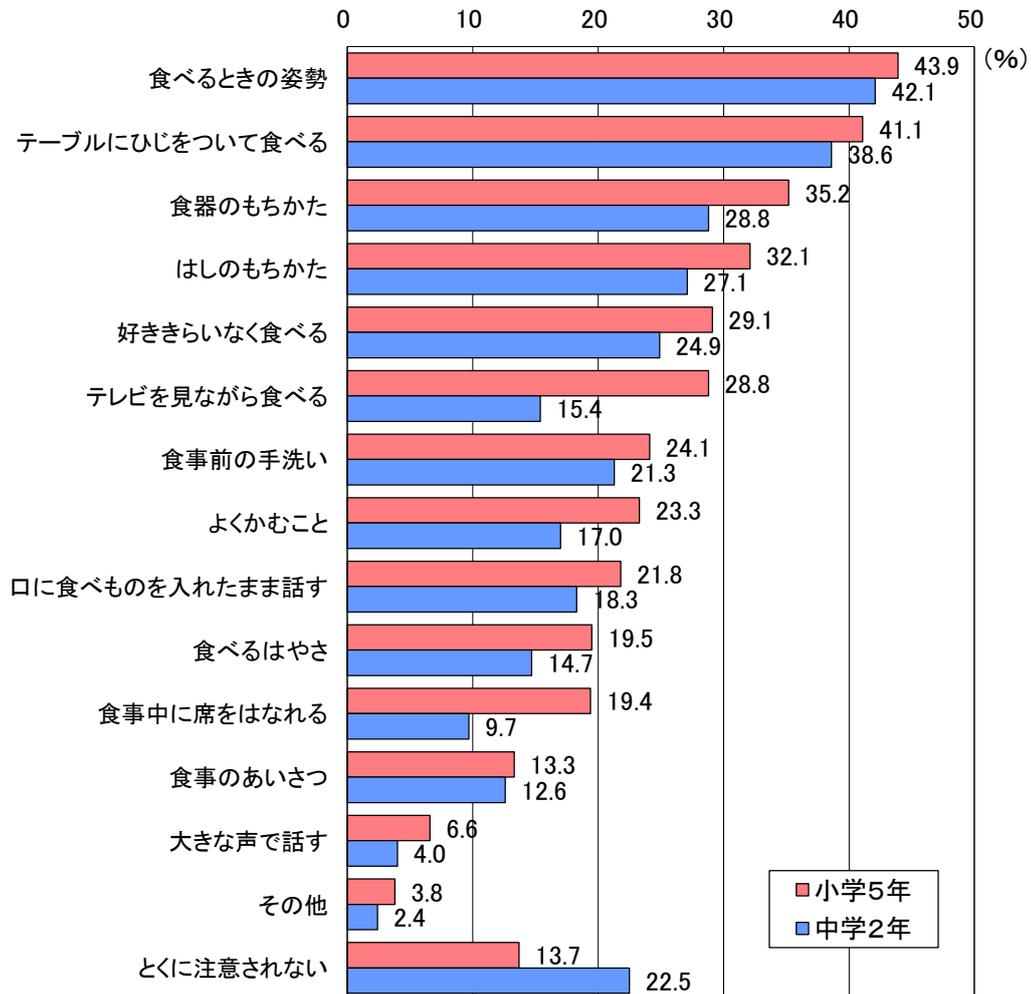


(2) 夕食



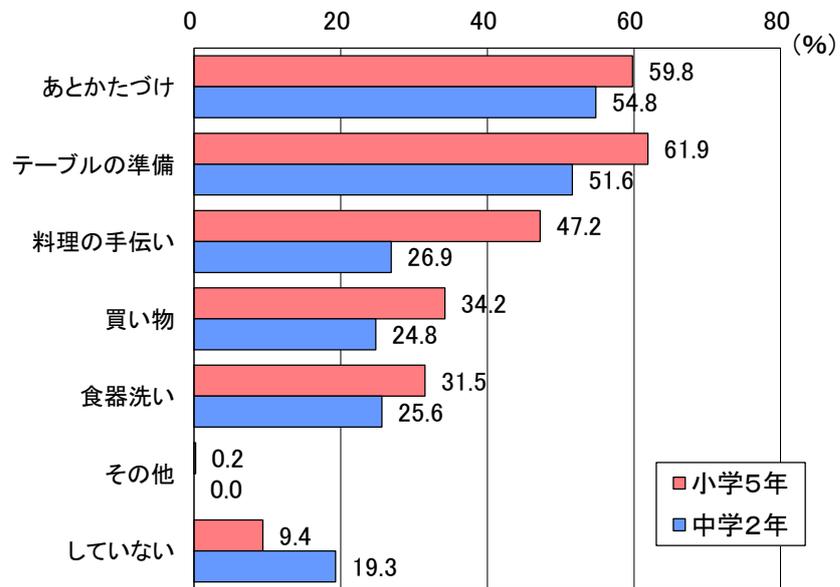
問 14 あなたは、家で食事をするとき、次のようなことで家族に注意されることがあります。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- ・小中学生ともに、「食べるときの姿勢」が最も多く、次が「テーブルにひじをつけて食べる」である。中学生になると「とくに注意をされない」が多くなっている。



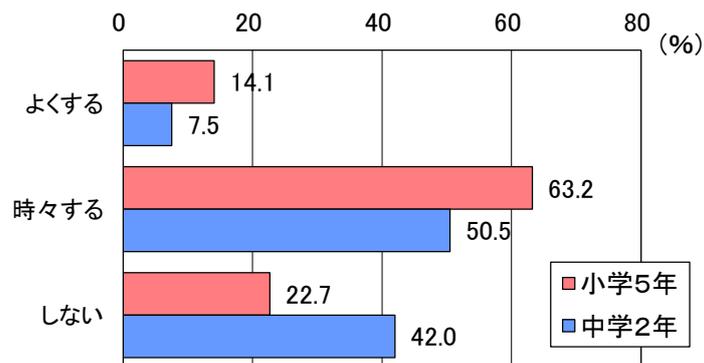
問 15 あなたは、家で食事の手伝いをしますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- ・「あとかたづけ」「テーブルの準備」などの手伝いが多くなっている。中学生になると「料理の手伝い」が減り、「していない」が増えている。



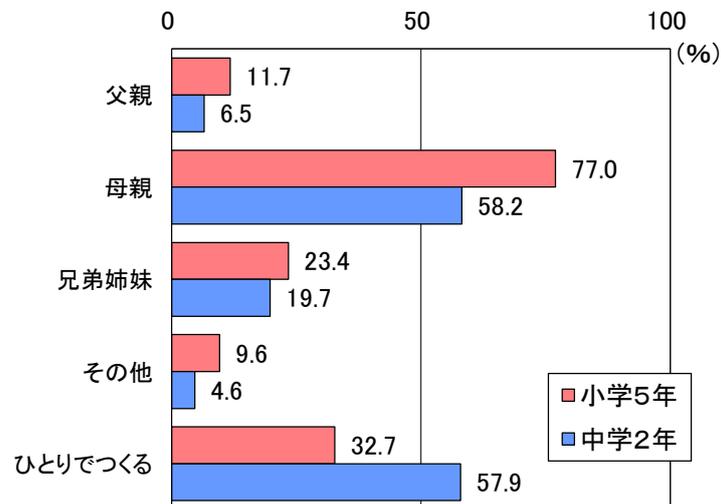
問 16 あなたは、家で料理をつくることがありますか。1つえらんで○をつけてください。

- ・小中学生ともに「時々する」が最も多いが、中学生になると「しない」が4割を超えている。



問17 (問16で「1. よくする」「2. 時々する」をえらんだ人におたずねします。) 料理は誰と一緒につくりますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

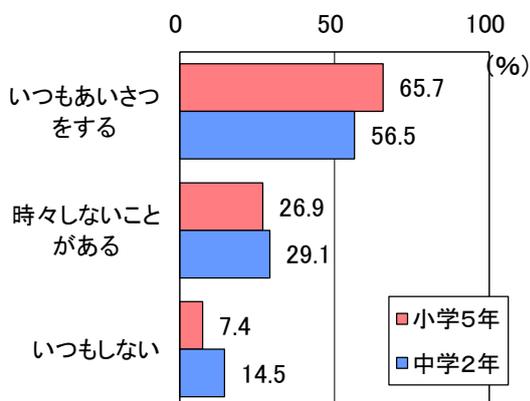
- ・「母親」が最も多く、次が「ひとりで作る」である。中学生になると「ひとりで作る」が多くなっている。



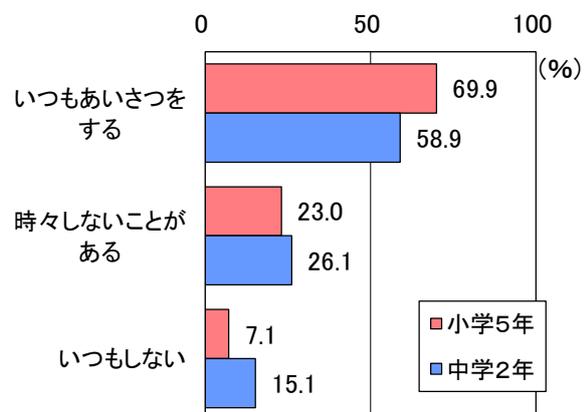
問18 あなたは、家で食事をするとき「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをしますか。1つえらんで○をつけてください。

- ・小中学生ともに半数以上の人「いつもあいさつをする」と回答しており、「いただきます」よりも「ごちそうさま」を言っている割合が若干上回っている。また、中学生になると「いつもしない」割合が増加していることがわかる。

(1) いただきます

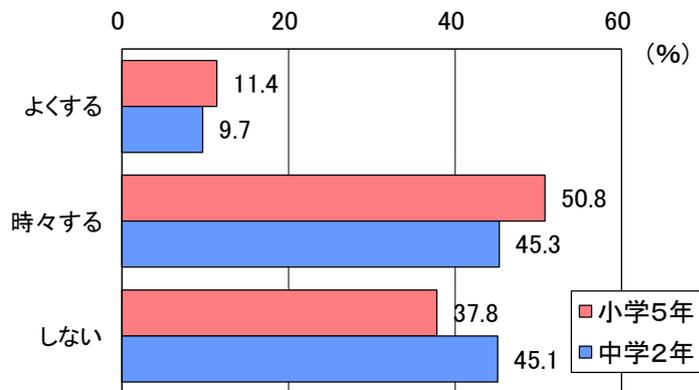


(2) ごちそうさま



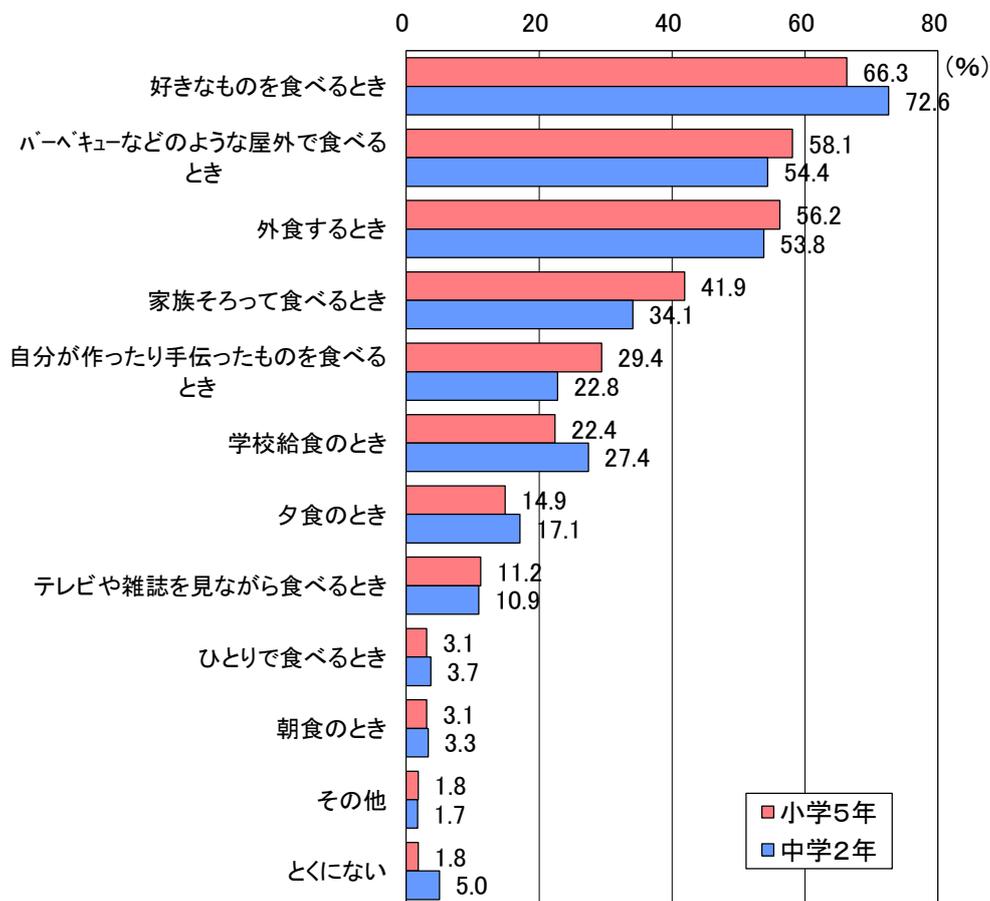
問 19 あなたは家族の人と、身体に良い食べ物や食べ方などについて、話しをすることがあります。1つえらんで○をつけてください。

- ・「時々する」が最も多いが、中学生になると「しない」が「時々する」とほぼ同率となっている。



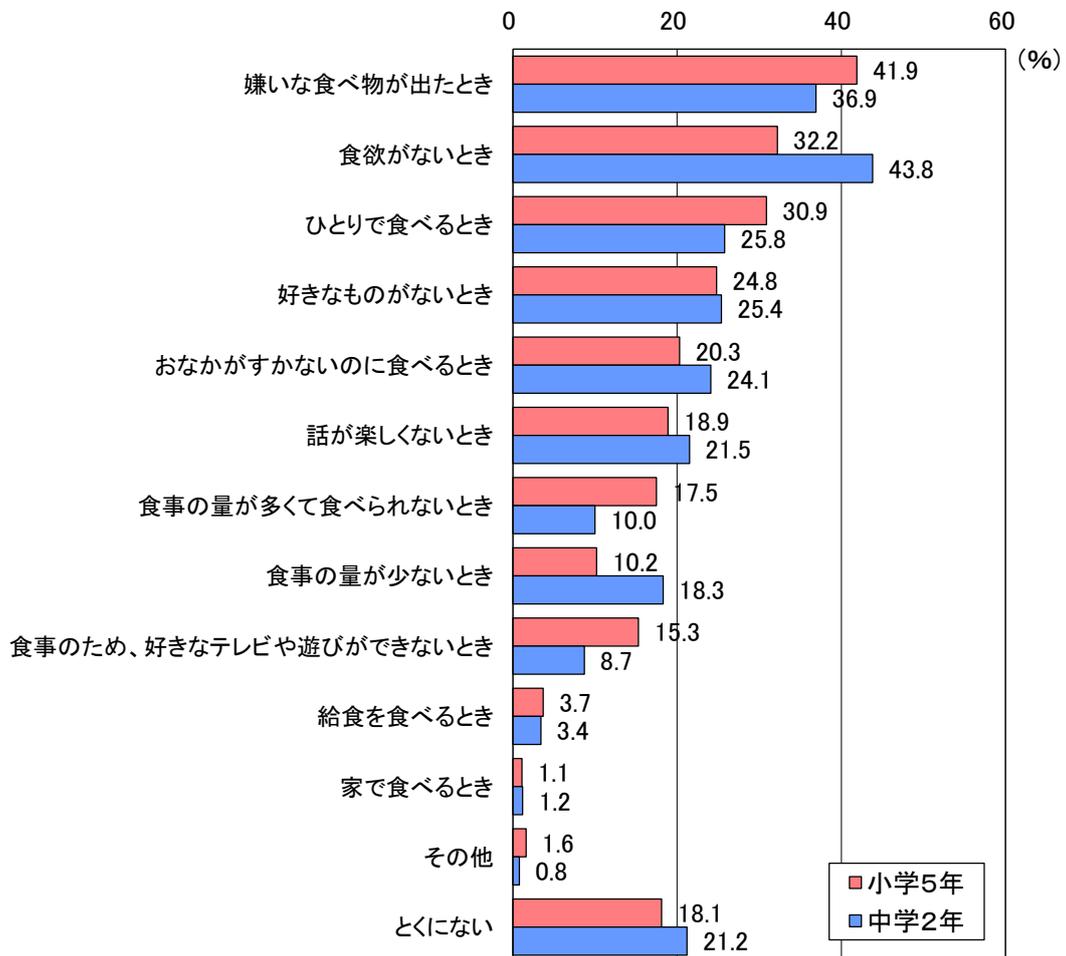
問 20 あなたが食事を楽しいと感じるときは、どんなときですか。3つまでえらんで○をつけてください。

- ・小中学生ともに「好きなものを食べる時」が最も多く、次に「バーベキューなどのような屋外で食べる時」「外食するとき」と続く。



問 21 あなたが、食事の時間がつまらないと思うときは、どんな理由ですか。3つまでえらんで○をつけてください。

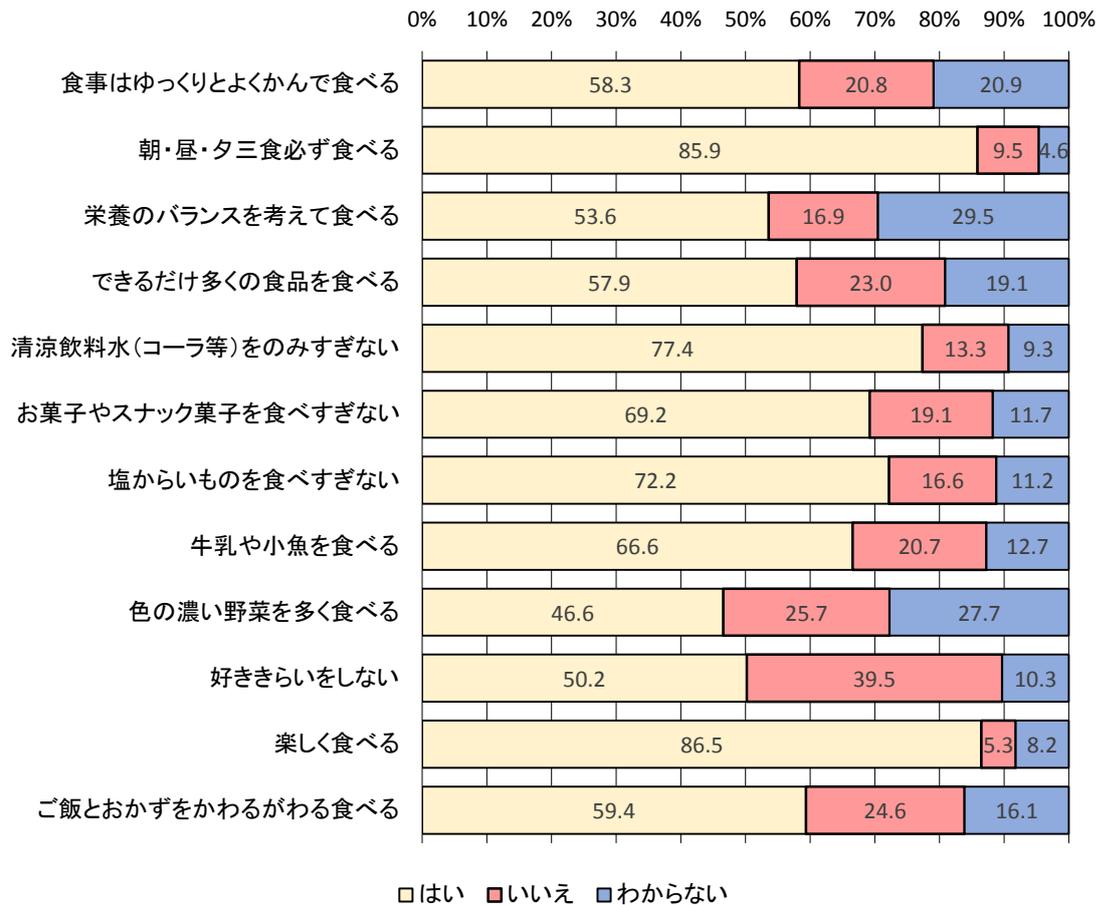
- ・小学生は「嫌いな食べ物が出たとき」、中学生は「食欲がないとき」が最も多くなっており、「ひとりで食べるとき」、「好きなものがないとき」が続いている。



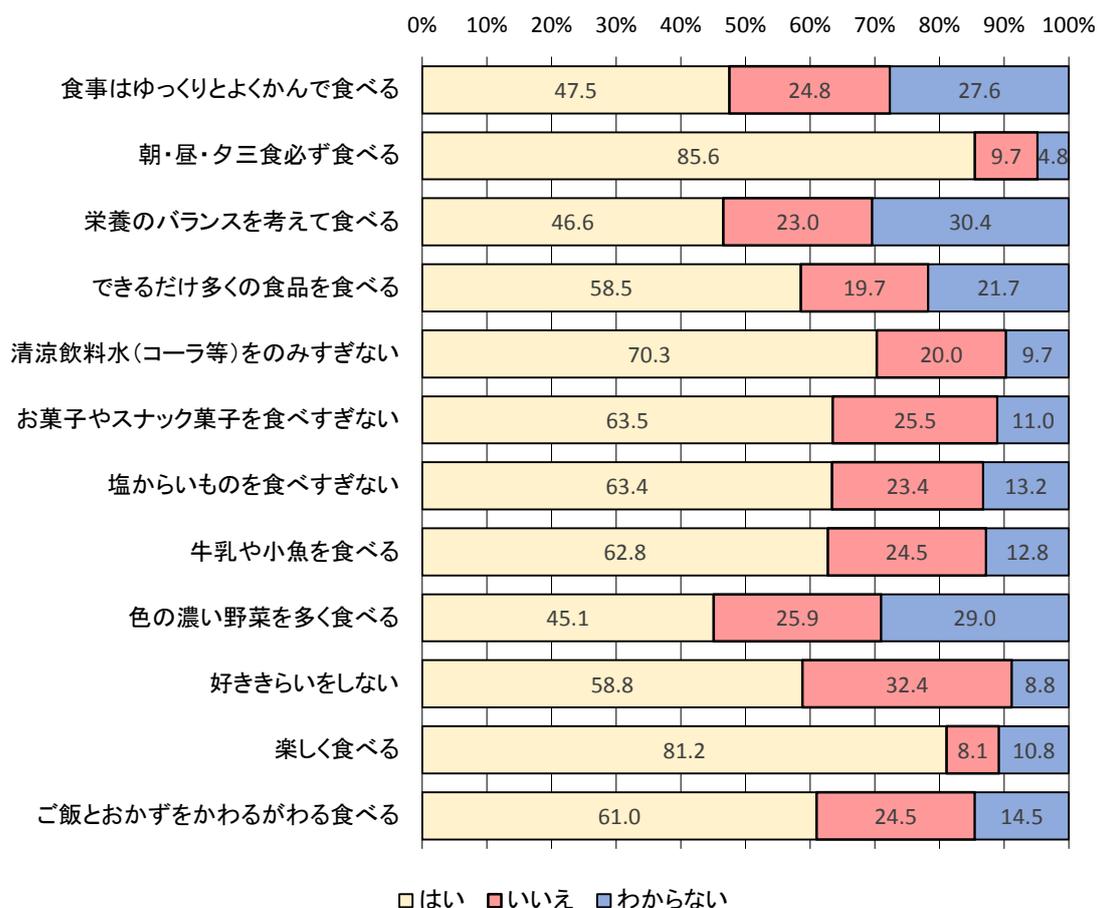
問 22 あなたは、次のようなことに気をつけて食事をしていますか。1から12までそれぞれあてはまる（ ）内に○をつけてください。

- ・小中学生ともに「朝・昼・夕三食必ず食べる」や「楽しく食べる」は「はい」の割合が高いが、「栄養のバランスを考えて食べる」や「色の濃い野菜を多く食べる」は「はい」の割合が低い。また、中学生は小学生と比べると食事の際にいろいろ気をつける割合が低くなっていることがわかる。

【小学生】

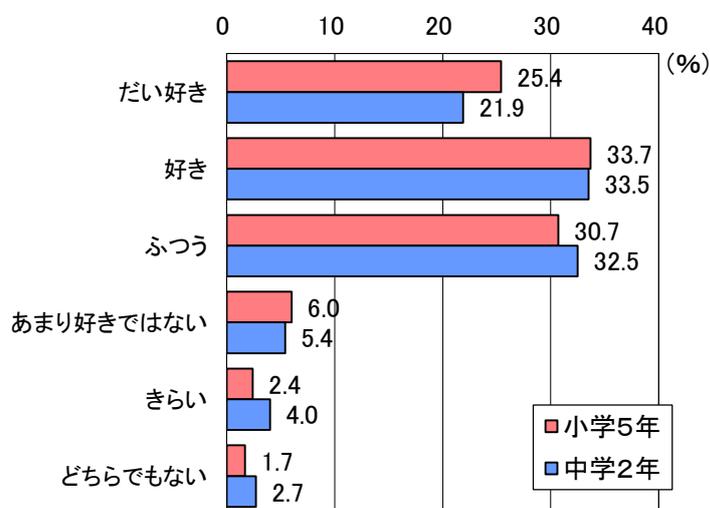


【中学生】



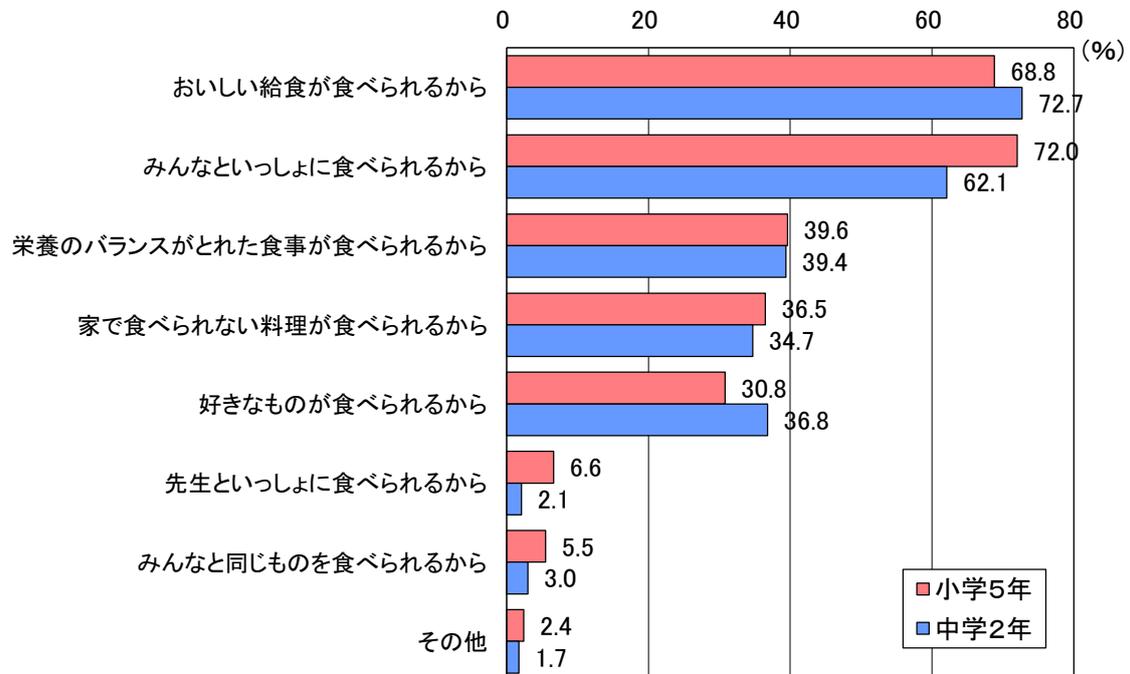
問 23 あなたは学校給食が好きですか。1つえらんで○をつけてください。

- ・小中学生ともに「好き」が最も多く、「だい好き」と「好き」を合わせると半数以上.4%が好きと回答している。



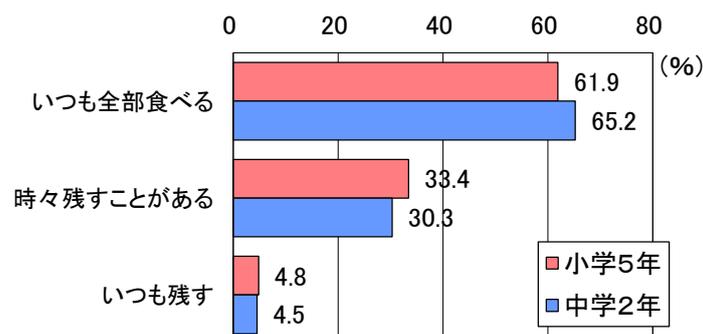
問 24 (問 23 で「1. だい好き」「2. 好き」と答えた人におたずねします。) 次の中からその理由を3つまでえらんで○をつけてください。

- ・小中学生とも「おいしい給食が食べられるから」「みんなといっしょに食べられるから」が多くなっている。



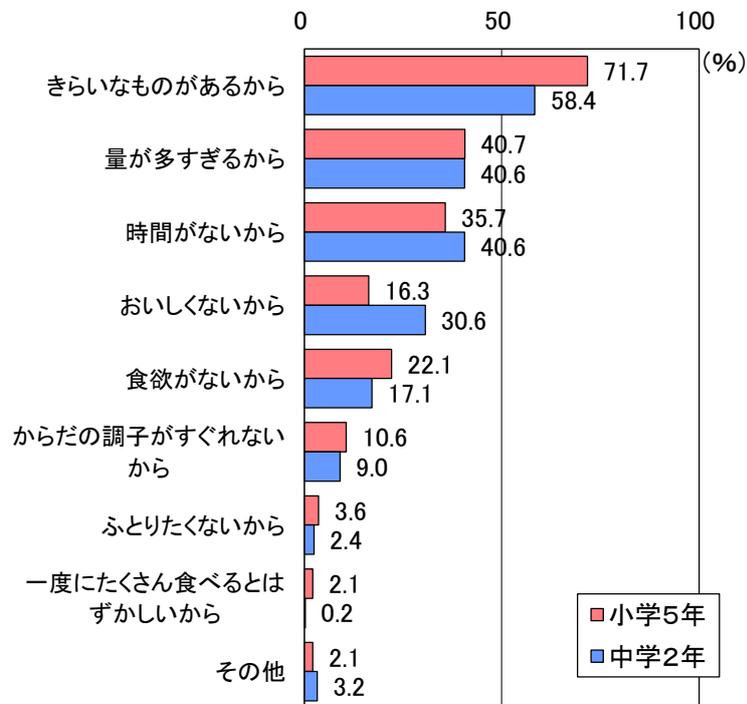
問 25 あなたは給食を残すことがありますか。1つえらんで○をつけてください。

- ・小中学生とも「いつも全部食べる」が半数以上で最も多い。



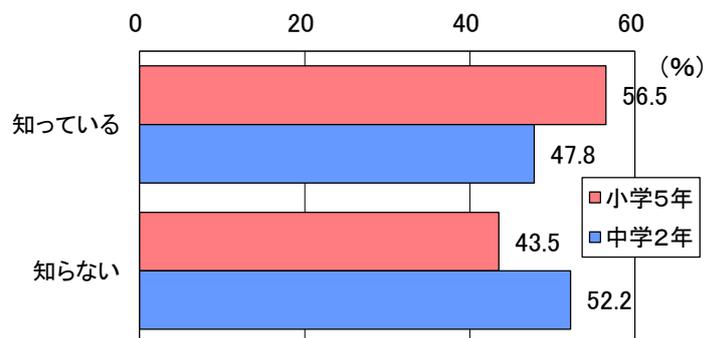
問 26 (問 25 で「2. 時々残すことがある」「3. いつも残す」と答えた人におたずねします。) 次の中からその理由を3つまでえらんで○をつけてください。

- ・「きれいなものがあるから」が最も多く、「量が多すぎるから」「時間がないから」が続いている。中学生になると「おいしくないから」と回答する人が増えていることがわかる。



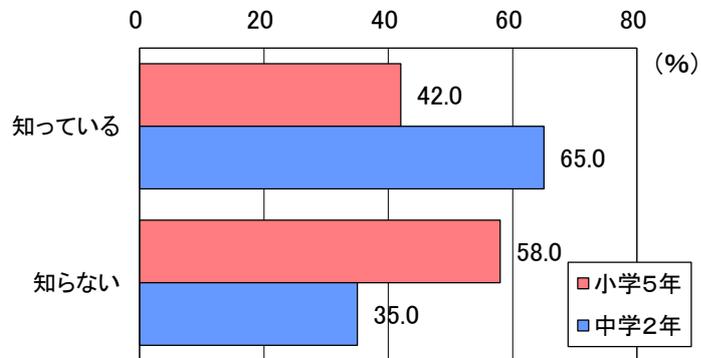
問 27 あなたは、今治の地場産物（有名な農産物や食品）を知っていますか。1つえらんで○をつけてください。また知っている場合は、具体的に書いてください。

- ・小学生は「知っている」が、中学生は「知らない」が多くなっている。



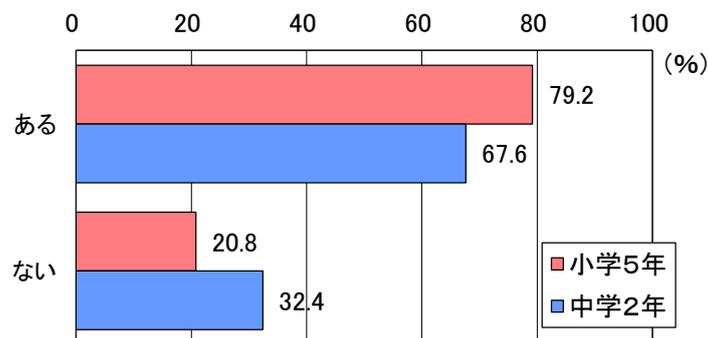
問 28 あなたは、今治の郷土料理（昔からある料理）を知っていますか。1つえらんで○をつけてください。また、知っている場合は、具体的に書いてください。

- ・問 27 の地場産物とは逆に小学生は「知らない」が、中学生は「知っている」が上回っている。



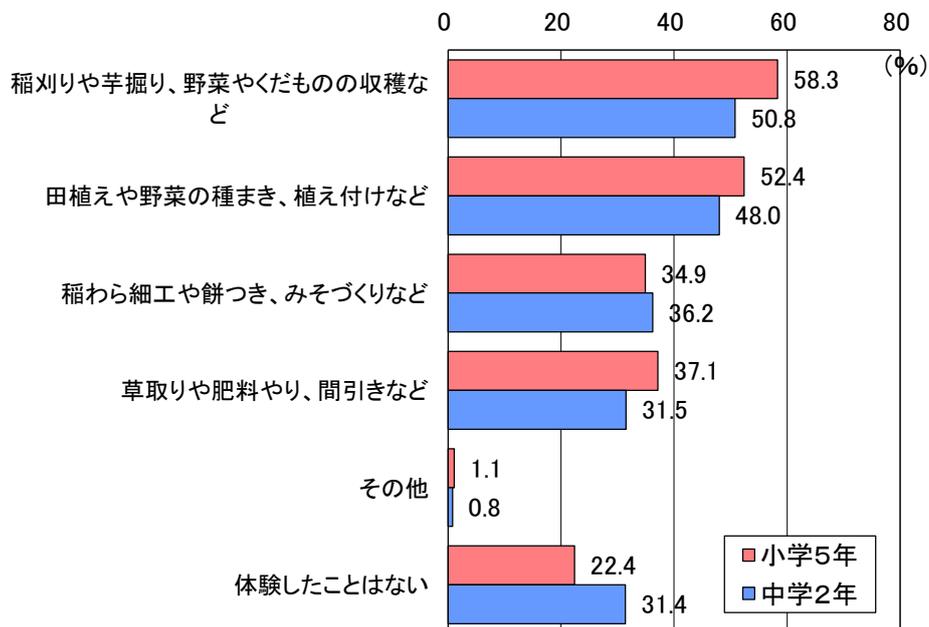
問 29 あなたは、食品の産地表示を見たことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- ・小中学生ともに「ある」が約7割を占めている。



問 30 学校の活動以外で、農業に関する体験をしたことはありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

・「稲刈りや芋掘り、野菜の収穫など」が最も多い。

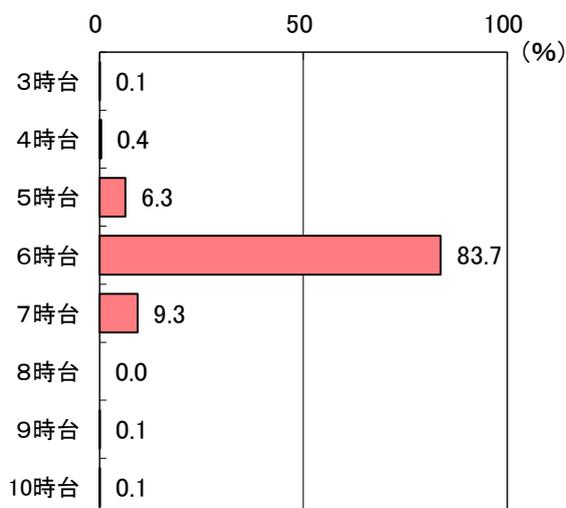


問 31 あなたは、学校に行く日の朝は何時ごろに起きますか。また、夜は何時ごろに寝ますか。() 内に記入してください。

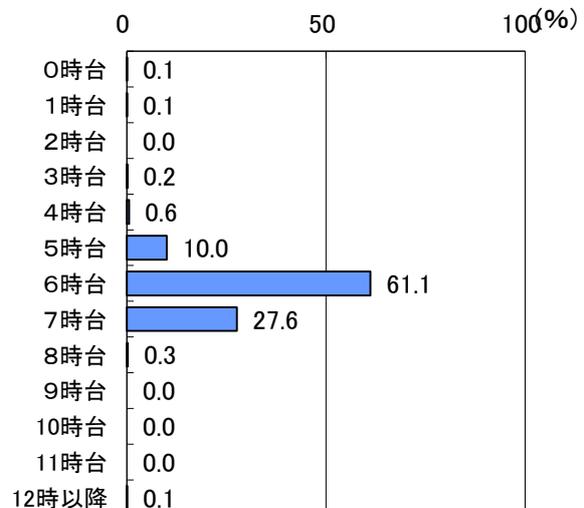
・朝起きる時間は小中学生ともに「6時台」が、夜寝る時間は小学生は「午後10時台」が、中学生は「午後11時台」が最も多い。

① 朝起きる時間

【小学生】

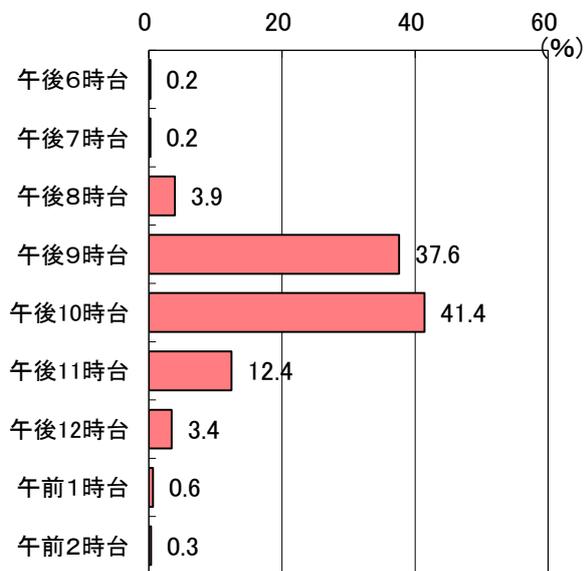


【中学生】

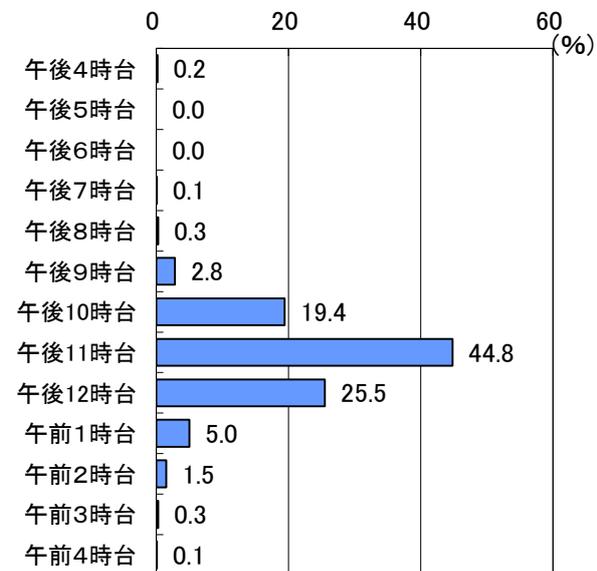


② 夜寝る時間

【小学生】

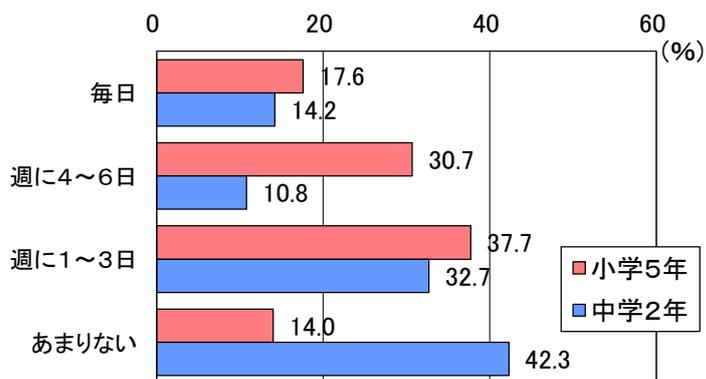


【中学生】



問 32 学校の体育やクラブ活動以外で、運動したり屋外で身体を使って遊んだりする機会は、どのくらいありますか（日曜日も含める）。1つえらんで○をつけてください。

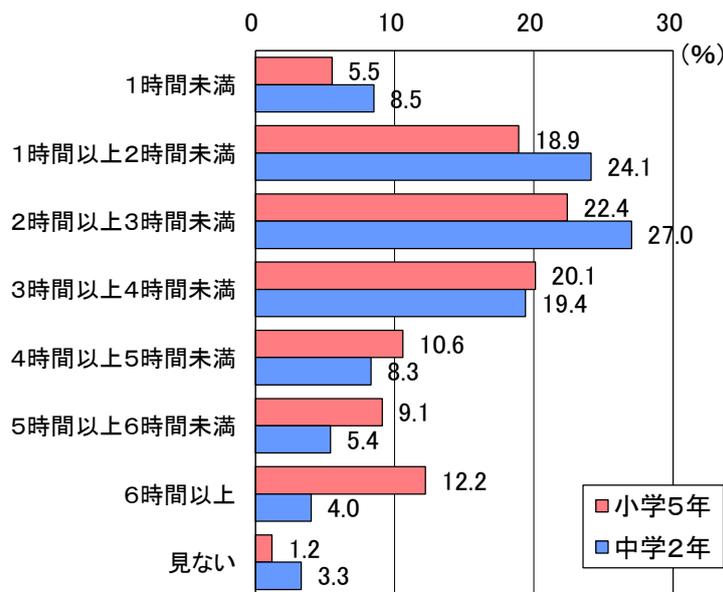
- ・小学生は「週に1～3日」が最も多く、次いで「週4～6日」となっている。中学生になると「あまりない」が増加し、最も多くなっている。



問 33 家でテレビを見たり、ゲーム、けい帯電話やパソコンなどを使ってメールやインターネットをする時間は、1日にどれくらいですか。() 内に記入してください。(しない人は0(ゼロ)を記入してください)

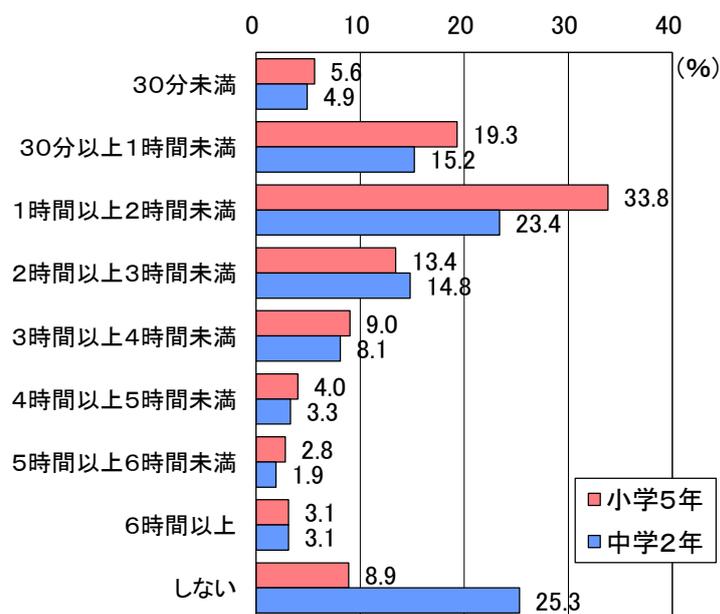
① テレビを見る時間

・「2時間以上3時間未満」及び「1時間以上2時間未満」「3時間以上4時間未満」が多い。小学生のほうが中学生よりも長時間テレビを見る割合が多いことがわかる。



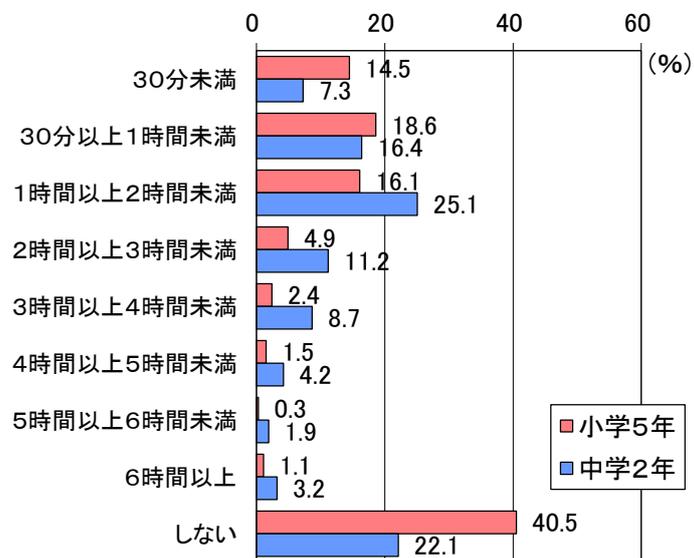
② ゲーム機やけい帯電話でゲームをする時間

・小学生は「1時間以上2時間未満」が最も多く、次が「30分以上1時間未満」である。中学生は「しない」が最も多く、次いで「1時間以上2時間未満」となっており、中学生になるとゲームをしなくなる生徒が増えていることがわかる。



③ けい帯電話やパソコンなどを使って、メールやインターネットをする時間

・小学生は「しない」が最も多く約4割がしないと回答している。中学生は「1時間以上2時間未満」が最も多く、「しない」と続いている。



今治市食育推進計画

平成29年 月

発行 今治市

〒794-8511 今治市別宮町1丁目4番地1

(電話番号 0898-36-1542 fax 番号 0898-32-5266)

編集 今治市農水港湾部農林振興課

E-mail nourin@imabari-city.jp

(無断転載・複製を禁じます。)